

大阪大学総合学術博物館 年報 2013

大阪大学総合学術博物館
The Museum of Osaka University

大阪大学総合学術博物館

年報 2013

はじめに

全国で大学博物館の新しい波がおきつつあります。京都の「京都・大学ミュージアム連携」に対して、大阪でも「かんさい・大学ミュージアムネットワーク」が結成され、活動を開始いたしました。そうした時代の流れを背景に本館も多彩な活動を展開しております。

展覧会では春季に、第16回企画展「オオサカがとんがっていた時代 ―戦後大坂の前衛美術 焼け跡から万博前夜まで―」を開催しました。当館創立10周年を記念して開催したシンポジウム「オオサカがとんがっていた時代 大阪のアヴァンギャルド芸術 ―焼け跡から万博前夜まで―」（2012年）と繋がる展覧会で、具体美術を中心に大阪ゆかりの美術グループの活動を紹介しました。豊中市の協力の他、学内から文学研究科や工学研究科等の支援もいただき、成果は大阪大学総合学術博物館叢書9『オオサカがとんがっていた時代 大阪のアヴァンギャルド芸術 ―焼け跡から万博前夜まで―』の刊行に結実しています。夏季のミニ企画展「日本にいた！ “絶滅”古生物 阪大博 × 化石ハンター × 古生物イラストレーター」では、当館の目玉展示の一つであるマチカネワニと恐竜を関連付けた展示を行い、多数の来場者を得ることができました。秋季には本学適塾記念センターや、緒方洪庵記念財団 除痘館記念資料室等の関係機関の支援を得て、適塾創設175周年・緒方洪庵没後150周年を記念した特別展「緒方洪庵・適塾と近世大坂の学知」を開催し、冬季は本学文学研究科と共催、文化庁の支援を受けて、企画展「野中古墳と「倭の五王」の時代」に貴重な考古資料を多数展示しました。

社会発信では、全国大学博物館等協議会、かんさい・大学ミュージアムネットワーク、北大阪ミュージアムネットワークの後援で、大阪商業大学商業史博物館と連携し、シンポジウム「大学博物館、街に出る これでもいいのか？ 大阪のミュージアム ―地域文化と学術研究の担い手を目指して―」を開催し、これからの大学博物館について議論を深める機会となり、教育普及では「サイエンスカフェ@待兼山」や、豊中市立中央公民館との「夏の小学生科学体験教室」、湯川記念室の「最先端の物理を高校生に Saturday Afternoon Physics 2013」も好評を博しました。

平成14年（2002）の発足以来、本館は「阪大スタイル」を誇る個性的な館としての社会への発信を目指してきました。時代の変化の中で博物館のあり方が大きな転機を迎えています。一層アクティブに地域交流型ミュージアムとして親しまれ、地域になくてはならない博物館を目指しますので、ご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2014年11月

大阪大学総合学術博物館長
橋爪 節也

目 次

1. 展覧会報告Ⅰ	5
大阪大学総合学術博物館 第16回企画展 オオサカがとんがっていた時代 - 戦後大阪の前衛美術 焼け跡から万博前夜まで -	
・ 概要	6
・ 報告 (大阪大学総合学術博物館 招へい准教授 加藤 瑞穂)	9
2. 展覧会報告Ⅱ	13
大阪大学総合学術博物館 2013年夏期ミニ企画展 日本にいた!“絶滅”古生物 - 阪大博×化石ハンター×古生物イラストレーター -	
・ 概要	14
・ 報告 (大阪大学総合学術博物館 研究支援推進員 伊藤 謙)	17
3. 展覧会報告Ⅲ	21
大阪大学総合学術博物館 第6回特別展 適塾創設175周年記念・緒方洪庵没後150年記念 緒方洪庵・適塾と近世大坂の学知	
・ 概要	22
・ 報告 (大阪大学適塾記念センター 准教授 廣川 和花)	25
4. 展覧会報告Ⅳ	29
文化庁/文化遺産地域活性化推進事業 大阪大学総合学術博物館 第17回企画展 野中古墳と「倭の五王」の時代	
・ 概要	30
・ 報告 (大阪大学総合学術博物館 特任講師 松永 和浩)	33
5. シンポジウム報告	37
大学博物館、街に出る これでいいのか? 大阪のミュージアム - 地域文化と学術研究の担い手を目指して -	
・ 概要	38
・ 報告 (大阪大学総合学術博物館 教授 橋爪 節也)	41
6. サイエンスカフェ@待兼山	44
・ 2013年度 前期 (カフェ No.108 ~ 112)	45
・ 2013年度 後期 (カフェ No.113 ~ 116)	45
7. 夏の小学生科学体験教室	48
・ 授業内容	49
8. 専任教員活動報告	51
総合学術博物館 研究・教育部	
・ 資料基礎研究系 准教授 高橋 京子	52
・ 資料先端研究系 教授 上田 貴洋	55
准教授 豊田 二郎	57
准教授 宮久保圭祐	58
・ 資料先端研究系 教授 橋爪 節也	59
助教 横田 洋	66
総合学術博物館 資料部	
特任講師 松永 和浩	67
9. 資料	69
・ 2013年度の主な活動一覧	70
・ 入館者数及びアンケート集計結果一覧	74
・ 団体見学一覧	84
・ 関連記事一覧	86
・ 寄贈図書一覧	90
・ 館内配置図	93

1. 展覧会報告 I

大阪大学総合学術博物館 第 16 回企画展

オオサカがとんがっていた時代 —戦後大阪の前衛美術 焼け跡から万博前夜まで—

概 要

大阪大学総合学術博物館 第16回企画展「オオサカがとんがっていた時代 一戦後大阪の前衛美術 焼け跡から万博前夜まで」を2013年4月27日(土)から7月6日(土)の間、大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館において開催した。

本展覧会では大阪を拠点として活動していた具体美術協会や他の美術グループの様々な試みについて取り上げ、展示を行った。豊中市共催で行われたワークショップの作品は豊中市の公共施設で展示され、他にも、バスツアーなどの関連イベントも実施された。

本展覧会の期間中の来場者は、4,882名と好評であった。

大阪大学総合学術博物館 第16回企画展

テーマ：「オオサカがとんがっていた時代

一戦後大阪の前衛美術 焼け跡から万博前夜まで」

期 間：2013年4月27日(土)～2013年7月6日(土)

会 場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階多目的ルーム

主 催：大阪大学総合学術博物館

共 催：豊中市・大阪大学大学院文学研究科・大阪大学大学院工学研究科

協 力：大阪大学 21世紀懐徳堂

入館者数：4,882人

ミュージアム・レクチャー

第49回 5月4日(土・祝)「作り手の論理 聴き手の楽しみ—昭和30年代の

大阪における芸術音楽について」来場者数：32人

上野 正章 氏 (大阪大学大学院文学研究科招へい研究員)

第50回 5月18日(土)「デザインと前衛芸術、その大阪での融合」来場者数：35人

竹内 幸絵 氏 (大阪市立大学非常勤講師・サントリーホールディングス)

第51回 5月25日(土)「移りゆく街に埋もれるアヴァンギャルドな表現力」

来場者数：34人

小浦 久子 氏 (大阪大学大学院工学研究科准教授)

「具体」関連企画

[トークA] 6月1日(土)「実験としての美術館 グタイピナコテカ」来場者数：53人

前川 強 氏 (作家・元具体会員) × 松谷 武判 氏 (作家・元具体会員)

[ワークショップA] 6月8日(土)「部分と全体」参加者数：17人

堀尾 貞治 氏 (作家・元具体会員)

[トークB] 6月22日(土)「グッゲンハイム美術館での Gutai」来場者数：65人

平井 章一 氏 (京都国立近代美術館情報資料室長・主任研究員)

× 加藤 瑞穂 (大阪大学総合学術博物館招へい准教授)

豊中市との共催企画

[ワークショップB-1] 5月11日(土)「〈豊中〉再発見」参加者数：10人

森口 ゆたか 氏 (造形作家)

[ワークショップB-2] 6月15日(土) 全2回

「つくって あそんで かんじる ダンボールトンネル迷路」参加者数：43人

大野 良平 氏 (美術家)

大阪大学総合学術博物館 第16回企画展

グタイピナコテカ前に集まった具体美術協会会員たち 1964年12月3日
Photo © The former members of the Gutai Art Association

オオサカがとん がっつていけた時代

—戦後大阪の前衛美術 焼け跡から万博前夜まで—

2013年4月27日(土)—7月6日(土)

午前10時30分～午後5時 日曜・祝日休館、ただし
4月28日(日)、5月3日(金・祝)、4日(土・祝)、5日(日・祝)
は開館、4月29日(月・祝)、5月6日(月・振替休)休館

主催:大阪大学総合学術博物館/共催:豊中市、大阪大学大学院文学
研究科、大阪大学大学院工学研究科/協力:大阪大学 21世紀懐徳堂

入場無料 ミュージアム・レクチャー:5月4日、18日、25日/「具体」関連企画トーク、
ワークショップ:6月11日、8日、22日/豊中市との共催企画 ワークショップ:
5月11日、6月15日 *いずれも午後2時～、ワークショップのみ事前申込必要

池田遊子個人展(大阪市立美術館)
左隣が池田遊子 1951年9月

新歌舞伎座(村野藤吾設計、1958年)
正面の一部

大阪大学総合学術 博物館待兼山修学館

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20

tel. 06-6850-6284 <http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

阪急宝塚線「石橋駅」下車 徒歩10分 *公共交通機関をご利用ください。

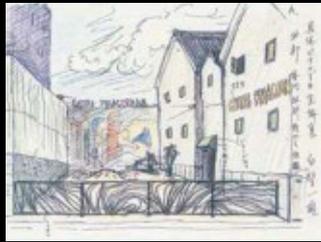
銅橋の頭も石橋口ビル(右手は旧フェスティバルホール、
壁面・建屋構造(牧神、合奏を楽しむの図)1958年)

戦後復興から高度成長期を迎え、大阪万博開催にいたる1950年代から60年代は、大阪がヴァイタリティに富んでいた時代でした。美術でも多彩な実験的活動が試みられ、従来の形式に収まらない表現や視点を提示しようとした様々なグループが生まれました。この時代の大阪のアートシーンを再検証することは、大きく変貌しつつある現代大阪の文化芸術の将来像を考えるうえでも重要といえるでしょう。

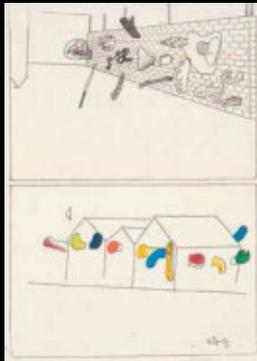
なかでも吉原治良（1905～1972年）をリーダーとして結成された具体美術協会（具体、1954～1972年）は、メンバーが次々と前例のない作品を発表し、海外の作家や批評家、コレクターと積極的な交流を深め

ました。1962年9月には、大阪市北区宗見町33（現在の大阪市北区中之島3丁目）にあった吉原所有の土蔵を改装し、具体の作品を常設展示できる施設「グタイピナコテカ」を開きます。

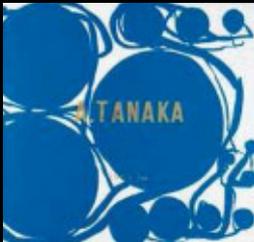
本展では、パンリアル美術協会、デモクラート美術家協会、生活美術連盟など、大阪ゆかりの美術グループを概観しながら、大阪大学発祥の地・中之島にかつて存在した「グタイピナコテカ」の活動に焦点を当てます。それと共に、デザイン、音楽、建築といった他の分野の動きや、都市とアートの関わりにも目を向け、1950～60年代に大阪で繰り広げられた先進的な動向を改めて振り返ります。



白髪一雄
「グタイピナコテカ外装アイデアスケッチ」
1962年頃



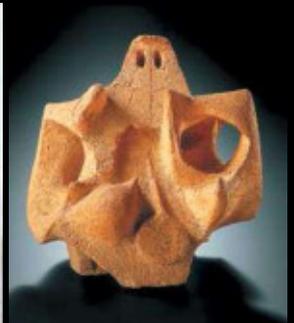
嶋本昭三
「グタイピナコテカ(外壁)アイデアスケッチ」
1962年頃



田中敦子個展
（グタイピナコテカ・大阪、1963年2月）
パンフレット



三上誠 《モニュマンと花》1957年



辻晋堂《猫の頭》1956年

大阪大学総合学術博物館 第16回企画展

オオサカがとんがっていた時代

—戦後大阪の前衛美術 焼け跡から万博前夜まで—

ミュージアム・レクチャー 各日午後2時～3時30分

- *3階セミナー室、定員60名、聴講無料、事前申込み不要、当日先着順、30分前より開場
- [第49回] 5月4日（土・祝）
「作り手の論理 聴き手の楽しみ—昭和30年代の大阪における芸術音楽について」
上野正章（大阪大学大学院文学研究科招へい研究員）
- [第50回] 5月18日（土）「デザインと前衛芸術、その大阪での融合」
竹内幸絵（大阪市立大学非常勤講師 / サントリーホールディングス）
- [第51回] 5月25日（土）「移りゆく街に埋もれるアヴァンギャルドな表現力」
小浦久子（大阪大学大学院工学研究科准教授）

「具体」関連企画

*トークは3階セミナー室、定員60名、聴講無料、事前申込み不要、当日先着順、30分前より開場

- [トークA] 6月1日（土）午後2時～3時30分
実験としての美術館 グタイピナコテカ 前川強（作家）×松谷武判（作家）
グタイピナコテカが具体にとってどのような意味を持っていたのか、その設立以前から具体美術展に出品し始め、その活動の展開を担ってきた元会員の方々と共に顧みます。

[ワークショップA] 6月8日（土）午後2時～4時（要申込）

部分と全体 堀尾貞治（作家・元具体会員）

ばらばらなものが一つにまとまったとき、思いがけない形と色が現れます。その楽しさと、視点を少し変えるだけで、同じものでも全く違うように見える驚きを体験します。

場所：3階セミナー室 対象：中学生以上 定員：20名 参加費：無料
申込期間：5月1日（水）～5月10日（金）

[トークB] 6月22日（土）午後2時～3時30分

グッゲンハイム美術館での Gutai

平井章一（京都国立近代美術館情報資料室長・主任研究員）×加藤瑞穂（当館招へい准教授）
今春開かれた北米で初となる「具体」の大規模な展覧会「具体・素晴らしい遊び場所」について、その開催に協力した立場から、報告を交えつつ同展を見直します。

豊中市との共催企画

[ワークショップB-1] 5月11日（土）午後2時～4時（要申込）

*会場の都合で5月11日に急きょ開催できなくなった場合、5月18日（土）に実施
《豊中》再発見 森口ゆたか（造形作家）

テレイドスコープ（ビー玉万華鏡）を組み立てているいろんな場所をながめ、ふだんとは全く違う風景を発見します。/場所：カトリック豊中教会（豊中市本町6-1-6）/対象：小学生（必ず保護者1人が同伴してください）/定員：10名/参加費：無料/申込期間：4月2日（火）～4月11日（木）

[ワークショップB-2] 6月15日（土）午後2時～4時（要申込）

つくって あそんで かんじる ダンボールトンネル迷路

大野良平（美術家）

ギャラリー内にダンボールを連結させ、トンネル迷路をつくります。/場所：豊中市立市民ギャラリー（阪急宝塚線・豊中駅南側高架下1階）/対象：小学生（保護者同伴可）/定員：30名/参加費：無料/申込期間：5月13日（月）～5月23日（木）

【ワークショップA、Bの申込方法】ワークショップ名、住所、氏名（同伴する保護者の氏名も含む）、電話番号、ワークショップBの場合は小学校名、学年を記入し、下記宛にご応募ください。往復はがき（返信はがきの表に住所、氏名を明記）、メール、豊中市役所文化芸術室（平日9:00～17:15）にて受付いたします。電話、FAXでの受付はいたしません。応募者多数の場合は抽選、当否の結果は別途お知らせいたします。

〒561-8501（住所不要）文化芸術室 ワークショップ担当

E-mail: bunka@city.toyonaka.osaka.jp 【お問い合わせ】文化芸術室 tel. 06-6858-2503



阪急宝塚線「石橋駅」
下車 徒歩10分
*公共交通機関をご利用ください。



大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館
〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20 tel. 06-6850-6284
http://www.museum.osaka-u.ac.jp/

報 告

大阪大学総合学術博物館 第16回企画展

「オオサカがとんがっていた時代 ―戦後大阪の前衛美術 焼け跡から万博前夜まで―」

大阪大学総合学術博物館
招へい准教授 加藤 瑞穂

本館では、これまで大阪の歴史に着目して、「城下町大阪」展（2007年度）、「東洋のマンチェスター」から「大大阪」へ ―経済でたどる近代大阪のあゆみ― 展（2008年度）、「昭和12年のモダン都市へ 観光映画「大大阪観光」の世界」展（2009年度）などを継続的に開催してきた。また、現在世界的に活躍する大阪の前衛劇団の維新派を取り上げた「維新派という現象「ろじ式」展（2009年度）、本学医学部出身で漫画家の手塚治虫の作品を考察した「阪大生・手塚治虫 ―医師か？ マンガ家か？―」展（2011年度）も、大阪の文化の先進性に焦点をあてた内容で、いずれも大阪の独自性を検証し、本学で展開する「大阪学」の体系化をめざす試みであった。

本展は、大阪の文化的特徴を浮かび上がらせるこうした展覧会の系譜に連なるものであり、この度は特に、大阪が戦後の混乱から復興しヴァイタリティに富んでいた時代、すなわち1950年代から60年代、主に美術ではどのような実験的活動が試みられていたか、その実像の一端を明らかにすることを目的とした。関西では戦後、従来の形式に収まらない表現や視点を実現しようとした美術グループが同時多発的に生まれた。そうしたグループの中でも、画家・吉原治良（1905～1972年）をリーダーとして結成された具体美術協会（具体、1954～1972年）は、吉原の指導のもと、もっとも長く旺盛な活動を展開した。メンバーは次々と前例のない作品を発表し、1962年9月には大阪市北区宗是町33（現在の大阪市北区中之島3丁目）にあった吉原所有の土蔵を改装して具体の作品を常設展示できる施設「グタイピナコテカ」（具体美術館）を開設するに至る。ここではメンバーによる定期的なグループ展に加えて、親交のあった海外作家たちの展覧会も多数開催し、1960年代半ばには「来日する世界の美術関係者、あるいは前衛芸術家たちの必ず訪れる名所の存在」となった。

会場は次の三つの章、具体以外の前衛グループを概観する第一章「それぞれのアヴァンギャルド ―戦前的大阪と昭和20年代の様々な動向―」、グタイピナコテカでの具体の活動に注目した第二章「中之島からの発信 ―グタイピナコテカ 1962 - 1970―」、美術以外のジャンルにも広がって行った前衛的な試みを紹介する第三章「都市への眼差し ―劇場ホール、モニュメント、現代音楽祭、バンパク、etc...」から成り立っていた。第一章と第三章は当館館長の橋爪節也、第二章は筆者の加藤がそれぞれ担当し、展示作品・資料の選定と会場

構成を行った。

第一章では、パンリアルの三上誠と下村良之介、デモクラート美術家協会の瑛九、泉茂、早川良雄、生活美術聯盟の池田遊子、極の河野芳夫らによる作品 10 点と資料約 20 点を展観し、複数のグループが併存していた大阪の状況を顧みた。また、1930 年代の前田藤四郎による作品・資料を含めることで、大阪では戦前からすでにジャンルの枠を超えた先鋭な芸術活動が存在していた点にも触れた。



展覧会第一章会場風景

第二章では、これまで未発表であった具体メンバーによるグタイピナコテカの構想スケッチ 15 点や、ジョルジュ・マチウ、サム・フランシス、ポール・ジェンキンス、ルチオ・フォンタナら海外作家による、実際にグタイピナコテカで展示された作品 11 点に加えて、メンバーのグタイピナコテカでの個展パンフレットすべてを含む関連印刷物、展覧会芳名録、グタイピナコテカ開館披露パーティの様相を記録した映像など約 60 点の資料、当時の記録写真約 50 点のパネルで、その精力的な活動内容を詳しく紹介した。



展覧会第二章会場風景

第三章では、斬新な表現が美術館にとどまらず、当時竣工したばかりの劇場の建築やその意匠、あるいは音楽祭を通して、都市空間にも出現していた状況を振り返った。村野藤吾による新歌舞伎座設計図面を初め、その棟飾りを手掛けた辻晋堂、フェスティバルホールの壁面レリーフを制作した建畠覚造、本町ビルディングのレリーフを担当した植木茂らによる 1950 年代の作品を、



展覧会第三章会場風景

建物の写真パネルと共に展観した。また大阪における前衛音楽の普及に大きな役割を果たした「大阪の秋」国際現代音楽祭などを取り上げ、会場では大阪出身の前衛的な作曲家・松下真一の音楽を流すなど、多岐にわたる作品と資料合わせて約 60 点で構成した。

三つの章立てを際立たせるために、会場壁面を章毎に黄、グレー、青に色分けし、展示空間が漫然とならないように配慮したことが、来館者にとって内容把握の助けとなり、展示の見やすさにつながったと考える。また以上の構成や内容については、前年の 11 月 25 日に大阪大学中之島センターで開催した大阪大学総合学術博物館創立 10 周年記念シンポジウム「大阪のアヴァンギャルド芸術 一焼け跡から万博前夜まで」で得られた成果や課題を反映したものである。

上記の展覧会趣旨を来場者により深く理解していただくために、会期中の土曜日に関連企画を多数準備した。まずミュージアム・レクチャーは、展覧会第三章の関連講座として音楽、デザイン、建築の専門家を講師に迎え、5 月 4 日は上野正章氏による「作り手の論理 聴き手の楽しみ—昭和 30 年代の大阪における芸術音楽について」、5 月 18 日は竹内幸絵氏による「デザインと前衛芸術、その大阪での融合」、5 月 25 日は小浦久子氏による「移りゆく街に埋もれるアヴァンギャルドな表現力」で、合計 3 回実施した。いずれの講義も多数のスライドを交えながら、展覧会では含められなかった資料についても紹介し、その時代背景を講師の視点から分析して将来を展望する内容であった。

また展覧会第二章の関連企画はトーク 2 回とワークショップ 1 回であった。トークとしては、6 月 1 日に元具体会員の前川強氏と松谷武判氏が、当時の作品や展覧会のスライドを使いながら、グタイピナコテカでの活動を顧み、その意義を語り合った対談「実験としての美術館 グタイピナコテカ」、6 月 22 日には、ちょうど本展と会期が一部重なっていたニューヨークのグッゲンハイム美術館での「具体：素晴らしい遊び場所」展について、共に同展の諮問委員であった平井章一氏と筆者が、報告を交えつつ同展を見直した「グッゲンハイム美術館での Gutai」を行った。ワークショップとしては、元具体会員の堀尾貞治氏の指導で、それぞれの参加者が描いた絵を一つに合体させる「部分と全体」を開催し、同じ対象であっても人によって見方が異なることを、驚きと共に参加者に実感してもらう場となった。

さらに豊中市との共催企画としてワークショップを 2 回、5 月 11 日に造形作家の森口ゆたか氏による「〈豊中〉再発見」、6 月 15 日に美術家の大野良平氏による「つくってあそんでかんじるダンボールトンネル迷



トーク「グッゲンハイム美術館での Gutai」の様子



ワークショップ「部分と全体」で制作されたマチカネワニの絵

路」を実施し、これまで継続的に行なってきた豊中市との連携事業を本展でも実現できた。

そして展覧会に合わせて大阪大学総合学術博物館叢書 9『戦後大阪のアヴァンギャルド芸術 一焼け跡から万博前夜まで一』を大阪大学出版会から発行したことも、本展の成果として挙げられる。展覧会の構成に準拠しつつも、展示会場の都合で割愛せざるを得なかった作品の図版を多数掲載し、ミュージアム・レクチャーで講師を務めた方々からも協力を得て、各章で重要なトピックに関するコラムや論考を収録した書物で、1950 - 60年代の大阪に関する、コンパクトでありながら有用性の高い解説書になったと考える。

以上のように、戦後大阪の文化を多角的に再検証し、関連企画および博物館叢書のそれぞれとも有機的に結びついた本展は、都市としての発信力の低下が指摘されて久しい大阪の文化芸術の将来像を考え直す上でも有意義であったにちがいない。

[注記]

本展覧会の一部は、平成 24 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金 基盤研究（C）課題番号 24520109）の助成を受けた研究成果である。

2. 展覧会報告Ⅱ

大阪大学総合学術博物館 2013 年夏期ミニ企画展

日本にいた！ “絶滅” 古生物

— 阪大博×化石ハンター×古生物イラストレーター —

概 要

大阪大学総合学術博物館 2013 年夏期ミニ企画展「日本にいた！“絶滅”古生物 ―阪大博×化石ハンター×古生物イラストレーター―」を 2013 年 7 月 20 日（土）から 8 月 31 日（土）の間、大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館において実施した。

昨年、当館では世界各地から貴重資料を集め、第 5 回特別展「巨大ワニと恐竜の世界」を開催し、好評を博した。今回はそのスピンオフ企画として、日本で発見された化石に焦点をあてたミニ企画展として開催した。また、本展覧会は春期・秋期の展覧会の間を埋める特集展示として初めての試みであり、若年層、特に小中学生のサイエンスへの興味を掻き立てるとともに大阪大学の魅力をアピールすることを目指し、展示を行った。

本展覧会の期間中の来場者は、3,377 名と好評であった。

大阪大学総合学術博物館 2013 年夏期ミニ企画展

テーマ：「日本にいた！“絶滅”古生物

―阪大博×化石ハンター×古生物イラストレーター―

期 間：2013 年 7 月 20 日（土）～ 2013 年 8 月 31 日（土）

会 場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3 階多目的ルーム

主 催：大阪大学総合学術博物館

協 力：北海道大学総合博物館・京都造形芸術大学・鹿児島大学理学部

大阪大学 21 世紀懐徳堂・和歌山県立自然史博物館・きしわだ自然資料館

パナソニック(株)・パナソニック出光 OLED 照明(株)・築地書館(株)

入館者数：3,377 人

ミュージアム・レクチャー

第 52 回 7 月 20 日（土）来場者：70 人

「化石発掘は楽しい：大物化石発掘の秘訣」

宇都宮 聡 氏（化石ハンター・パナソニック(株)）

「古生物イラスト作成裏話」

川崎 悟司 氏（古生物イラストレーター）

第 53 回 7 月 27 日（土）「大阪にもいた大きな古生物たち」来場者数：50 人

渡辺 克典 氏（きしわだ自然資料館専門員）

第 54 回 8 月 10 日（土）「モササウルス化石の発掘記」来場者数：60 人

小原 正顕 氏（和歌山県立自然史博物館学芸員）

第 55 回 8 月 17 日（土）「化石由来生薬『竜骨』研究の最前線：資源の保護と活用」

来場者：39 人

高橋 京子（大阪大学総合学術博物館准教授）

第 56 回 8 月 24 日（土）「マチカネワニの深まる謎」来場者：40 人

江口 太郎 氏（大阪大学理事・副学長・前大阪大学総合学術博物館長）

第 57 回 8 月 26 日（月）「フィールドと最新恐竜研究～恐竜発掘の現場から」

来場者：46 人

小林 快次（大阪大学総合学術博物館招へい准教授・北海道大学総合学術博物館准教授）

第 58 回 8 月 31 日（土）「奇石と古生物：化石今昔物語」来場者：40 人

伊藤 謙（大阪大学総合学術博物館研究支援推進員）

日本にいた！ “絶滅” 古生物

阪大博×化石ハンター×古生物イラストレーター



イラスト・川崎悟司

大阪大学総合学術博物館 2013 年夏期ミニ企画展

7月20日(土) ~ 8月31日(土)

午前10時30分~午後5時 日曜・祝日休館 入館無料

大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20 Tel.06-6850-6284 <http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>
阪急宝塚線「石橋駅」下車 徒歩10分 *公共交通機関をご利用ください。

主催 大阪大学総合学術博物館
協力 北海道大学総合博物館、京都造形芸術大学、鹿児島大学理学部、大阪大学21世紀懐徳堂
和歌山県立自然博物館、きしわだ自然資料館
パナソニック(株)、パナソニック出光OLED照明(株)、築地書館(株)

日本にいた!“絶滅”古生物

阪大博 × 化石ハンター × 古生物イラストレーター

in 阪大博物館



サツマウツノミヤリュウ顎化石 (鹿児島大学理学部蔵)



イラスト・川崎悟司
サツマウツノミヤリュウ

ここ大阪の地では、本学所蔵のマチカネワニ (*Toyotamaphimeia machikanensis*) を始め、国内で初めて報告されたモササウルス類 (*Prognathodon* 近縁種) の化石が発掘されている。それらの発見には大阪在住の化石研究家が深くかかわっていた。本ミニ企画展では、「国内最大級の獣脚類の歯化石」「九州初発見のクビナガリュウ (サツマウツノミヤリュウ) の顎化石」や「モササウルス類の顎化石」など、国内で発見された話題性の高い大型脊椎動物の実物化石を中心に展示する。同時に、絶滅古生物たちの魅力ある復元画を展示することで、来場者のイメージネーションを刺激する。

■ミュージアム・レクチャー

各日午前 11:00 ~ 12:00

3階セミナー室、定員60名、聴講無料、事前申込み不要、当日先着順、30分前より開場

- 第52回 「化石発掘は楽しい：大物化石発掘の秘訣」
7月20日(土) 宇都宮聡 (化石ハンター、パナソニック株)
「古生物イラスト作成裏話」
川崎悟司 (古生物イラストレーター)
- 第53回 「大阪にもいた大きな古生物たち」
7月27日(土) 渡辺克典 (きしわだ自然資料館専門員)
- 第54回 「モササウルス化石の発掘記」
8月10日(土) 小原正顕 (和歌山県立自然博物館学芸員)
- 第55回 「化石由来生薬『竜骨』研究の最前線」
8月17日(土) :資源の保護と活用
高橋京子 (大阪大学総合学術博物館准教授)
- 第56回 「マチカネワニの深まる謎」
8月24日(土) 江口太郎 (大阪大学理事・副学長、
前大阪大学総合学術博物館長)

- 第57回 「フィールドと最新恐竜研究～恐竜発掘の現場から」
8月26日(月) 小林快次 (大阪大学総合学術博物館招へい准教授、
北海道大学総合博物館准教授)

- 第58回 「奇石と古生物：化石今昔物語」
8月31日(土) 伊藤謙 (大阪大学総合学術博物館研究支援推進員)

■関連ミニ展示

※当館併設カフェ「坂」にて、展示

■MOUコレクション —奇石の世界—

鉱物性生薬『竜骨』関連標本展示

■関連屋外展示

■リプロダクション × アート【再現芸術】 (恐竜の足跡復元)

- 柴田純生 (京都造形芸術大学教授)
- 大塚文子 (京都造形芸術大学 通信教育部
空間演出デザインコース卒業)
- 山田万秀 (京都造形芸術大学 立体造形コース在籍)



大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町 1-20
Tel.06-6850-6284 <http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>
阪急宝塚線「石橋駅」下車 徒歩10分 * 公共交通機関をご利用ください。



報 告

大阪大学総合学術博物館 2013年夏期ミニ企画展

「日本にいた！ “絶滅” 古生物 一阪大博×化石ハンター×古生物イラストレーター―」

大阪大学総合学術博物館
研究支援推進員 伊藤 謙

大阪大学のある大阪の地では、大阪大学所蔵のマチカネワニ (*Toyotamaphimeia machikanensis*) を始め、国内初報告のモササウルス類 (*Prognathodon* 近縁種) の化石が発掘されている。それらの発見には大阪在住の化石研究家が深くかかわっていた。本ミニ企画展では、「国内最大級の獣脚類の歯化石」や「モササウルス類の顎化石」など、国内で発見された話題性の高い大型脊椎動物の実物化石を中心に展示した。

特に、こだわったのは日本で産出した化石のみを展示した事である。通常、化石・恐竜展というとき多くの場合、外国産の一目見てインパクトのある標本が陳列されることが多い。子供たちは恐竜が大好きであるが、彼らの頭の中にはテレビやゲームで人気のキャラクターと恐竜たちは同じカテゴリーでくくられている気がする。なぜなら、展示されている化石たちは、遠い外国のものが主であって日本でみつからないもののように感じられるからだと思う。筆者は、小学生のころから化石を採集してきたことから、日本産の化石が展覧会であまり展示されないことに昔から違和感を覚えてきた。確かに日本の化石達は、外国のそれと比較して、色彩も黒色が多く地味であり、完全性も低いものが多い。しかし、日本産のものにも見るべきものは多くある。このあたりの筆者の考えは、報道関係者には興味深く映ったようで、新聞記事にも取り上げて頂いた (共同通信配信 2013年07月20日)。



共同通信社配信の新聞記事

さて、日本発見の特筆すべき化石発見の事例として、最初に挙げられるのが、大阪大学所蔵のマチカネワニ化石である。本化石は、大阪大学のマスコット、そして当館のシンボルとなるほどに親しまれている標本である。注目すべきは、日本初発見のワニ類の全身骨格化石であり、“マチカネワニ” という種のワニのホロタイプ標本として世界のワニ研究者の間で知らないものはいないことである。こんな素晴らしい標本であるのだが、発見したのは専門家や研究者ではなく、当時予備校生であったアマチュア化石採集家だったのである。

このような事例は、古生物研究の世界では数多く存在する。しかし、それらアマチュア化石採集家にスポットがあたることが今までほとんどなかった。今回の展覧会では、アマチュア化石採集家として広く知られる、化石ハンター・宇都宮聡氏の全面的な協力を得て、彼の発見した化石群の中でも選りすぐりの化石をお借りして展示に供した。氏は、パナソニック株式会社 エコソリューションズ社の第一線で、国内外で活躍する人物でありなが

ら、高校生のころから古生物採集を愛好してきた。彼の発見は、シルル紀の新種のサンゴ化石（学名：シリンドポラ・ウツノミヤイ）、鹿児島県獅子島での長頸竜（いわゆる首長竜）・サツマウツノミヤリュウ化石、石川県白山市での国内最大級の獣脚類の歯化石など数多くあり、それらの多くを展示にお貸し頂いた。本展開催を機に、氏は鹿児島大学大学院理工学研究科博士前期課程に入学し、サツマウツノミヤリュウ化石の発掘を指揮した仲谷英夫教授の指導のもと、会社業務の合間を縫って自らが発見したサツマウツノミヤリュウ化石の記載に取り組んでいる。

さらに、幼少のころからアマチュア採集家として活躍し、現在はプロとして活躍する研究者の業績にも焦点をあてた。和歌山県立自然博物館の小原正顕学芸員は、幼少時から共に化石採集を行う筆者の化石仲間の一人であり、現在は海棲大型爬虫類「滄竜」（そうりゅう＝モササウルス類）の全身骨格化石の発掘・クリーニングを担当している。約 7500 万年前の白亜紀後期の地層から発見された本化石は、東アジアで最高レベルの保存状態を誇るモササウルス化石であり、復元すると 7 メートル近くにもなると考えられる。氏は 8 年以上にわたり、この化石の発掘時から関わってきた。その成果の一部である実物標本、産状レプリカや発掘風景を展示し、来館者から好評を博した。



展示会場の様子。化石と共にイラストを展示した。

また、会場で観客の目を惹いたのは、所狭しに壁に配置された、古生物イラストレーター・川崎悟司氏の書き下ろしの美しいイラスト群である。氏は、学術情報に基づいた復元を行うだけでなく、見る者に親しみやすいイラストを描くことを信条にしている。化石と共に配置された氏のイラストは、多くの来館者の古生物へのイメージネーションをかき立てた様で、常設展にとの要望も聞かれたほどであった。さらに、世界を代表する模型会社で

ある株式会社海洋堂のアーティスト・古田悟郎氏の制作した陸上にいる状態のマチカネワニ模型も、期間中に展示された。氏は、チョコエッグ®などの大ヒット商品を手掛けた実績をもつ生物復元の第一人者であり、そのリアルな造作の模型を来館者は食い入るように眺めていた。

加えて、展覧会とミュージアムカフェ“坂”とを繋げる展示として、筆者の研究領域でもある「奇石」に関する展示「MOU コレクション—奇石の世界—」そして京都造形芸術大学の柴田純生教授にご協力を頂いた「リプロダクション × アート —再現芸術—（恐竜の足跡復元）」を企画した。

前者は、江戸時代の「石」にまつわる研究を紹介した。江戸時代中期の大坂は、大阪大学の精神的源流ともなる懐徳堂に代表される多くの学びの場がせめぎあう地であった。代表的な文化人として「なにわの知の巨人」として知られる木村蒹葭堂がおり、その津島塾での同門に「石の長者」と呼ばれた本草学者木内石亭（1725-1808）がいた。石亭は“奇石”（現在でいう化



展示「MOU コレクション—奇石の世界—」展示の様子。

石・鉱物・石器など)を生涯に二千種類以上収集したとされ、集大成として石の本草書『雲根志』を執筆している。奇石収集は庶民にまで浸透したが、明治時代、西洋文明の導入とともに科学性に乏しいものとして忘れ去られた。しかし、昭和になり、正倉院石葉の研究で知られ、大阪大学講師も務めた益富寿之助博士らの研究と啓発活動により、奇石はその魅力を甦らせることとなる。展覧会会場とミュージアムカフェの一画で、石に魅了された石亭の業績の一端を大阪大学総合学術博物館 (MOU: The Museum of Osaka University) 所蔵 (おもに同理学研究科より寄贈) および同薬学研究科より寄託された化石・鉱物標本を中心に再現した。展覧会とカフェとを繋げる展示は、当博物館では初めての試みであり、来館者がコーヒーを片手にカフェでも展示物を楽しむ光景が見られた。

後者は、展覧会で実物が展示された石川県白山市で発見された国内最大級の獣脚類の歯化石 (カルカロドントサウルス類に近い種のものと考えられる。) から想定される大きさの樹脂製のカラフルな足跡をカフェ前の庭に展示した。制作は、京都造形芸術大学の柴田純生教授の指導のもと、当館元事務の大塚文子氏、京都造形芸術大学の学生・山田万秀氏が担当した。巨大な足跡が中庭に連なる光景に、多くの親子連れが足をとめ、自分の足の大きさと比べる姿が見られた。

さらに、本展覧会では個人や大学・研究機関の協力だけでなく、企業の協力も受けて行った。展覧会の冊子は、築地書館株式会社から印刷物として発行し、編集なども含めて全面的にご協力頂いた。また、パナソニック株式会社からは、最新の照明技術である有機EL照明



有機EL照明を用いた展示(写真奥)

(Organic Electro-Luminescence Lighting) の技術提供を受けた。有機EL照明は、次世代照明を担うと言われる新技術であり、LED照明と比較して、「面発光」や「形状に制約がない」「透明である」点でアドバンテージがある。本展覧会は、世界で初めて古生物標本の展示へ、有機EL照明を導入した事例となった。

また毎日新聞ローカル マチゴト編集部および大阪大学学生サークル・石橋×阪大の協力を得て、古生物イラストレーター・川崎悟司氏によるワークショップ「かんたん！恐竜イラスト教室」を8月13日に開催した。川崎氏を講師に招き、簡単に、しかし学術的にも正しい恐竜のイラストの描き方を学ぶという趣旨のこのイベントは告知直後に定員の20名を上回る人気であり、当日は集まった21人の子どもたちにティラノサウルスの描き方を教えた、そして後半にはサツマウツノミヤリュウなどを発見した化石ハンター・宇都宮聡氏、当館からは筆者を交え、子どもたちから寄せられた恐竜や化石についての質問に答えた。さらにマチゴトでは開幕前から告知などを通じ、展覧会を盛り上げて頂いた。この場を借りて感謝申し上げる。

最後に、本展覧会では3,377人(1日平均91人)の来館実績を上げることができ、本館において夏期展示を行うことの重要性が示された事例となったことを付け加えておく。

3. 展覧会報告Ⅲ

大阪大学総合学術博物館 第6回特別展
適塾創設175周年記念・緒方洪庵没後150年記念

緒方洪庵・適塾と近世大坂の学知

概要

大阪大学総合学術博物館 第6回特別展「緒方洪庵・適塾と近世大坂の学知」を2013年10月29日(火)から12月27日(金)の間、大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館において開催した。

2013年は、江戸時代後期に大坂で活躍した医師・蘭学者である緒方洪庵が1863年(文久3)に没して150年、1838年(天保9)に洪庵が大坂瓦町に適塾を開いてから175年となる節目の年であった。これを記念して開催された本展では、洪庵と適塾に関する重要資料の網羅的な展示に加え、洪庵と適塾を育んだ近世大坂地域の人と学問にも焦点を当てた。さらに近年の寄贈資料の中から、蘭学とも関わりの深い洋風画と書蹟の名品を展示した。展示に際しては、緒方洪庵記念財団除痘館記念資料室や緒方家のご子孫の方々など、多くの機関・個人からのご協力をいただき、適塾に関する主要な資料が一堂に会する貴重な機会となった。

なお本展覧会の期間中の来場者は3,763名であった。

大阪大学総合学術博物館 第6回特別展

適塾創設175周年記念・緒方洪庵没後150年記念

テーマ：「緒方洪庵・適塾と近世大坂の学知」

期 間：2013年10月29日(火)～2013年12月27日(金)

会 場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階多目的ルーム
大阪大学会館 3階歴史展示室※2013年11月29日(金)迄

主 催：大阪大学総合学術博物館・大阪大学適塾記念センター

協 力：緒方洪庵記念財団 除痘記念資料室・大阪大学21世紀懐徳堂

後 援：読売新聞大阪本社

入館者数：3,763人

ミュージアム・レクチャー

第59回 11月2日(土)「蘭学と洋風画―石川大浪をめぐって―」来場者数：22人
勝盛 典子 氏(神戸市立博物館学芸員)

第60回 12月7日(土)「ロシア使節プチャーチンの来航と大坂・下田」
来場者数：60人
西澤 美穂子 氏(専修大学・鶴見大学非常勤講師)

【関連イベント】適塾記念講演会

12月14日(土)「大坂洋学事始―その萌芽と成熟」来場者数：190人

【講演】「大坂・京都のキリシタン―キリスト教受容と知的交流―」

岡 美穂子 氏(東京大学史料編纂所助教)

【講演】『緒方洪庵の薬箱』由来生薬の本草学的意義と東西融合医療」

高橋 京子(大阪大学総合学術博物館准教授)

〈司会〉古川 大輔 氏(大阪大学大学院言語文化研究科准教授)

会 場：大阪大学会館講堂

主 催：大阪大学適塾記念センター

大阪大学総合学術博物館第6回特別展

適塾創設175周年記念

緒方洪庵没後150年記念

緒方洪庵・適塾と近世大坂の学知

大阪大学総合学術博物館第6回特別展 適塾創設175周年記念 緒方洪庵没後150年記念 緒方洪庵肖像 (1850年) 緒方洪庵 病学通論 (1849年) 緒方洪庵 刀架煙草盒 石川大浪画 西方醫祖必父像 (1800年) 天保五年甲辰夏 姓名録 適々齋塾姓名録 緒方洪庵 病学通論 (1849年) 緒方洪庵 刀架煙草盒 石川大浪画 西方醫祖必父像 (1800年) 天保五年甲辰夏 姓名録 適々齋塾姓名録



緒方洪庵肖像 (1850年)



緒方洪庵 病学通論 (1849年)

緒方洪庵 刀架煙草盒

石川大浪画 西方醫祖必父像 (1800年)

適々齋塾姓名録

2013年 10月29日(火)~12月27日(金)

開館時間 10:30~17:00 ※日祝休館、ただし11月3日(日)、11月4日(月・休)は開館

大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館

阪急宝塚線「石橋駅」下車、徒歩10分 ※公共交通機関をご利用ください。

入場無料

主催：大阪大学総合学術博物館・大阪大学適塾記念センター
協力：緒方洪庵記念財団 除痘館記念資料室・大阪大学21世紀懐徳堂
後援：読売新聞大阪本社

大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館
〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20 Tel.06-6850-6284
<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>



大阪大学 適塾記念

緒方洪庵・適塾と近世大坂の学知

本年、2013年は、江戸時代後期に大坂で活躍した医師・蘭学者である緒方洪庵(1810-1863)が1863年(文久3)に没して150年、1838年(天保9)に洪庵が大坂瓦町に適塾を開いてから175年の節目の年です。蘭学塾として隆盛を誇った適塾は、1845年(弘化2)に瓦町から過書町へ移転、拡張しました。これが、大阪府中央区北浜に現存する史跡・重要文化財 適塾であり、現在は大阪大学が管理しています。洪庵はここで診療に励みつつ蘭医学を研究、数々の著訳書を生み出し、天然痘やコレラ対策にも尽力する中で、塾生の教育に当たりました。

本展覧会では、洪庵と適塾に関する重要資料はもちろん、これを育んだ個性に富む近世大坂地域の人と学問にもスポットを当てます。また、財団法人緒方医学化学研究所より寄贈を受けた貴重資料の中から、洪庵の生きた時代と関わりの深い洋風画と書蹟の名品を出品します。洪庵と適塾の歴史をひもとくことで、連綿と続く大坂の学知を継承し、発展させてゆくための礎とすることができれば幸いです。

【展示構成】

(I) 緒方洪庵の学問形成

- ・師、中天游と坪井信道
- ・洪庵の学問的業績

(II) 近世大坂の学知と適塾

- ・近世大坂に花開いたさまざまな人と学問
- ・当代随一、大坂の医学塾—適塾と合水堂

(III) 西洋医学の導入と蘭画

- ・西洋医学と蘭画—ヒポクラテス賛美の流行

【主な展示資料】

緒方洪庵関連

緒方洪庵落款(個人蔵)、洪庵書軸「医祖賛」
洪庵和歌短冊貼交屏風、洪庵肖像画
洪庵自筆書状(初公開含む)、洪庵の著訳書など

適塾関連

適塾「姓名録」(日本学士院所蔵)の「里帰り」
ゾーフ・ハルマ写本、適塾塾生等級別名簿、橋本左内漢詩など

近世大坂関連

華岡青洲肖像、華岡門人録(個人蔵)
大坂の医師番付類(大阪市史編纂所蔵)

蘭画とヒポクラテス賛美

石川大浪詩画軸「西方醫祖必父像」*1、
桂川甫賢画軸「ヒポクラテス像」*2、坪井信道書軸「医祖賛」

*1・2 会期中前後半で展示入れ替えを行います。



緒方洪庵 扶氏經驗遺訓
(1857-1861年)



緒方洪庵 虎狼痢治準
(1858年)

橋本左内筆漢詩・
崖に生う笹の図



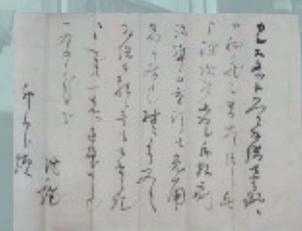
桂川甫賢画
ヒポクラテス像(1816年)



緒方洪庵筆
医祖賛



ゾーフ・ハルマ写本



渡辺卯三郎宛緒方洪庵書状

ミュージアム・レクチャー

会場：待兼山修学館 3階セミナー室

11月2日(土) 14:00~15:30

蘭学と洋風画—石川大浪をめぐって—

勝盛典子氏(神戸市立博物館学芸員)

12月7日(土) 14:00~15:30

ロシア使節プチャーチンの来航と大坂・下田

西澤美穂子氏(専修大学・鶴見大学非常勤講師)

いずれも定員60名、当日先着順(聴講無料、30分前より開場)

適塾記念講演会 (要申込)

12月14日(土) 14:00~16:00

大坂洋学事始—その萌芽と成熟

講演：高橋京子氏(大阪大学総合学術博物館)・岡美穂子氏(東京大学史料編纂所)

会場：大阪大学会館講堂(大阪大学豊中キャンパス)

主催：大阪大学適塾記念センター

申込方法：氏名(フリガナ)・住所・電話番号・あればメールアドレスをご記入の上、FAX
(06-6850-5015)またはメール(sympo-info@tekijuku.osaka-u.ac.jp)にてお申し込みください。

なお詳細は大阪大学適塾記念センターのウェブサイト(<http://www.tekijuku.osaka-u.ac.jp/>)
をご覧ください。



〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20

Tel.06-6850-6284

<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

交通のご案内

阪急宝塚線「石橋駅」下車、徒歩10分

※公共交通機関をご利用ください。



大阪大学総合学術博物館
待兼山修学館



大阪大学
適塾記念センター

報 告

大阪大学総合学術博物館 第6回特別展
適塾創設175周年記念・緒方洪庵没後150年記念
「緒方洪庵・適塾と近世大坂の学知」

大阪大学適塾記念センター
准教授 廣川 和花

1. 本展開催の経緯

2013年は、江戸時代後期に大坂で活躍した医師・蘭学者である緒方洪庵（1810-1863）が1863年（文久3）に没して150年、1838年（天保9）に洪庵が大坂瓦町に適塾を開いてから175年の節目の年となった。本特別展はこのメモリアルイヤーを記念する本学の一連のイベントの中で、歴史を振り返ることに重点を置く企画であり、総合学術博物館と大阪大学適塾記念センターの主催によって開催された。展覧会の準備は、博物館の松永和浩特任講師らの助力を得ながら、主に適塾記念センターのスタッフである廣川、福田舞子特任研究員、二宮美鈴特任研究員によってすすめた。適塾記念センターおよび適塾記念会では、例年洪庵忌（6月10日）を軸とする約2週間、適塾[†]において特別展示を開催しているが、2013年度はこの特別展を例年の特別展示の拡大版と位置づけて取り組んだ。

総合学術博物館では、2010年にも緒方洪庵生誕200年を記念して第11回企画展『えがかれた適塾』[‡]を開催しており、洪庵と適塾に関する主な資料はそこですでに展示されたものが多い。2010年当時は適塾記念センターの設置前であったが、筆者は当時総合学術博物館のスタッフとしてこの企画展に関わった経験がある。そのため本展では、2010年の展覧会とは異なる切り口をと考え、洪庵と適塾に関する重要資料を展示することはもちろんとして、洪庵と適塾の学問を育んだ個性に富む近世大坂地域の人と学問にも光を当てることにした。加えて、2013年に財団法人緒方医学化学研究所より寄贈を受けた貴重資料の中から、洪庵の生きた時代と関わりの深い洋風画と書蹟を出品し、「お披露目」の機会とすることにもなった。

† 適塾

日本で唯一の蘭学塾の遺構。現在は国史跡・重要文化財として内部を視覧することができる。

住所：大阪市中央区北浜3丁目3番8号

電話：06-6231-1970

開館時間：午前10時～午後4時



適塾の外観

‡ 第11回企画展『えがかれた適塾』

（適塾特別展示・緒方洪庵生誕200年記念
大阪大学創立80周年記念イベント）

会期：2010年4月27日～6月26日

主催：大阪大学総合学術博物館・適塾記念会



第11回企画展
チラシ表

2. 特別展の構成

本特別展は、下記のように構成された。

(I) 緒方洪庵の学問形成

大坂での蘭学修行—最初の師・中天游—
江戸遊学—坪井信道・宇田川玄真に学ぶ—
長崎遊学
洪庵の学問的業績

(II) 近世大坂の学知と適塾

近世大坂に花開いた学塾—町人による町人のための学問所・懐徳堂—
洪庵と大坂の知識人の交流
当代随一、大坂の医学塾—適塾と合水堂—
適塾と緒方洪庵
合水堂と近世後期大坂の医学塾
外国船来港と適塾

(III) 西洋医学の導入と蘭画—ヒポクラテス賛美の流行—

(IV) 特別上映

「洪庵と一、〇〇〇人の若ものたち」・「よみがえる適塾—解体修復工事の記録—」

(V) 西洋医学の導入と蘭画—緒方医学化学研究所寄贈資料より—

(関連展示：於大阪大学会館 3 階歴史展示室)

蘭学塾として隆盛を誇った適塾は、1845年(弘化2)に瓦町から過書町へ移転、拡張したが、これが大阪市中央区北浜に現存する史跡・重要文化財 適塾であり、現在は大阪大学が管理している。緒方洪庵はここで診療に励みつつ蘭医学を研究して数々の著訳書を生み出し、天然痘やコレラなどの感染症対策にも尽力する中で、塾生の教育に当たった。本展では、洪庵自身の大坂や江戸、長崎での学問形成過程から、適塾における学問や教育を発展させた時期までをたどりながら、含翠堂、懐徳堂、合水堂など、近世大坂に花開いたさまざまな分野の学塾の系譜を交錯させることで、適塾の特徴や洪庵の人物像をより鮮明に浮かび上がらせようと試みた。



展示会場の様子。大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館では(I)～(III)の展示と3階セミナー室で(IV)の特別上映を行った。

3. 展示の特色

本展に出品された資料は、いずれも各所蔵者によって大切に守り伝えられてきた貴重な歴史資料であるが、今回出品が実現したもののうち特筆すべきものを以下に挙げておきたい。まず、緒方洪庵関連資料としては、緒方洪庵落款（緒方洪章氏所蔵）、洪庵書軸「医祖賛」と初公開の伊東南洋宛緒方洪庵書状（いずれも適塾記念センター所蔵）、1983年以来の公開となった洪庵和歌短冊貼交屏風（緒方裁吉氏寄贈）、さまざまな緒方洪庵肖像（画像提供：緒方洪庵記念財団除痘館記念資料室）などが耳目を引いたと思われる。適塾関連では、適塾入門者363名の記名帳「姓名録」（日本学士院所蔵）の大阪への「里帰り」が意義深いものとなった。適塾研究の根本資料とも言える「姓名録」は、判明する限りにおいても1980年、1983年、1988年、2009年に適塾あるいは大阪にて展示されているが、今回は多くの適塾関連資料とともに展示され、その歴史的資料としての重要性がいっそう際立った。

近世大坂関連では、大坂の医師番付（大阪市史編纂所所蔵）などに加え、大阪大学の各部局に所蔵される平野含翠堂の資料（文学研究科）、懐徳堂資料（附属図書館・文学研究科）が存在感を示した。さらに、近世大坂において適塾とともに名声を博した華岡流医塾合水堂と適塾の関わりを示す展示は、中之島の地理を示すグラフィックとあわせて、当時の大坂の最先端の医療環境を示す印象深い展示となったと思う。

第Ⅲ部では、財団法人緒方医学化学研究所より寄贈を受けた資料の中から、ヒポクラテス賛美流行に関するものを中心に展示した。ヒポクラテス賛美画の先駆者として名高い洋風



（Ⅱ）近世大坂の学知と適塾では、床面に当時の中之島の地図を配置した。

画家石川大浪の詩画軸「西方醫祖必父像」をはじめ、桂川甫賢画軸「依ト加得像」など代表的なヒポクラテス像作品が並ぶこととなった。そして坪井信道作のヒポクラテス賛詩「医祖賛」は、洪庵もまた好んで書に認めており、江戸時代の蘭学に深く浸透した思想であったことを、歴史資料だけでなく、美術作品によっても示すことができた。



（Ⅴ）西洋医学の導入と蘭画—緒方医学化学研究所寄贈資料より—の展示風景。

修学館セミナー室では適塾に関する映画や記録映像の特別上映も行われ、企画者が想定していたよりも多くの方がじっくりと鑑賞して行かれたことが印象的であった。大阪大学会館3階歴史展示室では、緒方医学化学研究所寄贈資料の中から、杉田玄白や桂川甫賢など、代表的な蘭学者の書画などを特別公開した。期間限定ではあったが、寄贈資料を一般公開する貴重な機会となった。

おわりに

特別展を振り返って、本展の展示資料の多くが大阪大学適塾記念センターをはじめ本学各部局に所蔵され、またそれについての調査研究を本学研究者が担ってきた軌跡が改めて認識されたように思う。その長い営みの上に総合学術博物館における特別展が実現することは、本学全体にとっても大変意義深いことであろう。加えて、惜しみないご協力とご助言をくださった関係諸機関・個人の皆様、ミュージアムレクチャー等関連行事にご出講いただいた皆様、そしてこれらすべてを支えてくださった博物館スタッフの皆様のおかげで、このように充実した展覧会を開催することができた。展覧会やミュージアムレクチャー、講演会を訪れてくださった多くの方々に教えられることも多かった。ここに改めて感謝申し上げたい。



関連イベントとして行われた適塾記念講演会「大坂洋学事始—その萌芽と成熟」の様子。講演会には多くの方が聴講に訪れた。

4. 展覧会報告Ⅳ

文化庁／文化遺産地域活性化推進事業
大阪大学総合学術博物館 第17回企画展

野中古墳と「倭の五王」の時代

概 要

第 17 回企画展「野中古墳と「倭の五王」の時代」を 2014 年 2 月 1 日（土）から 3 月 22 日（土）の間、大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館において開催した。

1964 年、大阪大学文学部によって野中古墳（藤井寺市）の発掘調査が行われ、40m 四方に満たない小規模な古墳から 11 領の甲冑をはじめ多数の遺物が発見され注目を集めた。2013 年度に文化庁の文化遺産地域活性化推進事業として、出土品の修復・保存処理を新たに施した。それを機に本展では甲冑全点と代表的な出土品に加え、大阪大学文学研究科が進めてきた河内地域の発掘成果を公開した。野中古墳が所属する百舌鳥・古市古墳群は世界遺産の候補に挙がっており、本展が登録推進に向けての関係自治体の取り組みに寄与するものと期待される。

期間中の待兼山修学館への来場者は 3,722 名と好評であった。

文化庁／文化遺産地域活性化推進事業・大阪大学総合学術博物館 第 17 回企画展

テーマ：「野中古墳と「倭の五王」の時代」

期 間：2014 年 2 月 1 日（土）～ 2014 年 3 月 22 日（土）

会 場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3 階多目的ルーム

主 催：大阪大学大学院文学研究科・大阪大学総合学術博物館

協 力：大阪大学 21 世紀懐徳堂

入館者数：3,722 人

講演会

2014 年 3 月 1 日（土）「河内政権への道」来場者数：280 人

【講演】「野中古墳の発掘調査と出土品の保存修理」

中久保 辰夫 氏（大阪大学埋蔵文化財調査室助教）

【講演】「野中古墳の武器と古墳時代の軍隊」

豊島 直博 氏（奈良大学文学部准教授）

【講演】「古市・百舌鳥古墳群と世界の王陵」

福永 伸哉 氏（大阪大学院文学研究科教授）

会 場：大阪大学基礎工学国際棟Σ(シグマ)ホール

野中古墳と 「倭の五王」の時代



野中古墳出土7号甲冑(大阪大学蔵)

主催：大阪大学大学院文学研究科・大阪大学総合学術博物館
協力：大阪大学21世紀懐徳堂

会期：2014年2月1日(土)～3月22日(土)

休館日：日曜・祝日

開館時間：10時30分～17時

入館料：無料

会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館

住所：〒560-0043 豊中市待兼山町1-20 TEL:06-6850-6284

URL: <http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

アクセス：阪急宝塚線「石橋駅」下車、徒歩10分 ※公共交通機関をご利用下さい。



野中古墳と「倭の五王」の時代

古市古墳群の実像に迫る!!

1964年に大阪大学文学部により発掘調査された大阪府藤井寺市の野中古墳は、国の「世界遺産暫定リスト」に記載された古市古墳群のなかでも、出土資料が質・量ともにもっとも充実した古墳です。

とくに、11領が出土した鉄製甲冑(よろい・かぶと)は、わが国でも屈指の出土量を誇ります。そのうちの3領の襟付短甲は、全国で10ヶ所も出土しておらず、冑に付けられた三尾鉄という装飾品も、金銅が用いられたものは類例がありません。このように、野中古墳の出土品は学術的価値の高いもの

がそろっています。そのため、中国の歴史書にみえる「倭の五王」が活躍した5世紀、古墳時代中期を代表する資料として評価されています。

このたび、同古墳から出土した甲冑類について、文化庁の補助金などにより新たに保存修復作業を行うことができたことから、これらの修復の成果を一堂に会して披露いたします。

あわせて、大阪大学が調査を行ってきた河内周辺での古墳調査の出土品なども陳列し、謎の多い「倭の五王」の時代の解明に向けた取り組みについて展示したいと思います。

主な展示資料

- 《野中古墳出土品》 甲冑、刀剣、鉄鏃、石製模造品、陶質土器、須恵器、埴輪(以上、大阪大学蔵)、滑石製品、埴輪(以上、藤井寺市教育委員会蔵)
- 《アリ山古墳出土品》 鉄製農工具、鉄鏃
- 《駒ヶ谷宮山古墳出土品》 三角縁神獣鏡、内行花文鏡、勾玉、管玉、石釧
- 《駒ヶ谷北古墳出土品》 方格規矩鏡
- 《ヌク谷北塚古墳出土品》 三角縁神獣鏡、腕飾形石製品、勾玉、管玉
- 《真名井古墳出土品》 三角縁神獣鏡、管玉、鉄鏃、鉄製農工具(以上、大阪大学蔵)
- 《墓山古墳出土品》 勾玉、形象埴輪(以上、京都大学総合博物館蔵)、人物埴輪(大阪府立近つ飛鳥博物館蔵)

*野中古墳発掘調査風景などの映像展示も行います

講演会

河内に古市・百舌鳥古墳群が築かれた「倭の五王」の時代には、「河内政権」が存在したのではないかと、学界では議論になっています。この講演会では、謎に満ちた日本古代史にせまる最先端の考古学研究をご紹介します。

河内政権への道

2014年3月1日[土] 13時-15時40分

大阪大学基礎工学国際棟Σ(シグマ)ホール

(大阪大学豊中キャンパス内) *博物館ではありませんのでご注意ください。

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-3

参加費: 無料 (申し込み不要、当日先着順230名)

お問い合わせ先: TEL.06-6850-5106 [大阪大学考古学研究室]

日程

12:30

受付開始

13:00

開会

13:05~13:30

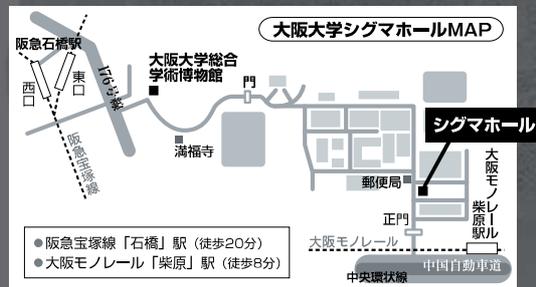
「野中古墳の発掘調査と出土品の保存修理」 / 中久保 辰夫: 大阪大学埋蔵文化財調査室助教

13:30~14:30

「野中古墳の武器と古墳時代の軍隊」 / 豊島 直博: 奈良大学文学部准教授

14:40~15:40

「古市・百舌鳥古墳群と世界の王陵」 / 福永 伸哉: 大阪大学文学研究科教授



*公共交通機関をご利用ください。

報 告

大阪大学総合学術博物館 第17回企画展 文化庁／文化遺産地域活性化推進事業
「野中古墳と「倭の五王」の時代」

大阪大学総合学術博物館
特任講師（常勤）松永 和浩

第17回企画展「野中古墳と「倭の五王」の時代」は、文化庁の文化遺産地域活性化推進事業「野中古墳出土品保存活用事業」の一環として、大阪大学文学研究科・大阪大学総合学術博物館の主催、大阪大学21世紀懐徳堂の協力で開催された。期間中、のべ3,722名の方に来館していただいた。

野中古墳（藤井寺市）は1964年、大阪大学文学部国史研究室・助手（当時）の故・北野耕平により発見・調査された一辺37mの方墳で、「倭の五王」が活躍した古墳時代中期の5世紀に築造されたとみられる。地元住民では「うらやぶ」と呼ばれた場所で、古墳であることすら認識されていなかったが、11領の甲冑をはじめとする武器・武具、鉄製農工具・土器といった諸道具類、埴輪・石製模造品などの祭祀専用品が、古墳の規模に比して大量に見つかった。発掘から半世紀を経て鉄製品の劣化も進行してきたため、文学研究科では出土品の理化学的な保存処理や復元作業を施すこととなった。甲冑類の保存修復には幸い、文化庁から上記事業として補助金を受け、朝日新聞文化財団や住友財団などからも助成金を受給することができた。本展では、野中古墳の出土品修復の成果を披露するとともに、大阪大学文学研究科が河内周辺で行ってきた発掘調査を紹介した。展示構成は次の通り。

プロローグ 発掘調査は語る

第Ⅰ部 政の要は軍事なり ―武器と武具―

- (1) 甲冑
- (2) 鉄剣・鉄刀・鉄矛
- (3) 鉄鏃

第Ⅱ部 技術革新と古墳祭祀

- (1) 鉄製農工具・鉄釘・鉄
- (2) 陶質土器・須恵器・土師器
- (3) 埴輪
- (4) 石製品

第Ⅲ部 古市古墳群の形成と内実

- (1) 3・4世紀の中河内地域
- (2) 古市古墳群の主墳と陪冢

プロローグでは発掘調査の様子を記録したカラー8mm フィルムの映像を、セミナー室のスクリーンに映写した。一般の人々がほとんど目にすることのない出土品取り上げの瞬間や、10 領の甲冑が一行に並んだ発見現場の映像は、迫力満点で訴求力に優れていた。北野耕平が用いたカラー8mm フィルムでの撮影や、出土位置の正確な記録は、当時の発掘調査方法としては最新のものであり、後の調査に多大な影響を与えた。このような学問の発展を牽引した本学の研究者の存在にも光を当てた。

第 I 部では、野中古墳を特徴づける武器・武具を展示した。何と言っても圧巻は、甲冑である。展示室に入ると、9 号甲冑（三角板革綴襟付短甲・革製衝角付冑）が待ち構える。次に三角板鋳留短甲（1 号）と同短甲・頸甲・肩甲・小札鋳留眉庇付冑（6・7 号）、横矧板鋳留短甲（3・4・5 号）、横矧板鋳留短甲（2 号）と三角板革綴襟付短甲（8・10 号）と、ケースに置



9 号甲冑（手前）と 1・6・7 号甲冑（左奥）

かれた 3 領ずつの甲冑は壮観な様相を呈していた。三角板革綴襟付短甲は背中から首を防御でき、全国でも 10 数例しか出土例がなく、限られた武人しか持ち得なかったと考えられる。三角板鋳留短甲と横矧板鋳留短甲は、革紐で鉄板を綴じ合わせる従来の方法とは異なり、鉄鋳で鉄板を結合する当時の先端技術が用いられていた。3 号に付随する鉄製草摺は古墳時代中期では類例が少なく、8・9・10 号に付随する革製衝角付冑には三尾鉄と呼ばれる



発見当時の甲冑列

で特別な人物が着用したと推測される。これら実物に挟まれる形で、甲冑 10 領が整然と一行に並んだ発見当時の写真を大型パネルとして掲示した。冑は甲の中に納められ、甲それぞれに刀剣が添えられていた。野中古墳からは鉄刀 153 本、鉄剣 16 本、鉄鉾 3 本、鉄鏃約 740 本もの大量の武器が出土した。個人の武装を大きく上回る武器の埋納は世界的にも珍しく、野中

古墳の軍事色の一端を披露した。軍事的色彩の濃厚さは、野中古墳が築造された 5 世紀の時代相をよく表している。当時の日本列島では、中国の歴史書『宋書』倭国伝に登場し仁徳天皇や雄略天皇などに比定されている「倭の五王」が活躍したとされる。「倭の五王」は宋に使者を送り、甲冑をまとい武装して日本列島と朝鮮半島で軍事活動を展開したと述べている。被葬者個人の所有物か、「公の兵器庫」の管理者に副葬されたものか議論が分かれ

るが、王権の武威を象徴的に示す野中古墳の位置づけは観覧者に十分印象づけられたであろう。

第Ⅱ部では、当時としては最新のものとなつた伝統的なものが混在する、武具以外の器物を紹介する。朝鮮半島の影響が強いとされる U 字形鋤鋤先、鉄鎌といった農具、一古墳では珍しく形状や製作法の異なる数種が埋納された鉄斧、刀子・鉋・鑿といった工具、木箱に用いられたと目される国内最古級の鉄釘、国内第二の総重量約 36kg が出土した鉄製品の素材となる朝鮮



第Ⅱ部の展示風景

半島産の鉄鋌などにより、「農具鉄器化の画期」という 5 世紀の特徴を示した。また高温で焼成された朝鮮半島産の陶質土器と国産の初期須恵器といった土器は、5 世紀では珍しい先進的なものであった。一方で、墳頂平坦面から大量に破片が出土した土師器や埴輪、石製模造品、紡錘車、管玉・勾玉、石臼・石杵といった儀礼・祭祀に伝統的な側面も残している。ここから軍事だけでなく、儀礼面も含めて政権の性格を把握する必要があることを明示した。

第Ⅲ部では、南河内地域の古墳を対象に大阪大学文学部が行った発掘調査の成果を紹介する。まず野中古墳を含む古市古墳群が出現する以前、3・4 世紀の古墳を取り上げる。4 世紀初頭に築造され粘土槨を採用した最古級の古墳として研究史的重要な真名井古墳（富田林市）からは副葬品の三角縁神獸鏡・碧玉製管玉・土器・鉄製農具を、全長約 55m の駒ヶ谷北古墳（羽曳野市）からは方格規矩鏡と発掘調査風景の映像を、その南方に位置する駒ヶ谷宮山古墳（同市）からは三角縁神獸鏡・ガラス製小玉・石釧を、ヌク谷北塚古墳（柏原市）からは腕輪形石製品などを展示した。次に 5 世紀の古市古墳群であるが、その特徴は墳丘長 225m の墓山古墳と 37m の野中古墳の関係のように、大型の主墳とその周囲に中小型墳の陪冢が存在する点にある。墓山古墳（羽曳野市）からは野中古墳の埋納物である革綴襟付短甲を模した形象埴輪を出品し、両古墳の関係性を遺物からも示した。菅田御廟山（伝応神天皇陵）古墳の陪冢であるアリ山古墳（藤井寺市）からは、発掘された大量の鉄製品のうち鉄製農具と鉄鋤を展示した。



第Ⅲ部の展示風景

関連企画として、3月1日（土）に講演会「河内政権への道」を大阪大学基礎工学部国際棟Σ（シグマ）ホールにて開催した。学説史上、巨大古墳が築造された5世紀の河内には倭の政権中枢である「河内政権」が存在したかをめぐって議論が積み重ねられてきた。「河内政権」論に関わって、中久保辰夫・豊島直博・福永伸哉3氏の講演を用意し、研究の現



講演会会場
(大阪大学基礎工学部国際棟Σホール)

状を一般に分かりやすく伝えた。講演会は多大な関心を集め、定員230名のところ500名超の参加希望者が押し寄せた。参加資格を事前申込み制ではなく先着順としたため、聴講できずにお帰り願った方々を多数出してしまったことは大きな反省点である。しかしそれ以上に、考古学がいかに魅力的なものであるかを強く再認識させられたことが収穫であった。

展覧会および講演会を通じ、野中古墳の文化財的価値を広く一般に発信できたことは、重要な成果であると考えます。館周辺はもとより、野中古墳近辺の住民・歴史愛好団体の方々が数多く来場し、遠方の考古学研究者も足を運んだと聞き及んでいます。展覧会は既に終了しましたが、大阪大学博物館叢書10『野中古墳と「倭の五王」の時代』（大阪大学出版会、2014年）に豊富な図版と論説を掲載し、野中古墳の全貌についていつでも迫れる状況を用意しました。2010年、野中古墳を含む百舌鳥・古市古墳群の87基が世界遺産候補のリストに掲載され、世界遺産登録に向けた取り組みが推進されるなか、今後も継続的に本展の成果を訴えていくことが重要である。

5. シンポジウム報告

大学博物館、街に出る

これでいいのか？ 大阪のミュージアム
— 地域文化と学術研究の担い手を目指して —

概要

シンポジウム

テーマ：「大学博物館、街に出る これでもいいのか？ 大阪のミュージアム
—地域文化と学術研究の担い手を目指して—」

日 時：2013年11月9日（土）

会 場：大阪大学中之島センター 10階 佐治敬三メモリアルホール

主 催：大阪大学総合学術博物館・大阪商業大学商業史博物館

後 援：大学博物館等協議会・かんさい・大学ミュージアムネットワーク
北大阪ミュージアム・ネットワーク

協 力：大阪大学 21世紀懐徳堂

来場者数：100人

趣旨説明 橋爪 節也（大阪大学総合学術博物館 館長）

第1部：基調報告

「歴史と記憶をつなぐ—「オオサカがとんがっていた時代」を通じて」

橋爪 節也（大阪大学総合学術博物館 館長）

「商業史としての美術—文人画に宿る可能性」

明尾 圭造（大阪商業大学商業史博物館 主席学芸員）

「地域に根付いた新しい美術館のありかた」

菅谷 富夫（大阪新美術館建設準備室 研究主幹）

「京都・大学ミュージアム連携から見た大阪の現状」

並木 誠士（京都工芸繊維大学美術工芸資料館 館長）

第2部：ディスカッション

「これでもいいのか？ 大阪のミュージアム —それぞれの立場から—」

パネリスト：橋爪 節也（大阪大学総合学術博物館 館長）

明尾 圭造（大阪商業大学商業史博物館 主席学芸員）

菅谷 富夫（大阪新美術館建設準備室 研究主幹）

並木 誠士（京都工芸繊維大学美術工芸資料館 館長）

高島 幸次（大阪大学招へい教授・大阪天満宮文化財研究所員）

司 会：中谷 伸生（関西大学教授）

総 括 伊木 稔（大阪商業大学商業史博物館 館長）

シンポジウム
大学博物館、
街に出る

文化芸術や学術研究を支えるミュージアムの評価がゆらいでいる大阪。盛んな東京発の巡回展に比べ、地道な調査研究による大阪独自の博物館活動が過小評価されていないか。美術をテーマに展覧会を企画した大学博物館をモデルケースに、大阪におけるミュージアムの存在意義と可能性を考えたい。

これでいいの？

大阪のミュージアム

—— 地域文化と学術研究の担い手を目指して ——

11月9日(土) 13:30 ~ 17:00 (受付13:00 ~)

大阪大学中之島センター10階
佐治敬三メモリアルホール

〒530-0005

大阪市北区中之島4-3-53

【定員150名 聴講無料 事前申し込み不要、当日先着順】

第1部 基調報告

第2部 ディスカッション

報告者 橋爪節也 (大阪大学総合学術博物館 館長)
(パネリスト) 明尾圭造 (大阪商業大学商業史博物館 首席学芸員)
菅谷富夫 (大阪新美術館建設準備室 研究主幹)
並木誠士 (京都工芸繊維大学美術工芸資料館 館長)
パネリスト 高島幸次 (大阪大学招へい教授・大阪天満宮文化研究所員)
司 会 中谷伸生 (関西大学教授)
総 括 伊木 稔 (大阪商業大学商業史博物館 館長)



大阪大学総合学術博物館

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山1-13
Tel: 06-6850-6715 Fax: 06-6850-6720
<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

主催

大阪商業大学商業史博物館

〒577-8505 大阪府東大阪市御厨栄町4-1-10
Tel: 06-6785-6139 Fax: 06-6785-6237
<http://moch.daishodai.ac.jp/>



【後援】大学博物館等協議会、かんさい・大学ミュージアムネットワーク、北大阪ミュージアム・ネットワーク
【協力】大阪大学 21世紀懐徳堂

全国各地で「大学博物館」が開設されています。歴史と伝統ある館がある一方、平成8年の学術審議会報告「ユニバーシティ・ミュージアムの設置について」以降に新設された館も多数あります。

「新たな学術研究を支える基盤」である大学博物館では、互いに連携し、「地域社会に対する知的・文化的情報の発信拠点」となることが課題となっています。

現在大阪では、地域の文化芸術や学術研究を支える博物館のあり方が揺れています。その状況下、このシンポジウムでは、大阪における国公立館や私立館の担う役割と、大学博物館の存在意義はどのようなものかを、大阪大学、大阪商業大学の博物館の企画展をモデルケースに検証し、大学博物館の立場から大阪のミュージアムの現状を再検討し、問題提起します。

第1部では、大阪大学総合学術博物館、大阪商業大学商業史博物館の事例、大阪市の新美術館のありかた、京都・大学ミュージアム連携から見た大阪に関する4つの基調報告を行います。

第2部では、第1部を受けて、大阪の国公立博物館・美術館と大学博物館のあり方について討議し、現代の大阪におけるミュージアムのあるべき姿を様々な角度から模索します。

◆ プログラム ◆

趣旨説明 (13:30~13:40) 橋爪 節也 (大阪大学総合学術博物館 館長)

第1部 基調報告 (13:40~14:40)

- 「歴史と記憶をつなぐ—「オオサカがとんがっていた時代」を通じて」
橋爪 節也 (大阪大学総合学術博物館 館長)
- 「商業史としての美術—文人画に宿る可能性」
明尾 圭造 (大阪商業大学商業史博物館 主席学芸員)
- 「地域に根付いた新しい美術館のありかた」
菅谷 富夫 (大阪新美術館建設準備室 研究主幹)
- 「京都・大学ミュージアム連携から見た大阪の現状」
並木 誠士 (京都工芸繊維大学美術工芸資料館 館長)

第2部 ディスカッション (15:00~17:00)

「これでいいのか? 大阪のミュージアム—それぞれの立場から—」

パネリスト: 橋爪 節也、明尾 圭造、菅谷 富夫、並木 誠士
高島 幸次 (大阪大学招へい教授 / 大阪天満宮文化研究所員)

司 会: 中谷 伸生 (関西大学教授)

総 括: 伊木 稔 (大阪商業大学商業史博物館 館長)



【シンポジウム会場・交通案内】

- 大阪大学中之島センター10階 佐治敬三メモリアルホール
〒530-0005 大阪市北区中之島4-3-53
- ◎京阪中之島線・中之島駅(6番出口)より徒歩約5分
 - ◎京阪中之島線・渡辺橋駅(2・3番出口)より徒歩約5分
 - ◎阪神電車・福島駅より徒歩約9分
 - ◎JR 東西線・新福島駅より徒歩約9分
 - ◎JR 大阪環状線・福島駅より徒歩約12分
 - ◎地下鉄四つ橋線・肥後橋駅(4番出口)より徒歩約10分

【問合せ先】

大阪大学総合学術博物館 事務室
〒560-0043 大阪府豊中市待兼山1-13
Tel 06-6850-6715 Fax 06-6850-6720
URL <http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

大阪商業大学 学術研究事務室
〒577-8505 大阪府東大阪市御厨栄町4-1-10
Tel 06-6785-6139 Fax 06-6785-6237
URL <http://moch.daishodai.ac.jp/>



報 告

シンポジウム 大学博物館、街に出る

「これでいいのか？ 大阪のミュージアム

—地域文化と学術研究の担い手を目指して—」

大阪大学総合学術博物館

教授 橋爪 節也

2012年11月25日、大阪大学総合学術博物館創立10周年記念シンポジウム「オオサカがとんがっていた時代 大阪のアヴァンギャルド芸術 —焼け跡から万博前夜まで—」を踏まえて、大阪大学総合学術博物館第16回企画展「オオサカがとんがっていた時代 —戦後大阪の前衛美術 焼け跡から万博前夜まで—」を開催したが、展覧会終了後、視点を変え、大学博物館のあり方を問題に、2013年11月9日、再度、本展覧会に関連するシンポジウムを大阪大学中之島センター佐治敬三メモリアルホールで開催した。

大阪大学総合学術博物館と大阪商業大学商業史博物館の共催となるもので、両館で検討し、タイトルはシンポジウム「大学博物館、街に出る これでもいいのか？ 大阪のミュージアム —地域文化と学術研究の担い手を目指して—」とした。

大阪商業大学商業史博物館は、平成24年度秋季企画「商都大阪の文化力」の一環として「近世浪華の町人と文人趣味」展[†]を開催しており、当館が第16回企画展「オオサカがとんがっていた時代」を開催したように、大阪の美術史に特化した展覧会を開催した在阪の大学同士の連携がここに実現した。また、運営形態の異なる国立と私立の大学博物館が連携したことも特徴的であった。

シンポジウムとしては、平成8年の学術審議会報告「ユニバーシティ・ミュージアムの設置について」において、大学所蔵の学術標本を整理、分類、保存して最新研究に活かす重要性と、研究成果を地域社会に発信すること、展覧会や講演会を通じ、学術研究から生まれた「多くの創造的、革新的な新知見等を地域住民に積極的に公開」すべきとしている提言に従うとともに、「新たな学術研究を支える基盤」である大学博物館として互いに連携し、大学全体が「地域社会に対する知的・文化的情報の発信拠点」となりえるかをテーマとしたものであった。

† 大阪商業大学商業史博物館 平成24年度秋季企画「商都大阪の文化力」
展覧会「近世浪華の町人と文人趣味」
会期：2012年10月15日～12月1日
大阪商業大学商業史博物館 HP：<http://moch.dai.shodai.ac.jp/>



さらに大阪では、地域の文化芸術や学術研究を支える博物館のあり方が揺れており、その状況下、大阪における国公立館や私立館の担う役割と、大学博物館の存在意義はどのようなものかを、大阪大学、大阪商業大学の博物館の企画展をモデルケースに検証し、大学博物館の立場から大阪のミュージアムの現状を再検討し問題提起する場とした。

大阪のミュージアムの問題をあげるならば、次のような数字がよく実態を示している。2008年のデータで、全国47都道府県中、美術館数は、大阪府が総数16館で、人口10万人あたり0.19館の全国46位であった。全国的に16館という数は山形、宮城県と同数で、15館の佐賀、大分、滋賀、愛媛よりは多いが、茨城県の17館より少ない。大都市圏で比較すると、東京98、神奈川42、京都39、愛知37、兵庫33館に対して圧倒的に劣っている。この傾向は博物館でも同様で、大阪府の博物館数は83館、10万人当たり0.96館で、全国最下位の47位であった。博物館に関しては東京都も10万人当たりは1.58館の43位であるが、館数は197あって大阪府の2倍強である。

さらに最近閉館した大阪の美術館も多く、2003年、出光美術館大阪分館、2004年 萬野美術館が閉館し、2010年 サントリーミュージアム[天保山]（以上すべて大阪市）が事実上の閉館である休館となった。出光美術館大阪分館のあとに入った大阪市立近代美術館（仮称）心斎橋展示室も閉館となっている。この大阪市立近代美術館（現在、大阪市新美術館と改称）の建設が進まないことが、大阪地域における美術振興や歴史検証に大きな損失となっている。こうした大阪において次のような問題を、広く市民に向けての公開シンポジウムで問おうとしたのである。

1. 大学博物館とはなにか、その存在意義
2. 大阪の美術館の現状はどうか
3. 館の連携、社会との連携
4. 地域(社会、街、外部など)はどう見ているか

後援には、全国大学博物館等協議会と、北大阪ミュージアム・ネットワーク、かんさい・大学ミュージアムネットワークが加わった。全国大学博物館等協議会は国立系大学博物館の団体、北大阪ミュージアム・ネットワークは、吹田市立博物館を代表に、国立民族学博物館や関西大学博物館など大阪府下の北摂を中心とした博物館のネットワークである。後者は2013年秋に国立民族学博物館において、加盟館による“北大阪ミュージアム・メッセを”開催している。また、かんさい・大学ミュージアムネットワークは、関西大学博物館を中心に新しく設立された大阪府周辺の大学博物館のネットワークである。

第1部では基調講演として、橋爪が「歴史と記憶をつなぐ―「オオサカがとんがっていた時代」を通じて」、明尾圭造（大阪商業大学商業史博物館首席学芸員）「商業史としての美術―文人画に宿る可能性」、菅谷富夫（大阪新美術館建設準備室研究主幹）「地域に根付

いた新しい美術館のありかた」、並木誠士（京都工芸繊維大学美術工芸資料館館長）「京都・大学ミュージアム連携から見た大阪の現状」を発表した。京都では京都・大学ミュージアム連携が立ち上がっており、2012年、京都・大学ミュージアム連携「大学は宝箱！—京の大学ミュージアム収蔵品展」（10月3日～11月25日）が開催されている。



第1部 基調講演の様子。会場には多くの方が集まった。

第2部 ディスカッション「これでいいのか？ 大阪のミュージアム—それぞれの立場から—」には、司会として中谷伸生（関西大学教授）、パネリストとして前述の発表者4人に高島幸次（大阪大学招へい教授／大阪天満宮文化研究所員）が加わり、総括を担当して伊木稔（大阪商業大学商業史博物館館長）が参加した。中谷は『大坂画壇はなぜ忘れられたのか—岡倉天心から東アジア美術史の構想へ』（醍醐書房）など、大阪の美術史に関する著述があり、大阪での美術館の使命も重視している。

ディスカッションでは、参加者全員に配布した当日のパフレットの表裏に「○」「×」を大きく印刷し、いくつかのテーマに関して会場から賛否を表明できるようにした。テーマとなった内容では、高島幸次大阪大学招へい教授から、大学美術館について一般の人は敷居が高いと思っているのではないかと、という問題提起があり、それに沿って議論が進行した。伊木館長による総括として、各館の連携が今後、ますます重要になることが指摘された。



第2部 ディスカッションの様子。パネリストの間で議論が活発に行われた。



シンポジウム当日に会場で配布した資料。縦に4つ折りにし、参加者から「○」か「×」かで意見聴く際にも使用した。

6. サイエンスカフェ@待兼山 “土曜の午後はミュージアム”

主催：大阪大学総合学術博物館

共催：豊中市立中央公民館

協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂

前期：2013 年 9 月 7 日（土）～ 2013 年 10 月 12 日（土） カフェ No.108 ～ 112

後期：2013 年 12 月 21 日（土）～ 2014 年 3 月 29 日（土） カフェ No.113 ～ 116

大阪大学で行われている最新の研究を広く人々に紹介するとともに、普段の中で接する機会が少ない専門家と一般の方々間のコミュニケーションの場となることを目指して「サイエンスカフェ@待兼山」を開催した。「サイエンスカフェ@待兼山」は 2008 年度から豊中市と連携して開催し、文系、理系を問わず様々な分野のテーマを扱ってきた。現在では総合学術博物館のイベントとして定着し、幅広い年代に参加していただいている。家族や友人と一緒に参加される方もおり、実施当日には会場が大いに盛り上がっている様も見られる。

サイエンスカフェの実施状況：

2008 年度	前期	カフェ No. 1 ～ 13	実施 13 回
	後期	カフェ No. 14 ～ 27	実施 14 回
2009 年度	前期	カフェ No. 28 ～ 37	実施 10 回
	後期	カフェ No. 38 ～ 46	実施 9 回
2010 年度	前期	カフェ No. 47 ～ 55	実施 9 回
	後期	カフェ No. 56 ～ 65	実施 10 回
2011 年度	前期	カフェ No. 66 ～ 80	実施 15 回
	後期	カフェ No. 81 ～ 88	実施 8 回
2012 年度	前期	カフェ No. 89 ～ 99	実施 11 回
	後期	カフェ No.100 ～ 107	実施 8 回
2013 年度	前期	カフェ No.108 ～ 112	実施 5 回
	後期	カフェ No.113 ～ 116	実施 4 回

サイエンスカフェ@待兼山（前期：2013年9月7日～10月12日 カフェ No.108～112）

カフェ No.	実施日	タイトル	要 旨
		コーディネーター	
108	2013年 9/7 (土)	DNA 情報からよみと る生物進化とランダム ネス	多様な生物種が共通祖先から枝分かれによって進化したようすをあらわすのが「系統樹」です。現在のさまざまな生物から得られる DNA 配列を比較すると、これらの生物が過去にどのように進化してきたか予想できます。進化の過程では DNA 配列がランダムに変化すると考えます。そのランダムネスの法則性から確率論と統計学にもとづきコンピュータで系統樹を推定する数学的方法について紹介します。
		下平 英寿 氏	
109	9/14 (土)	『ハイジ』から学ぶ世界史	あなたは、「ハイジ」や「マルコ」をご存知ですか？ 日曜日の夜に放送されていた、『世界名作劇場』として知られる一連のアニメ作品は、放送終了後も繰り返し再放送され、いまでは世代を超えて愛されています。実は、その作品の多くが、19世紀以降の世界史の大きな動きを反映していることにお気づきでしょうか。今回のカフェでは、おもに『アルプスの少女ハイジ』に出てくるさまざまなエピソードを切り口に、みなさんと世界史について考えてみたいと思います。
		森本 慶太 氏	
110	9/28 (土)	隕石からわかる太陽系 46 億年の歴史	宇宙の事を知れば知るほど、太陽系が不思議で魅力的なシステムだと思えます。例えば、8個の惑星、数十万個の小惑星がほぼ同じ向きに回転している美しさ。水素とヘリウムが主成分（98%以上）の広く希薄な宇宙空間で、2%以下しかない鉄やケイ素やマグネシウムや酸素が濃縮して「石」の地球ができた不可思議さ。「ほぼ同じ材料物質」から「ほぼ同じ時期」に惑星ができたにも関わらず、地球にだけ海があり生命が栄えてきた地球のユニークさ。私たちの研究グループでは、同位体顕微鏡等を使って隕石やアポロ月試料を調べてきました。隕石の最新の分析からわかってきた太陽系の歴史について解説します。
		寺田 健太郎 氏	
111	10/5 (土)	高分子、作って触って 実体験	私達の身のまわりには繊維、ゴム、プラスチックや塗料など、様々な「高分子」化合物が活躍しており、私達の日常生活になくはならないものになっています。高分子だから現れる機能があります。このサイエンスカフェでは実際にあつという間にできてしまう高分子作りを実演します。今回はゼリーのような高分子。希望される方には（人数次第ですが）実際にこの高分子作りを体験していただくと思っています。見て楽しい、触って楽しい素敵なオリジナル芸術品を高分子で作ってみませんか。簡単な実験から最近の合成・生体高分子を用いた研究最先端までを一気にご紹介いたします。
		山口 浩靖 氏	
112	10/12 (土)	数学ってこんなにおもしろい ー組ひもと複雑系の話	皆さんは、大学の数学の研究という去何を思いうかべますか？ 難しい計算？ もちろん、ややこしい計算もしますが、そればかりではありません。このレクチャーではトポロジー分野の一つの研究対象である結び目・組ひもについて、そして力学系分野の研究対象であるカオス・フラクタルについて、最近の話題も交えながらできるだけわかりやすくお話します。それらの例を通して、数学がどのように発展してきたのか、数学がどのように私たちの生活に“役に立つ”のか、皆さんにお伝えしたいと思っています。
		金 英子 氏	

サイエンスカフェ@待兼山（後期：2013年12月21日～2014年3月29日 カフェ No.113～116）

カフェ No.	実施日	タイトル	要 旨
		コーディネーター	
113	2013年 12/21(土)	渦をつくる ー流体力学への入門	我々の身の回りは水や空気で満ち溢れています。これらは総称して流体とよばれます。流体は固体と異なり、ほんのわずかな力で容易に変形し、「流れ」があります。このような流体の最も基本的な運動の様子に「渦」があります。台風、竜巻、鳴門の渦潮や飛行機の後ろの乱気流は全て渦の例です。この渦を取り上げ、高校物理では残念ながら学ばない流体力学の世界を紹介します。渦運動の性質を説明すると同時に簡単な実験により渦をつくってみましょう。
		河原 源太 氏	
114	2014年 1/11 (土)	ホテルの光のひみつ	ホテルを素手でとったことがありますか？ 熱かったでしょうか？ いままでは、アニメ映画「火垂るの墓」でしかホテルを知らない人も多いかもしれません。ホテルが光るしくみとまったく同じことを試験管の中で行い、電灯とは違う光（化学発光）の性質と酵素反応について、参加者全員に体験していただきます。
		豊田 二郎	
115	1/25 (土)	暮らしの中で役立つ 様々な光	LED 照明はどうして省エネになるのでしょうか。高速な光通信はどういった光で行われるのでしょうか。光にまつわる話題を、光の実験、「分光測定」を実演しながらお話します。こうした事項は全て光に対する物質の応答をうまく利用することで成り立っています。これまでにない物質を作り出して、例えば太陽光発電の効率を向上させるなど、未来を切り拓くと期待されているナノテクノロジーも紹介します。
		芦田 昌明 氏	
116	3/29 (土)	ギリシア・ローマ神話への招待	ギリシア・ローマ神話は、ヨーロッパの知の源泉の一つに数えられています。ギリシア・ローマ神話の中から数編を取り上げて、ギリシア・ローマ時代の人々が、神々、英雄、人間をどのように理解していたのかを考察します。そうすれば、遠い時代の神話も、実は、私たちの身近な所で今なお息づいていることにきっと気づくことと思います。神話を知ることは、人間とは何か、生きるとはいかなる意味を持つのかを考える絶好の機会となるでしょう。悠久の神話世界に憧れを抱く多くの方に出会えますのを心待ちにしております。
		加藤 浩 氏	

Museum of Osaka University

Science Café at Machikaneyama

大阪大学総合学術博物館で、サイエンスカフェを楽しみませんか。コーヒーを片手にゆったりとした雰囲気、「科学する」とはどういうことか、研究者とともに考えていきます。それを通して専門家と一般の方々の間のコミュニケーション不全を少しでも改善したいと思っています。お気軽にご参加ください。

No. 108 2013年9月7日(土)

DNA情報からよみとる生物進化とランダムネス

下平 英寿(基礎工学研究科)

対象:高校生以上

No. 111 2013年10月5日(土)

高分子、作って触って実体験

山口 浩靖(理学研究科)

対象:小学生以上、
小学生から大人まで、家族で参加も歓迎

No. 109 2013年9月14日(土)

『ハイジ』から学ぶ世界史

森本 慶太(文学研究科)

対象:中学生以上、家族連れ歓迎

No. 112 2013年10月12日(土)

数学ってこんなにもおもしろい—組ひもと複雑系の話

金 英子(理学研究科)

対象:高校生以上

No. 110 2013年9月28日(土)

隕石からわかる太陽系46億年の歴史

寺田 健太郎(理学研究科)

対象:中学生以上、小学生も家族連れは歓迎

サイエンスカフェ@待兼山

開催場所: 大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館3階セミナー室

開催時間: 14:00~15:30

定員: 20~30名程度

参加費用: 飲み物代(200円)が必要

共催: 豊中市立中央公民館

協力: 大阪大学21世紀懐徳堂

申込方法

Webフォームまたは往復ハガキにてお申し込みください。

Webフォーム

申込受付期間確認ページ内のリンクをクリック。
<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

往復ハガキ

カフェ1タイトル、住所、氏名、電話番号、年齢を明記。ご家族でお申込の場合、同伴者のお名前、年齢をご記入の上、下記宛に送付。
〒560-0043 豊中市待兼山町1-13 大阪大学総合学術博物館

申込期間

各カフェ開催日の2ヶ月前から1ヶ月前。各カフェのタイトルごとに確認願います。締め切り日必着。

※応募期間外の申込は無効とさせていただきます。

※応募多数の場合、原則として抽選で決定。抽選結果はメールもしくはハガキでお知らせします。

大阪大学総合学術博物館

〒560-0043 豊中市待兼山町1-13 URL: <http://www.museum.osaka-u.ac.jp>



Museum of Osaka University

Science Café at Machikaneyama

大阪大学総合学術博物館で、サイエンスカフェを楽しみませんか。コーヒーを片手にゆったりとした雰囲気、「科学する」とはどういうことか、研究者とともに考えていきます。それを通して専門家と一般の方々の間のコミュニケーション不全を少しでも改善したいと思っています。お気軽にご参加ください。

No.113 渦をつくる—流体力学への入門

2013年12月21日(土)

河原 源太(基礎工学研究科)

対象:高校生以上

我々の身の回りは水や空気で満ち溢れています。これらは総称して流体とよばれます。流体は固体と異なり、ほんのわずかな力で容易に変形し、「流れ」ます。このような流体の最も基本的な運動の様子に「渦」があります。台風、竜巻、鳴門の渦潮や飛行機の後ろの乱気流は全て渦の例です。この渦を取り上げ、高校物理では残念ながら学ばない流体力学の世界を紹介します。渦運動の性質を説明すると同時に簡単な実験により渦をつくってみましょう。

No.114 ホタルの光のひみつ

2014年1月11日(土)

豊田 二郎(総合学術博物館)

対象:制限なし

ホタルを素手でとったことがありますか?熱かったですか?いまでは、アニメ映画「火垂るの墓」でしかホタルを知らない人も多いかもしれません。ホタルが光るしくみとまったく同じことを試験管の中で行い、電灯とは違う光(化学発光)の性質と酵素反応について、参加者全員に体験していただきます。

No.115 暮らしの中で役立つ様々な光

2014年1月25日(土)

芦田 昌明(基礎工学研究科)

対象:高校生以上

LED照明はどうして省エネになるのでしょうか。高速な光通信はどういった光で行われるのでしょうか。光にまつわる話題を、光の実験、「分光測定」を実演しながらお話しします。こうした事項は全て光に対する物質の応答をうまく利用することで成り立っています。これまでにない物質を作り出して、例えば太陽光発電の効率を向上させるなど、未来を切り拓くと期待されているナノテクノロジーも紹介します。

No.116 ギリシア・ローマ神話への招待

2014年3月29日(土)

加藤 浩(文学研究科)

対象:中学生以上

ギリシア・ローマ神話は、ヨーロッパの知の源泉の一つに数えられています。ギリシア・ローマ神話の中から数編を取り上げて、ギリシア・ローマ時代の人々が、神々、英雄、人間をどのように了解していたのかを考察します。そうすれば、遠い時代の神話も、実は、私たちの身近な所で今なお息づいていることにきっと気づくことと思います。神話を知ることは、人間とは何か、生きるとはいかなる意味を持つのかを考える絶好の機会となるでしょう。悠久の神話世界に憧れを抱く多くの方に会えますのを心待ちにしております。

サイエンスカフェ@待兼山

開催場所: 大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館3階セミナー室
開催時間: 14:00~15:30
定員: 20~30名程度
参加費用: 飲み物代(200円)が必要
共催: 豊中市立中央公民館
協力: 大阪大学21世紀懐徳堂

申込方法

Webフォームまたは往復ハガキにてお申し込みください。

Webフォーム

申込受付期間確認ページ内のリンクをクリック。
<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

往復ハガキ

カフェ1タイトル、住所、氏名、電話番号、年齢を明記。ご家族でお申込の場合、同伴者のお名前、年齢をご記入の上、下記宛に送付。
〒560-0043 豊中市待兼山町1-13 大阪大学総合学術博物館

申込期間

各カフェ開催日の2ヶ月前から1ヶ月前。各カフェのタイトルごとに確認願います。締め切り日必着。

※応募期間外の申込は無効とさせていただきます。
※応募多数の場合、原則として抽選で決定。抽選結果はメールもしくはハガキでお知らせします。
※「制限なし」のカフェの参加可能年齢は「小学生以上」とさせていただきます。

大阪大学総合学術博物館

〒560-0043 豊中市待兼山町1-13 URL: <http://www.museum.osaka-u.ac.jp>



7. 夏の小学生科学体験教室

時 期：2013年8月7日（水）～9日（金）

会 場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階セミナー室

主 催：大阪大学総合学術博物館・豊中市立中央公民館

文系、理系を問わず様々な分野に対する興味や関心を、子どもたちに持ってもらうことを目指して「夏の小学生科学体験教室」を開催した。昨年度と同じく自由応募制（小学校5・6年生対象）という形をとり、大阪大学総合学術博物館と豊中市立中央公民館とで連携して開催した。大阪大学総合学術博物館の教員および学外から講師を招き、実験・実演を交えた体験型理科授業を行った。当日は子どもたちの元気な声のとびかった。（当日の参加者数は延べ58名、保護者含まず）



「今は豊中市、むかしは〇〇村？」



「光と遊んで、虹色万華鏡を作ろう」



「アッ！っと驚くおもしろ実験、
これは簡単！ おもしろ工作！」



「「えれめんトランプ」をしながら
元素を知ろう！」

授業内容

8月7日(水)

タイトル：「今は豊中市、むかしは〇〇村？」

講師：松永 和浩 (大阪大学総合学術博物館)

参加人数：9人[†]

概要：今は豊中市のなかに村はありません。だけどむかしは、いくつかの村に分かれています。君が住んでいる地域は〇〇村だったのか、今とむかしの地図を使って調べてみよう。

8月8日(木)[‡]

タイトル：「光と遊んで、虹色万華鏡を作ろう」

講師：江角 陸 氏 (元大阪府立高等学校教諭)

参加人数：16人

概要：(1) 回折格子でスペクトルを観察します。
(2) 光は電磁波の一部であることを学びます。
(3) スペクトルを使った虹色万華鏡を作ります。

8月8日(木)

タイトル：「アッ！っと驚くおもしろ実験、これは簡単！ おもしろ工作」

講師：馬場 二夫 氏 (平城ニュータウン楽しい理科実験研究会)

浅岡 末治 氏 (平城ニュータウン楽しい理科実験研究会)

参加人数：16人

概要：(1) ハンドパワーで水面に浮かべたコショウを蹴散らしてみよう
(2) 逆さにしてもこぼれないコップの水
(3) 静電気モーター
(4) 翼果 (よっか) コプター

8月9日(金)

タイトル：「「えれめんトランプ」をしながら、元素を知ろう！」

講師：桜井 弘 氏 (京都薬科大学名誉教授)

参加人数：17人

概要：元素とは何でしょう？ 宇宙、そして私たちの身の回りのものは、すべて元素からできています。「えれめんトランプ」で楽しみながら元素を知り、元素と親しくなりましょう！

[†] 各日の参加者数は保護者の数を含まない

[‡] 8月8日(木)は2つのタイトルを実施

8. 専任教員活動報告

2013 年度 教員実績表

(2013 年 4 月 1 日～ 2014 年 3 月 31 日)

研究・教育部

資料基礎研究系

・准教授 高橋 京子

資料先端研究系

・教授 上田 貴洋

・准教授 豊田 二郎

・准教授 宮久保圭祐

資料情報研究系

・教授 橋爪 節也 (館長)

・助教 横田 洋

資料部

・特任講師(常勤) 松永 和浩

【教育活動】

担当授業

学 期 ・ 学 部	科 目 名
1 学期・薬学部	漢方薬学 [共担]
1 学期・共通教育科目 [全学部]	博物館体験コース [共担]
1 学期・薬学研究科博士前期課程	伝統医薬解析学特別講義
1 学期・薬学研究科博士課程	伝統医薬解析学特別講義

学生指導

学生数 (留学生含む)	留 学 生 数	共同・分担した指導教官人数
3 名	0 名	1 名

学位論文審査等

学 位 申 請 者 お よ び 論 文 名	主 査 / 副 査
[修士論文] 「緒方洪庵の薬箱」由来生薬の本草学的意義	主査

【研究活動】

学術論文

論 文 名	著 者 名	雑 誌	巻・号・頁	発行年月
Establishment of a methodology for identifying Paeoniae Radix based on metallomic analysis	Shimada K. Nakamura Y. Kawase M. Komatsu K. Saito T. Takahashi K.	Journal of natural medicines	巻：68 号：2 頁：407-143	2014 年
Novel in vivo model to address oral baicalin pharmacokinetics: CYP3A4-induced Caco-2 cell monolayers combined with rat intestinal rinse fluids	Morisaki T. Hou XL. Takahashi K. Takahashi Ko.	Journal of pharmacy and pharmacology	巻：65 頁：1526-1535	2013 年
Effect of taurine and potential interactions with caffeine on cardiovascular function.	Schaffer SW Shimada K Jong CJ Ito T Azuma J Takahashi K.	Amino Acids.	巻：46 号：5 頁：1147-1157	2014 年 5 月
『緒方洪庵の薬箱(大阪大所蔵)』に収納された生薬資料：現況の可視化	高橋 京子 他	薬史学雑誌	巻：48 号：2 頁：140-150	2013 年

著 書

著 書 名	著 者 名	出 版 社	頁 数	発 行 年 月
森野藤助賽郭真写『松山本草』：森野旧薬園から学ぶ生物多様性の原点と実践	高橋京子	大阪大学出版会	572 頁	2014 年 2 月

学術講演会など

講 演 タ イ ト ル	場 所	年 月 日	備 考
適塾記念講演会「大坂洋学事始—その萌芽と成熟」 「緒方洪庵の薬箱」由来生薬の本草学的意義と東西融合医療	大阪大学会館	2013 年 12 月 14 日	主催：大阪大学 適塾記念センター

研究（学会）発表など

タ イ ト ル	場 所	年 月 日	備 考
医療文化財研究： 生薬標本の統計的数値化による新規解析法の構築と応用	第 8 回博物科学会 〔宮崎〕	2013 年 5 月 30—31 日	口頭発表
大和・大宇陀・史跡森野旧薬園所蔵の古石薬資料研究： 鉱物性生薬の時系列的調査	第 64 回日本東洋医学会 学術大会〔鹿児島〕	2013 年 5 月 31 日— 6 月 2 日	口頭発表
緒方洪庵の薬箱（大阪大学蔵）に収納された生薬資料研究： 残存生薬並びに丸剤の視覚化	第 64 回日本東洋医学会 学術大会〔鹿児島〕	2013 年 5 月 31 日— 6 月 2 日	口頭発表
本草学の展開：薬学・理学・農学連携が創る実践力	第 30 回和漢医薬学会 〔石川〕	2013 年 8 月 31 日— 9 月 1 日	シンポジウム
The scientific analysis of crude drugs inherited in Koan Ogata's medicine chest.	41 th International Congress for The History of Pharmacy 〔フランス〕	2013 年 9 月 10—14 日	ポスター発表
漢方薬『桂枝加竜骨牡蠣湯』における竜骨の存在意義	第 23 回漢方治療研究会 〔京都〕	2013 年 9 月 29 日	口頭発表
動物性生薬『牛黄』の安全評価：分光学的アプローチ	第 134 回日本薬学会 〔熊本〕	2014 年 3 月 28—30 日	口頭発表
化石由来生薬『竜骨』の基原と漢方処方中の存在意義： 分光法的アプローチ	第 134 回日本薬学会 〔熊本〕	2014 年 3 月 28—30 日	ポスター発表
薬用資源の文化財分析を応用した品質評価： 非破壊解析法の開発	第 134 回日本薬学会 〔熊本〕	2014 年 3 月 28—30 日	口頭発表
大和・大宇陀『森野旧薬園』の生薬資源： 栽培化の技術継承と地域ニーズ	第 134 回日本薬学会 〔熊本〕	2014 年 3 月 28—30 日	ポスター発表

報 道

タ イ ト ル	場 所	年 月 日	備 考
文化財の修復 3 事業を助成 朝日新聞文化財団 草木葉譜 江戸期の植物資料	朝日新聞	2013 年 10 月 30 日	

【共同研究および外部資金獲得状況】

科学研究費補助金およびその他の外部資金

補助金の種類および研究題目	研究代表者	期 間	継続 / 新規
科学研究費補助金：基盤研究(B) [分担金] 食品産業とバイオ産業の融合による栄養健康産業クラスターの構築に関する国際比較研究	後藤 一寿	2011— 2013 年度	継続
科学研究費補助金：挑戦的萌芽研究 博物学標本資料に基づく大阪学の確立： 木村兼葭堂と交遊ネットワークによる包括的研究	橋爪 節也	2013— 2014 年度	新規
科学研究費補助金：基盤研究(B) [分担金] 農業・農村を基盤とした医食農連携産業化の展開可能性	中川 光弘	2013— 2015 年度	新規
科学研究費補助金：基盤研究(B) 本草学の新展開： 医療文化財の非破壊分析法の開発と復元応用	高橋 京子	2013— 2015 年度	新規
研究成果公開促進費：学術図書 森野藤助賽郭写真『松山本草』： 森野旧薬園から学ぶ生物多様性の原点と実践	高橋 京子	2013 年度	新規

【社会貢献、管理運営等】

講演会、サイエンスカフェ、ミュージアム・レクチャーなど

講 演 名 ・ 題 目	場 所	主催者名	年月日
総合学術博物館 第55回ミュージアム・レクチャー 化石由来生薬『竜骨』研究の最前線：資源の保護と活用	大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館	大阪大学総合学術博物館	2013 年 8 月 17 日
森野旧薬園と宇陀野散策	森野旧薬園 [奈良]	NPO 法人 富山のくすし	2013 年 8 月 25 日
野外研修会 森野旧薬園と薬草料理	森野旧薬園 [奈良]	京都漢方研究会	2013 年 10 月 20 日
SSH 講演会 「薬学への招待」	武庫川女子大学附属 中学校・高等学校 [兵庫]	武庫川女子大学附属中学校・高等学校	2014 年 1 月 15 日

【教育活動】

担当授業

学 期 ・ 学 部	科 目 名
1 学期・共通教育科目 [全学部]	博物館体験コース [共担]
1 学期・理学研究科博士前期課程 (化)	核磁気共鳴分光学半期セミナーI [共担]
1 学期・理学研究科博士前期課程 (化)	核磁気共鳴分光学半期セミナーII [共担]
1 学期・理学研究科博士前期課程 (化)	核磁気共鳴分光学(I) [共担]
2 学期・理学研究科博士前期課程 (化)	核磁気共鳴分光学半期セミナーI [共担]
2 学期・理学研究科博士前期課程 (化)	核磁気共鳴分光学半期セミナーII [共担]
通年・理学部 (化)	化学特別研究
通年・理学部 (化)	化学文献調査
通年・理学研究科博士後期課程 (化)	核磁気共鳴分光学特別セミナー

学生指導

学生数 (留学生含む)	留 学 生 数	共同・分担した指導教官人数
2 名	0 名	2 名

学位論文審査等

学位申請者および論文名	主査 / 副査
[博士論文] 服部 良一 NMR Approach to Probe Protein-Protein Interactions Using ^{13}C -Methylation of Lysine Residues	副査

学外での教育活動 (集中講義等)

授 業 科 目 名	機 関 名	期 間
先端分析化学特論	東洋大学	2012 年 4-9 月

【研究活動】

学術論文

論 文 名	著 者 名	雑 誌	巻・号・頁	発行年月
多孔性配位高分子亜鉛錯体におけるゲスト相転移に対するホスト修飾効果	河野 早織 牛見 建彦 宮久保 圭祐 上田 貴洋	大阪大学低温 センター研究 報告書	平成 24 年度 頁 : 33-36	2013 年 12 月

研究（学会）発表など

タ イ ト ル	場 所	年月日	備 考
IMolecular Motion of Alcohols Adsorbed in ACF Hydrophobic Nanoslits as Studied by Solid State NMR	FOA11: 11th International Symposium on the Fundamentals of Adsorption [ボルチモ ア アメリカ合衆国]	2013 年 5 月 19-23 日	ポスター発表 連名
結晶性マイクロ孔に閉じ込められた凝縮相の相転移現象と そのマイクロ細孔場依存性	第 27 回日本吸着学会 研究発表会 [千葉]	2013 年 11 月 21-22 日	口頭発表 連名
セルロース加水分解過程の計算化学的研究	日本化学会第 94 春季 年会 [名古屋]	2014 年 3 月 27-30 日	口頭発表 連名

【社会貢献、管理運営等】

講演会、サイエンスカフェ、ミュージアム・レクチャーなど

講 演 名 ・ 題 目	場 所	主催者名	年月日
「手作り分光器で光を分けよう！」	基礎工学研究科	千里ライフサ イエンス振興 財団	2013 年 8 月 22 日

【教育活動】

担当授業

学 期 ・ 学 部	科 目 名
1 学期・共通教育科目 [工(電)]	化学概論
1 学期・共通教育科目 [全学部]	博物館体験コース [共担]
1 学期・共通教育科目 [医(医), 薬(薬, 薬科学)]	化学実験 [共担]
1 学期・共通教育科目 [理]	自然科学実験 2 化学 [共担]
1 学期・理学研究科博士前期課程 (化)	核磁気共鳴分光学半期セミナーI [共担]
1 学期・理学研究科博士前期課程 (化)	核磁気共鳴分光学半期セミナーII [共担]
1 学期・理学研究科博士前期課程 (化)	核磁気共鳴分光学(I) [共担]
2 学期・理学研究科博士前期課程 (化)	核磁気共鳴分光学半期セミナーI [共担]
2 学期・理学研究科博士前期課程 (化)	核磁気共鳴分光学半期セミナーII [共担]

【社会貢献、管理運営等】

講演会、サイエンスカフェ、ミュージアム・レクチャーなど

講 演 名 ・ 題 目	場 所	主催者名	年月日
「都市の中のホテル観察会」～ホテルの光のひみつと生態について探る～ 第1部 「ホテルの光のひみつ」～講義と実験～	豊中市教育センター [大阪]	豊中市立蛍池 公民館、北部地 域連携センタ ー	2013 年 6 月 1 日
豊中市立小・中学校理科展表彰式 講演「ホテルの光のひみつ」	豊中市教育センター [大阪]	豊中市教育セ ンター	2013 年 12 月 7 日
サイエンスカフェ@待兼山 No. 114 ホテルの光のひみつ	大阪大学総合学術博 物館 待兼山修学館	大阪大学総合 学術博物館	2014 年 1 月 11 日

研究 (学会) 発表など

タ イ ト ル	場 所	年月日	備 考
セルロース加水分解過程の計算化学的研究	日本化学会第 94 春季 年会 [名古屋]	2014 年 3 月 27-30 日	口頭発表 連名

【教育活動】

担当授業

学 期 ・ 学 部	科 目 名
1 学期・共通教育科目 [医(医)]	化学概論
1 学期・共通教育科目 [工(理)]	化学実験 [共担]
1 学期・共通教育科目 [全学部]	博物館体験コース [共担]
1 学期・共通教育科目 [歯,基(電,化)]	化学実験 [共担]
1 学期・理学研究科博士前期課程 (化)	核磁気共鳴分光学半期セミナーI [共担]
1 学期・理学研究科博士前期課程 (化)	核磁気共鳴分光学半期セミナーII [共担]
1 学期・理学研究科博士前期課程 (化)	核磁気共鳴分光学(I) [共担]
2 学期・理学研究科博士前期課程 (化)	核磁気共鳴分光学半期セミナーI [共担]
2 学期・理学研究科博士前期課程 (化)	核磁気共鳴分光学半期セミナーII [共担]

【研究活動】

学術論文

論 文 名	著 者 名	雑 誌	巻・号・頁	発行年月
多孔性配位高分子亜鉛錯体におけるゲスト相転移に対する宿主修飾効果	河野 早織 牛見 建彦 宮久保 圭祐 上田 貴洋	大阪大学低温 センター研究 報告書	平成 24 年度 頁：33-36	2013 年 12 月

研究 (学会) 発表など

タ イ ト ル	場 所	年 月 日	備 考
結晶性マイクロ孔に閉じ込められた凝縮相の相転移現象とそのマイクロ細孔場依存性	第 27 回日本吸着学会 研究発表会 [千葉]	2013 年 11 月 22 日	連名

【教育活動】

担当授業

学 期 ・ 学 部	科 目 名
1 学期・文学部	東洋美術史演習 [共担]
1 学期・文学部	日本美術史演習
1 学期・共通教育科目	博物館体験コース [共担]
1 学期・文学研究科博士前期課程	東洋美術史修士論文作成演習 [共担]
1 学期・文学研究科博士前期課程	日本美術史演習
1 学期・文学研究科博士後期課程	東洋美術史博士論文作成演習 [共担]
1 学期・文学研究科博士後期課程	日本美術史特殊演習
2 学期・文学部	東洋美術史演習 [共担]
2 学期・文学部	日本美術史講義
2 学期・文学部	日本美術史演習
2 学期・文学研究科博士前期課程	東洋美術史修士論文作成演習 [共担]
2 学期・文学研究科博士前期課程	日本美術史講義
2 学期・文学研究科博士前期課程	日本美術史演習
2 学期・文学研究科博士後期課程	東洋美術史博士論文作成演習 [共担]
2 学期・文学研究科博士後期課程	日本美術史特殊講義
2 学期・文学研究科博士後期課程	日本美術史特殊演習
通年・文学部	日本美術史演習（見学演習 1） [共担]
通年・文学部	日本美術史演習（見学演習 2） [共担]
通年・文学部	博物館学（学内実習） [共担]
通年・文学研究科博士前期課程	日本美術史演習（見学演習 1） [共担]
通年・文学研究科博士前期課程	日本美術史演習（見学演習 2） [共担]
通年・文学研究科博士後期課程	日本美術史特殊演習（見学演習 1） [共担]
通年・文学研究科博士後期課程	日本美術史特殊演習（見学演習 2） [共担]

学生指導

学生数（留学生含む）	留 学 生 数	共同・分担した指導教官人数
22 名	1 名	3 名

学位論文審査等

学 位 申 請 者 お よ び 論 文 名	主 査 / 副 査
[修士論文] 仏功德蒔絵経箱に関する一考察 —蒔絵技法と意匠をめぐって—	副査
[修士論文] 室町時代の漢画系四季花鳥図について	副査
[修士論文] 伝岩佐又兵衛筆「職人尽図巻」（出光美術館蔵）について —雑芸者の位置付けを中心に—	副査
[修士論文] 与謝蕪村の丹後時代	主査
[博士論文] 古谷 優子 仏涅槃図の研究—図像とテキストの関係をめぐって—	副査

学外での教育活動（集中講義等）

授 業 科 目 名	機 関 名	期 間
古美術研究	愛知県立芸術大学	2013年4月－ 2014年3月
美の感動を生む場所－美術館	放送大学大阪学習センター（放送 大学学園）	2013年10月－ 2014年3月

【研究活動】

学 術 論 文

論 文 名	著 者 名	雑 誌	巻・号・頁	発行年月
画家とポスターの緩やかな周辺 －大阪モダニズムの画家三態	橋爪節也	美術フォーラ ム 21	号：27 頁：79-85	2013年5月

著 書

著 書 名	著 者 名	出版社	頁 数	発行年月
大阪大学総合学術博物館叢書（9） 戦後大阪のアヴァンギャルド芸術 －焼け跡から万博前夜まで－	橋爪節也・加藤瑞穂 編著	大阪大学出版 会	総頁数：96	2013年 7月5日

その他の執筆活動（総説、評論、辞典項目、各種記事など）

タ イ ト ル 等	発 行 機 関 名	発 行 年 月
踊る大道頓堀－DOUTONBORI－ “道頓堀ジャズ”街のヴィジュアルを追体験する	華宙舎 「ニッポンジャズ水滸伝 地之 巻」ブックレット 頁：21-29	2013年6月
座談 I 「道頓堀ジャズ」の可能性 －ジャズの初期受容をめぐる	華宙舎 「ニッポンジャズ水滸伝 地之 巻」ブックレット 頁：30-42	2013年6月
WHOOPEE! WHOOPEE! 大大阪!	ぐらもくらぶ「大大阪ジャズ JAZZ in The GREAT OSAKA」 ブックレット 序文	2013年7月
表紙解説 森 琴石『天神渡御之図』（銅版画）	大阪天満宮社務所 大阪天満宮社報「てんまてんじ ん」 号：64 頁：2	2013年7月
アートなる人々 芝川照吉の周辺 －竹本彌太夫、木谷蓬吟・千種、吉岡重三郎	京都国立近代美術館 京都国立近代美術館ニュース「視 る」 号：466 頁：5-8	2013年8月
オダサク本の装釘家たち 時代の香りが書棚に薫って……	オダサク倶楽部『織田作之助 昭 和を駆け抜けた伝説の文士“オダ サク”』 頁：164-171	2013年8月
絵のなかの“大大阪”	株式会社平凡社 『織田作之助の大阪 生誕 100 年 記念』 頁：57-67	2013年9月
「大大阪」時代の息吹を現代に。 庶民的でモダンな『大大阪』	株式会社 毎日新聞社 毎日新聞 9月28日（土）夕刊 「大大阪」の時代を特集 頁：7	2013年9月
大阪市立工芸高等学校創立 90 年 デザイン教育研究所創 立 25 周年記念 記念誌 特別寄稿「“大大阪”の申し子として－市立工芸の原点－」	大阪市立工芸高等学校、大阪市立 デザイン教育研究所 2013年 芸草 頁：124-125	2013年10月

タイトル等	発行機関名	発行年月
近代大阪と女性画家の時代 —第三回 生田花朝—	(公財) 関西・大阪 21 世紀協会、 上方文化芸能運営委員会 『やそしま』 号:7 頁:98-139	2013 年 10 月
特集 浪速なんでも 大阪 名所探訪 いまむかし	(株) アダック 『てんとう虫』 号:589 頁:10-15, 18-22	2013 年 11 月
大学博物館と美術展 「オオサカがとんがっていた時代」展を通じて	筑波大学芸術系 「シンポジウム アートリソース の活用と大学附属美術館の設置」 頁:17-28	2014 年 3 月
なにわの画伯 成瀬國晴氏に聞く 4 追悼 藤本義一さんの思い出	新風書房『大阪春秋』 号:150 頁:97-99	2013 年 4 月
なにわの画伯 成瀬國晴氏に聞く 5 スポーツあれこれ	新風書房『大阪春秋』 号:151 頁:101-103	2013 年 7 月
「絵を飾る人のキモチ」 第 1 回 絵のある最初は?—個人的記憶から	積水ハウス SUMUFUMULAB COLUMN 「いきかたのカタチ」 Web 掲載	2013 年 4 月
「絵を飾る人のキモチ」 第 2 回 「夫婦善哉」の時代を飾った洋画家・小出楯重	積水ハウス SUMUFUMULAB COLUMN 「いきかたのカタチ」 Web 掲載	2013 年 9 月
「絵を飾る人のキモチ」 第 3 回 《モナリザ》がわが家にきたら……それと《香里風景》の 謎解きとは	積水ハウス SUMUFUMULAB COLUMN 「いきかたのカタチ」 Web 掲載	2014 年 2 月
AS TIME GOES BY ～時の過ぎゆくままに～ 二〇世紀少年、EXPO'70 の年にラジオに目覚める	MtS Publishing Factory (WHOLE EARTH MAGAZINE FM COCOLO 号:1 頁:34)	2013 年 4 月
AS TIME GOES BY ～時の過ぎゆくままに～ “アヴァンギャルド”の夢をみる。 「大阪の秋 国際現代音楽祭」	MtS Publishing Factory 『WHOLE EARTH MAGAZINE FM COCOLO』 号:2 頁:34	2013 年 7 月
AS TIME GOES BY ～時の過ぎゆくままに～ ジャズるモダン大阪——二つの復刻版	MtS Publishing Factory 『WHOLE EARTH MAGAZINE FM COCOLO』 号:3 頁:36	2013 年 10 月
AS TIME GOES BY ～時の過ぎゆくままに～ O Freunde, nicht diese Töne! —おお友よ、このような音ではない!	MtS Publishing Factory 『WHOLE EARTH MAGAZINE FM COCOLO』 号:4 頁:36	2014 年 1 月
おおさか KEY わーど 第 34 回 “桜咲く国のカクテル” 少女歌劇団のレビューに酔う	大阪市教育委員会 生涯学習情報誌「いちよう並木」 号:367 頁:3	2013 年 4 月
おおさか KEY わーど 第 35 回 商売繁盛の神様、古代ローマより飛来す かしこくて素早 い商都の守り神	大阪市教育委員会 生涯学習情報誌「いちよう並木」 号:368 頁:3	2013 年 5 月
おおさか KEY わーど 第 36 回 オオサカはとんがっていたか? アヴァンギャルド芸術 がさかんだった大阪	大阪市教育委員会 生涯学習情報誌「いちよう並木」 号:369 頁:3	2013 年 6 月
おおさか KEY わーど 第 37 回 “怪談” “お化け屋敷” で涼みましょ 今昔館で「肝だめし」	大阪市教育委員会 生涯学習情報誌「いちよう並木」 号:370 頁:3	2013 年 7 月
おおさか KEY わーど 第 38 回 それでも私は行く 生誕 100 年 織田作之助	大阪市教育委員会 生涯学習情報誌「いちよう並木」 号:371 頁:3	2013 年 8 月

タイトル等	発行機関名	発行年月
おおさかKEYワード 第39回 ここに泉あり 街に流れる大阪クラシック	大阪市教育委員会 生涯学習情報誌「いちよう並木」 号：372 頁：3	2013年9月
おおさかKEYワード 第40回 讀えよ地下鉄 スピード時代 ー大大阪地下鉄行進曲ー	大阪市教育委員会 生涯学習情報誌「いちよう並木」 号：373 頁：3	2013年10月
おおさかKEYワード 第41回 町の名が喚起するもの 山崎豊子と織田作之助の小説へ	大阪市教育委員会 生涯学習情報誌「いちよう並木」 号：374 頁：3	2013年11月
おおさかKEYワード 第42回 なにわの葦はとこしえに 百人一首から現代芸術まで	大阪市教育委員会 生涯学習情報誌「いちよう並木」 号：375 頁：3	2013年12月
おおさかKEYワード 第43回 初午祭りや神樹のある風景 庶民信仰の生きる街を歩く	大阪市教育委員会 生涯学習情報誌「いちよう並木」 号：376 頁：3	2014年2月
おおさかKEYワード 第44回 浪華は春も早く来るらし ー女性画家が切りとる子どもたちの日常ー	大阪市教育委員会 生涯学習情報誌「いちよう並木」 号：377 頁：3	2014年3月

研究（学会）発表など

タイトル	場所	年月日	備考
医療文化財研究： 生薬標本の統計的数値化による新規解析法の構築と応用	第8回博物科学会 〔宮崎〕	2013年 5月31日	連名
研究発表 旧そごう心齋橋本店・藤川勇造《飛躍》の像再考 ——商都の象徴としてのメルクリウスとかかわって——	大正イマジュリイ学会 第11回全国大会 〔京都〕	2014年 3月9日	

報道

タイトル	場所	年月日	備考
昭和時代 第3部 戦前・戦中期（1926～44年） 第7回	読売新聞	2013年 4月6日	コメント
美術都市大阪 作品から感じて 「パリー大阪展」で解説	読売新聞	2013年 5月8日	イベント情報
いまドキ関西 とんがっていた時代伝える 大阪の芸術・文化を再検証	日本経済新聞	2013年 5月16日	
おださくが歩いた大阪	産経新聞	2013年 8月1日	イベント情報
ラボカフェ 織田作之助生誕 100周年	日本経済新聞	2013年 8月5日	イベント情報
「具体美術協会」高まる再評価 大阪的個性 世界を魅了 型にはまらぬ集団生む	読売新聞	2013年 9月5日	コメント
「大阪惜愛」複雑な郷愁	読売新聞	2013年 9月26日	提供資料掲載
織田作之助と大大阪展 新資料10点公開「夫婦善哉」草稿も	産経新聞	2013年 9月27日	イベント情報
話題を追う 誇りと郷土心 育む場に	大阪日日新聞	2013年 10月21日	コメント
舞台の遺伝子 知的好奇心の源流 脈々と	産経新聞	2013年 11月30日	インタビュー

タイトル	場所	年月日	備考
「道頓堀プール」大正時代すでにあった“構想”、それより欲しいのは「博物館」…橋爪節也氏指摘	msn 産経ニュース west	2014年 1月1日	Web 掲載
熱風の日本史 第19回 未来都市へ“民族大移動” (昭和) 遠見卓見 万博経験者の聞き取り必要	日本経済新聞	2014年 1月5日	
間奏曲 「心ぶら」と共に消えた「カワチ」	読売新聞	2014年 1月16日	コメント
大阪を再発見する講座 企業家ミュージアム、受講募集	毎日新聞	2014年 1月16日	イベント情報
館長インタビュー④ 橋爪節也	吹田市立博物館だより	2014年 3月15日	第57号 インタビュー
戦後の大阪文化テーマに講演会 「おもろい」もの作っていた	産経新聞	2014年 3月19日	
記念講演 ディスプレイの力、展示装飾のパラダイス —江戸時代の大阪ディスプレイから EXPO'70 まで—	大阪ディスプレイ協 同組合 創立 50 周年 記念誌	2014年 3月	5/15 記念講演 内容

【共同研究および外部資金獲得状況】

科学研究費補助金およびその他の外部資金

補助金の種類および研究題目	研究代表者	期間	継続 / 新規
科学研究費補助金：挑戦的萌芽研究 博物学標本資料に基づく大阪学の確立：木村兼葎堂と交遊 ネットワークによる包括的研究	橋爪 節也	2013— 2014年度	新規

【社会貢献、管理運営等】

講演会、サイエンスカフェ、ミュージアム・レクチャーなど

講演名・題目	場所	主催者名	年月日
パリー大阪大学 街と芸術をめぐる物語 アートレクチャー・美術都市大阪発見 ——ミラボー橋の 下、セーヌが流れ、“大大阪”にはモダニズムが香る	大丸ミュージアム(梅 田) [大阪]	大阪市、読売新 聞社、大丸松坂 屋百貨店	2013年 5月7日
大阪ディスプレイ協同組合 創立 50 周年記念式典 記念講演会「ディスプレイの力、展示装飾のパラダイス —江戸時代の大阪ディスプレイから EXPO'70 まで—」	ホテル日航大阪	大阪ディスプ レイ協同組合	2013年 5月15日
地域文化創造セミナー『関西の文化・芸能・まちづくりを 考える』第3回 探検！発見！関西の近代化遺産 2～アートと建築まち巡 り～	追手門学院 大阪梅田 サテライト	追手門学院大 学『地域文化創 造機構』、明治 安田生命『関西 を考える会』	2013年 6月7日
大阪の地域文化を照射する 第3回 「船場・島之内の街と芸術」	追手門学院 大阪梅田 サテライト	追手門学院大 学校友会	2013年 6月13日
エクスカッション (第一部) 話題のリチウム電池船で行く・水都大阪スペシャルツアー	芸術工学会 2013 年度 春期大会 [大阪・京都]	芸術工学会	2013年 6月16日
エクスカッション (第二部) ディープな大阪まち歩き	芸術工学会 2013 年度 春期大会 [大阪・京都]	芸術工学会	2013年 6月16日
吹田市立博物館 平成 25 年度 第 1 回企画展 「吹田村庄屋 気比家の絵画」 座談会 大坂画壇座談会	吹田市立博物館 [大阪]	吹田市立博物 館	2013年 6月23日
街の風景にアヴァンギャルドを探る 屋外モニュメント探索ツアー 豊中・大阪編	豊中市内～大阪市内 [大阪]	豊中市	2013年 6月29日
穎川美術館 開館 40 周年記念 文化講座 「浪花百景」を読み解く —近世大坂観光への誘い—	穎川美術館 [兵庫]	公益財団法人 穎川美術館	2013年 7月14日

講演名・題目	場 所	主催者名	年月日
文楽座学「八丁目さしておちていく」～「浪花百景」にみる大阪と「夏祭浪花鑑」の周辺～	国立文楽劇場〔大阪〕	国立文楽劇場 文楽劇場友の会	2013年 7月27日
『戦後大阪のアヴァンギャルド芸術』刊行記念トークイベント「オオサカがとんがっていた時代―戦後大阪のアヴァンギャルド芸術」	紀伊國屋書店グランフロント大阪店	紀伊國屋書店 グランフロント大阪店	2013年 7月30日
大阪大学 21世紀懐徳堂塾 OSAKAN CAFÉ 織田作之助生誕100周年 おださくが歩いた大阪 トークサロン	アートエリア B1 〔大阪〕	アートエリア B1〔大阪大学 +NPO 法人ダ ンスボックス+ 京阪電気鉄道 (株)〕、 大阪大学 21 世 紀懐徳堂	2013年 8月10日
国際シンポジウム「大学とミュージアム」 (ディスカッサント)	九州大学創立五十周年記念講堂〔福岡〕	科研共同研究 ≪大学におけ る「アート・リ ソース」の活用 に関する基礎 的研究≫	2013年 8月24日
第45回 大阪大学公開講座 戦後大阪の“アバンギャルド芸術”再考 ―戦前のモダニズムから読み直す―	大阪大学中之島セン ター	大阪大学	2013年 9月11日
大阪歴史博物館 特別企画展「生誕100年記念 織田作之助と大大阪」 関連行事 講演会「織田作之助と大大阪時代」	大阪歴史博物館	織田作之助生 誕100周年記念 事業推進委員 会、大阪歴史博 物館	2013年 9月29日
第34回 文学碑記念の集い 講演「オダサクと画家、そしてミナミ」	大平寺〔大阪〕	大阪市・大阪市 文化振興事業 実行委員会	2013年 10月5日
平成25年度秋季特別展 池田遊子と知られざる日本絵画―近代南画の世界― 展 記念講演会「近代大阪と南画」	天門美術館〔大阪〕	(財)天門美術 館	2013年 10月12日
講演会&シンポジウム「賑わいとふれあいの街・戎橋筋―100年の歴史を未来にはしわたす」シンポジウム「～歴史と賑わいをはしわたす～戎橋筋商店街の魅力」	大阪市立中央図書館	大阪市立中央 図書館	2013年 11月4日
大学博物館、街に出る これでもいいのか？ 大阪のミュージアム ―地域文化と学術研究の担い手を目指して― 第1部 基調報告「歴史と記憶をつなぐ―「オオサカがとんがっていた時代」を通じて」	大阪大学中之島セン ター	大阪大学総合 学術博物館、 大阪商業大学 商業史博物館	2013年 11月9日
大学博物館、街に出る これでもいいのか？ 大阪のミュージアム ―地域文化と学術研究の担い手を目指して― 第2部 ディスカッション「これでもいいのか？ 大阪のミュージアム―それぞれの立場から―」	大阪大学中之島セン ター	大阪大学総合 学術博物館、 大阪商業大学 商業史博物館	2013年 11月9日

講演名・題目	場所	主催者名	年月日
筑波大学開学 40+101 周年記念事業 シンポジウム アート・リソースの活用と大学附属美術館の設置 —開学 50 周年にむけたリサーチ・ユニヴァーシティ機能 の拡充	筑波大学〔茨城〕	筑波大学芸術系、筑波大学芸術学美術史学会、科学研究費補助金 基盤研究(B)「大学における『アート・リソース』の活用に関する基礎的研究」	2013 年 11 月 16 日
ラボカフェスペシャル×鉄道芸術祭「上方本談、どこまでも話す年 其の五」独談「“大坂の知の巨人” 木村兼葎堂を語る」	アートエリア B1〔大阪〕	アートエリア B1〔大阪大学 +NPO 法人ダンスボックス+京阪電気鉄道(株)〕	2013 年 11 月 28 日
豊中市小・中学校理科展表彰式 大阪大学博物館長賞、待兼山賞表彰	豊中市教育センター〔大阪〕	豊中市教育センター	2013 年 12 月 7 日
第 51 回なにわ芸術祭新人賞選出 「新進落語家競演会」(審査員)	天満天神繁昌亭〔大阪〕	上方落語協会、産経新聞社	2014 年 1 月 17 日
講座・おおさかを知る ～昭和モダンから高度経済成長期まで～ <第 1 回/大阪と美術>大阪の企業家、アートに遊ぶ —佐伯祐三を発見した蒐集家・山本發次郎と前衛美術団体『具体美術協会』の吉原治良—	大阪企業家ミュージアム	大阪商工会議所 大坂企業家ミュージアム	2014 年 1 月 18 日
SUMUFUMULAB コラムニスト×研究員住ムフムセッション<第 8 回> 絵のある空間 その素敵な生活へのヒント	積水ハウス住ムフムラボ〔大阪〕	積水ハウス	2014 年 2 月 27 日
大阪大学 21 世紀懐徳堂塾 OSAKAN CAFÉ「音楽・記号・光」—アートが街のデザインを変えた—きみはアストロメカニクールを知っていますか？ あなたはアストロメカニクールを憶えていますか！ トークサロン	アートエリア B1〔大阪〕	アートエリア B1、大阪大学 21 世紀懐徳堂	2014 年 3 月 16 日
サロン・ド・中之島 ～もっと好きになる公会堂 vol.4～ 講演・交流会 “大大阪”再発見～これらを知らずにオオサカを語るなかれ、大阪市中央公会堂の天井画・壁画とミネルバ、メルキュールの像～	大阪市中央公会堂	大阪市中央公会堂指定管理者、サントリーパブリシティ—サービス・グループ	2014 年 3 月 17 日
公開シンポジウム 「菅楯彦のこころを巡って」パネリスト	鳥取県立博物館	鳥取県立博物館、読売新聞社、美術館連絡協議会	2014 年 3 月 29 日

【教育活動】

担当授業

学 期 ・ 学 部	科 目 名
1 学期・共通教育科目	博物館体験コース [共担]
通年・文学部	博物館学(学内実習) [共担]

学外での教育活動（集中講義等）

授 業 科 目 名	機 関 名	期 間
視覚文化の世界	大阪市立大学	2013 年 4-9 月
映画の歴史	大手前大学	2013 年 9 月- 2014 年 3 月
国際社会と日本文化Ⅲ(伝統芸能)	大阪国際大学	2013 年 10 月- 2014 年 3 月

【研究活動】

研究（学会）発表など

タ イ ト ル	場 所	年 月 日	備 考
日本近代演劇の資料と研究	2013 年度 日本演劇 学会 研究集会	2013 年 10 月 13 日	シンポジウム

【共同研究および外部資金獲得状況】

科学研究費補助金およびその他の外部資金

補助金の種類および研究題目	研究代表者	期 間	継続 / 新規
科学研究費補助金：若手研究(B) 日本の初期映画の制度的環境に関する研究	横田 洋	2012- 2014 年度	継続

【社会貢献、管理運営等】

講演会、サイエンスカフェ、ミュージアム・レクチャーなど

講 演 名 ・ 題 目	場 所	主催者名	年 月 日
2013 年度 立命館大阪プロムナードセミナー 大阪・京都文化講座 後期 古きものと新しきもの——大阪京都の芸術 第 1 回 連鎖劇と大阪	立命館大学大阪梅田 キャンパス	共催：大阪大学 大学院文学研 究科、大阪大学 21 世紀懐徳堂、 立命館大学文 学部、立命館大 阪オフィス	2013 年 9 月 30 日

特任講師（常勤） 松永 和浩

【教育活動】

担当授業

学 期 ・ 学 部	科 目 名
1 学期・共通教育科目	博物館体験コース [共担]
通年・文学部	博物館学(学内実習) [共担]

学外での教育活動（集中講義等）

授 業 科 目 名	機 関 名	期 間
人間と文化 C (国際関係史 A)	帝塚山大学	2013 年 4-8 月
人間と文化 D (国際関係史 B)	帝塚山大学	2013 年 9 月- 2014 年 3 月

【研究活動】

学術論文

論 文 名	著 者 名	雑 誌	巻・号・頁	発行年月
公事徴収システムと諸階層の得分	松永和浩	生活と文化の 歴史学 3「富裕 と貧困」	巻：3 頁：338-366	2013 年 5 月
市沢哲氏の 14 世紀史研究をめぐって	松永和浩	歴史科学	号：212 頁：7-20	2013 年 5 月
西岡国人神足氏と室町幕府	松永和浩	史敏	号：12 頁：78-95	2014 年 3 月

その他の執筆活動（総説、評論、辞典項目、各種記事など）

タ イ ト ル 等	発 行 機 関 名	発 行 年 月
大阪大学総合学術博物館創立 10 周年記念事業	大学博物館等協議会ニューズレ ター 号：15 頁：8-9	2013 年 5 月
新聞紙上の富田好久先生	池田郷土史学会富田好久先生米 寿記念誌編集委員会『富田好久先 生米寿記念誌』 頁：162	2014 年 1 月
史料研究『兼仲卿記』紙背文書 正応元年八月巻	国立歴史民俗博物館 『国立歴史民俗博物館研究報告』 号：186 頁：209-231	2014 年 3 月

学術講演会など

講 演 タ イ ト ル	場 所	年 月 日	備 考
酒造業の近代化と北摂	池田市立コミュニテ ィーセンター [大阪]	2013 年 7 月 21 日	池田郷土史学 会例会
洋酒王国・大阪	大阪大学中之島セン ター [大阪]	2013 年 10 月 11 日	第 45 回大阪大 学公開講座

研究（学会）発表など

タ イ ト ル	場 所	年 月 日	備 考
大阪大学総合学術博物館における学芸員養成の取り組み	大学博物館等協議会 シンポジウム「大学の 教育研究と博物館活 動との連携—その実 質化の取組」〔宮崎〕	2013年 5月30日	

報 道

タ イ ト ル	場 所	年 月 日	備 考
15●The Story of Sake Brewing in the Kansai Region	GRAMATAS NO JAPANAS UNIVERSITATES PRESSES	2013年	リーガ国際図 書展 カタログ

【社会貢献、管理運営等】

講演会、サイエンスカフェ、ミュージアム・レクチャーなど

講 演 名 ・ 題 目	場 所	主 催 者 名	年 月 日
夏の小学生科学体験教室 「今は豊中市、むかしは〇〇村？」	大阪大学総合学術博 物館 待兼山修学館	大阪大学総合 学術博物館、豊 中市立中央公 民館	2013年 8月7日

9. 資料

掲載項目

- ・ 2013 年度の主な活動一覧
- ・ 入館者数及びアンケート集計結果一覧
- ・ 団体見学一覧
- ・ 関連記事一覧
- ・ 寄贈図書一覧
- ・ 館内配置図

2013年度の主な活動一覧

期 間

主 な 活 動

2013年

- 4月20日 「第9回植物探検隊@春の待兼山を訪ねて」が開催された。(主催：大阪大学 21世紀懐徳堂 協力：大阪大学総合学術博物館)
- 4月27日～7月6日 大阪大学総合学術博物館 第16回企画展「オオサカがとんがっていた時代 一戦後大阪の前衛美術 焼け跡から万博前夜まで」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市、大阪大学大学院文学研究科、大阪大学大学院工学研究科 協力：大阪大学 21世紀懐徳堂 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
- 5月4日 大阪大学総合学術博物館 第49回ミュージアム・レクチャー「作り手の理論 聴き手の楽しみ—昭和30年代の大阪における芸術音楽について」を開催した。(講師：大阪大学大学院文学研究科招へい研究員 上野正章氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
- 5月11日 大阪大学総合学術博物館 豊中市との共催企画 ワークショップ「〈豊中〉再発見」を開催した。(講師：造形作家 森口ゆたか氏 会場：カトリック豊中教会)
- 5月11日 「第9回植物探検隊@春の待兼山を訪ねて」が開催された。(主催：大阪大学 21世紀懐徳堂 協力：大阪大学総合学術博物館)
- 5月12日 畑田家住宅（登録有形文化財）の一般公開および第16回 畑田塾が開催された。(主催：畑田家住宅活用保存会 後援：羽曳野市・羽曳野市教育委員会 協賛：大阪大学総合学術博物館)
- 5月18日 大阪大学総合学術博物館 第50回ミュージアム・レクチャー「デザインと前衛芸術、その大阪での融合」を開催した。(講師：大阪市立大学非常勤講師・サントリーホールディングス 竹内幸絵氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
- 5月25日 大阪大学総合学術博物館 第51回ミュージアム・レクチャー「移りゆく街に埋もれるアヴァンギャルドな表現力」を開催した。(講師：大阪大学大学院工学研究科准教授 小浦久子氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
- 6月1日 大阪大学総合学術博物館「具体」関連企画 トーク「実験としての美術館 グタイピナコテカ」を開催した。(ゲスト：作家 前川強氏、作家 松谷武判氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
- 6月1日 「『都市の中のホタル観察会』～ホタルの光のひみつと生態について探る～」を開催し、その中で「ホタルの光のひみつ」が開催された。(主催：豊中市立蛭池公民館、北部地域連携センター 協力：大阪府立刀根山高等学校 後援：大阪大学総合学術博物館 講師：大阪大学総合学術博物館准教授 豊田二郎)
- 6月8日 大阪大学総合学術博物館「具体」関連企画 ワークショップ「部分と全体」を開催した。(講師：作家・元具体会員 堀尾貞治氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
- 6月15日 大阪大学総合学術博物館 豊中市との共催企画 ワークショップ「つくって あそんで かんじる ダンボールトンネル迷路」を開催した。(講師：美術家 大野良平氏 会場：豊中市立市民ギャラリー)
- 6月22日 大阪大学総合学術博物館「具体」関連企画 トーク「グッゲンハイム美術館での Gutai」を開催した。(ゲスト：京都国立近代美術館情報資料室長・主任研究員 平井章一氏、大阪大学総合学術博物館招へい准教授 加藤瑞穂)
- 6月22日 日本第四紀学会特別講演会【自然環境の過去・現在から未来を見据える：環境と自然災害】が開催された。(主催：日本第四紀学会 共催：大阪大学理学研究科、大阪大学総合学術博物館 協力：大阪大学 21世紀懐徳堂)
- 6月29日 「街の風景にアヴァンギャルドを探る 屋外モニュメント探索ツアー 豊中・大阪編」が開催された。(主催：豊中市 共催：大阪大学総合学術博物館 協力：大阪大学 21世紀懐徳堂 案内人：大阪大学総合学術博物館館長 橋爪節也)

期 間

主 な 活 動

- 7月19日～10月27日 北海道大学総合博物館夏季企画展示「巨大ワニと恐竜の世界 巨大爬虫類 2億3千万年の攻防」が開催された。(主催：北海道大学総合博物館 共催：大阪大学総合学術博物館、北海道大学 GCOE プロジェクト「境界研究の拠点形成」)
- 7月20日～8月31日 大阪大学総合学術博物館 2013年夏期ミニ企画展「日本にいた!“絶滅”古生物 阪大博×化石ハンター×古生物イラストレーター」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 協力：北海道大学総合博物館、京都造形芸術大学、鹿児島大学理学部、大阪大学 21世紀懐徳堂、和歌山県立自然博物館、きしわだ自然資料館、パナソニック(株)、パナソニック出光 OLED 照明(株)、築地書館(株) 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
- 7月20日 大阪大学総合学術博物館 第52回ミュージアム・レクチャー「化石発掘は楽しい：大物化石発掘の秘訣」「古生物イラスト作成裏話」を開催した。(講師：化石ハンター・パナソニック(株) 宇都宮聡氏、古生物イラストレーター 川崎悟司氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
- 7月27日 大阪大学総合学術博物館 第53回ミュージアム・レクチャー「大阪にもいた大きな古生物たち」を開催した。(講師：きしわだ自然資料館専門員 渡辺克典氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
- 8月3日 「大阪大学 理学部化学科 一日体験入学」が開催された。(主催：大阪大学理学部化学科、日本学術振興会 共催：大阪大学総合学術博物館、日本化学会)
- 8月6日 平成25年 大阪中学生サマー・セミナー 大阪大学総合学術博物館開設講座「ホタルの光のひみつ」が開催された。(主催：大阪中学生サマー・セミナー推進協議会 後援：大阪府 講師：大阪大学総合学術博物館 豊田二郎)
- 8月7日 平成25年度 夏の小学生科学体験教室「今は豊中市、むかしは〇〇村？」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館、豊中市立中央公民館 講師：大阪大学総合学術博物館 松永和浩 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
- 8月8日 平成25年度 夏の小学生科学体験教室「光と遊んで、虹色万華鏡を作ろう」「アッ！っと驚くおもしろ実験、これは簡単！おもしろ工作！」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館、豊中市立中央公民館 講師：江角陸氏、馬場二夫氏、浅岡末治氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
- 8月9日 平成25年度 夏の小学生科学体験教室「「えれめんランプ」をしながら元素を知ろう！」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館、豊中市立中央公民館 講師：桜井弘氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
- 8月10日 大阪大学総合学術博物館 第54回ミュージアム・レクチャー「モササウルス化石の発掘記」を開催した。(講師：和歌山県立自然博物館学芸員 小原正顕氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
- 8月17日 大阪大学総合学術博物館 第55回ミュージアム・レクチャー「化石由来生薬『竜骨』研究の最前線：資源の保護と活用」を開催した。(講師：大阪大学総合学術博物館准教授 高橋京子 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
- 8月24日 大阪大学総合学術博物館 第56回ミュージアム・レクチャー「マチカネワニの深まる謎」を開催した。(講師：大阪大学理事・副学長・前総合学術博物館長 江口太郎氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
- 8月26日 大阪大学総合学術博物館 第57回ミュージアム・レクチャー「フィールドと最新恐竜研究～恐竜発掘の現場から」を開催した。(講師：大阪大学総合学術博物館招へい准教授・北海道大学総合博物館准教授 小林快次 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
- 8月31日 大阪大学総合学術博物館 第58回ミュージアム・レクチャー「奇石と古生物：化石今昔物語」を開催した。(講師：大阪大学総合学術博物館研究支援推進員 伊藤謙 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
- 9月7日 サイエンスカフェ@待兼山 No.108「DNA情報からよみとる生物進化とランダムネス」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：大阪大学 21世紀懐徳堂 講師：大阪大学大学院基礎工学研究科 下平英寿氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)

期 間

主 な 活 動

- 9月9日～9月14日 大阪大学美術部夏部展が開催された。(主催：大阪大学美術部 共催：大阪大学総合学術博物館 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
- 9月14日 サイエンスカフェ@待兼山 No.109「『ハイジ』から学ぶ世界史」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂 講師：大阪大学大学院文学研究科 森本慶太氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
- 9月14日
～2014年3月21日 人材育成プログラム「劇場・音楽堂・美術館等と連携するアート・フェスティバル人材育成事業ー〈声なき声、いたるところにかかわりの声、そして私の声〉芸術祭ー」が開催された。(主催：大阪大学文学研究科 共催：大阪大学コミュニケーションデザイン・センター、大阪大学国際公共政策研究科、大阪大学総合学術博物館 助成：平成 25 年度文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」「劇場・音楽堂・美術館等と連携するアート・フェスティバル人材育成事業」)
- 9月28日 サイエンスカフェ@待兼山 No.110「隕石からわかる太陽系 46 億年の歴史」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂 講師：大阪大学大学院理学研究科 寺田健太郎氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
- 10月5日 サイエンスカフェ@待兼山 No.111「高分子、作って触って実体験」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂 講師：大阪大学大学院理学研究科 山口浩靖氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
- 10月5日 第 29 回湯川記念講演会が開催された。(主催：大阪大学総合学術博物館湯川記念室 共催：日本物理学会大阪支部 後援：日本物理教育学会近畿支部 講師：大阪大学大学院理学研究科教授 原田明氏、大阪大学大学院理学研究科准教授 住貴宏氏 会場：大阪大学中之島センター)
- 10月5日 「第 10 回植物探検隊@秋の待兼山を訪ねて」が開催された。(主催：大阪大学 21 世紀懐徳堂 協力：大阪大学総合学術博物館 講師：大阪大学 21 世紀懐徳堂招へい研究員・大阪大学出版会『キャンパスに咲く花』編著 栗原佐智子氏)
- 10月12日 サイエンスカフェ@待兼山 No.112「数学ってこんなにももしろいー組ひもと複雑系の話」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂 講師：大阪大学大学院理学研究科 金英子氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
- 10月19日～11月23日
(毎週土曜日) 「最先端の物理を高校生に Saturday Afternoon Physics 2012 6 週間でアルキメデスになろう！」(全 6 回)が開催された。(主催：大阪大学総合学術博物館湯川記念室 共催：大阪大学大学院理学研究科、同大学大学院工学研究科、同大学大学院基礎工学研究科、同大学全学教育推進機構、同大学核物理研究センター、同大学レーザーエネルギー学研究センター 後援：大阪府教育委員会、京都府教育委員会、奈良県教育委員会、兵庫県教育委員会、京都市教育委員会、大阪府高等学校理化教育研究会、日本物理教育学会近畿支部、朝日新聞、大阪大学大学院工学研究科附属フロンティア研究センター 場所：大阪大学豊中キャンパス)
- 10月19日 「第 10 回植物探検隊@秋の待兼山を訪ねて」が開催された。(主催：大阪大学 21 世紀懐徳堂 協力：大阪大学総合学術博物館 講師：大阪大学 21 世紀懐徳堂招へい研究員・大阪大学出版会『キャンパスに咲く花』編著 栗原佐智子氏)
- 10月29日～12月27日 大阪大学総合学術博物館 第 6 回特別展「緒方洪庵・適塾と近世大坂の学知」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館、大阪大学適塾記念センター 協力：緒方洪庵記念財団 除痘館記念資料室、大阪大学 21 世紀懐徳堂 後援：読売新聞大阪本社 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館、大阪大学会館)
- 11月2日 大阪大学総合学術博物館 第 59 回ミュージアム・レクチャー「蘭学と洋風画ー石川大浪をめぐるー」を開催した。(講師：神戸市立博物館学芸員 勝盛典子氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)

11月9日	シンポジウム「大学博物館、街に出る これでもいいのか？ 大阪のミュージアム ―地域文化と学術研究の担い手を目指して―」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館、大阪商業大学商業史博物館 後援：大学博物館等協議会、かんさい・大学ミュージアムネットワーク、北大阪ミュージアム・ネットワーク 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂 講演者等：大阪大学総合学術博物館館長 橋爪節也、大阪商業大学商業史博物館首席学芸員 明尾圭造氏、大阪新美術館建設準備室研究主幹 菅谷富夫氏、京都工芸繊維大学美術工芸資料館館長 並木誠土氏、大阪大学招へい教授・大阪天満宮文化研究所員 高島幸次氏、関西大学教授 中谷伸生氏、大阪商業大学商業史博物館館長 伊木稔氏 会場：大阪大学中之島センター)
12月7日	大阪大学総合学術博物館 第 60 回ミュージアム・レクチャー「ロシア使節プチャーチンの来航と大坂・下田」を開催した。(講師：専修大学・鶴見大学非常勤講師 西澤美穂子氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
12月21日	サイエンスカフェ@待兼山 No.113「渦をつくる一流体力学への入門」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂 講師：大阪大学大学院基礎工学研究科 河原源太氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
2014年	
1月11日	サイエンスカフェ@待兼山 No.114「ホタルの光のひみつ」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂 講師：大阪大学総合学術博物館 豊田二郎 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
1月25日	サイエンスカフェ@待兼山 No.115「暮らしの中で役立つ様々な光」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂 講師：大阪大学大学院基礎工学研究科 芦田昌明氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
2月1日～3月22日	文化庁／文化遺産地域活性化推進事業 大阪大学総合学術博物館 第 17 回企画展「野中古墳と「倭の五王」の時代」を開催した。(主催：大阪大学大学院文学研究科、大阪大学総合学術博物館 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)
2月15日	人材育成プログラム「劇場・音楽堂・美術館等と連携するアート・フェスティバル人材育成事業 ―〈声なき声、いたるところにかかわりの声、そして私の声〉芸術祭―」で、美術と絵画資料の展覧会企画と運営 A プロ「具体美術協会」セミナー・ワークショップ：アメリカにおける戦後日本美術展 Vol.1 が開催された。(講師・事業担当者：大阪大学総合学術博物館 加藤瑞穂)
2月22日	人材育成プログラム「劇場・音楽堂・美術館等と連携するアート・フェスティバル人材育成事業 ―〈声なき声、いたるところにかかわりの声、そして私の声〉芸術祭―」で、美術と絵画資料の展覧会企画と運営 A プロ「具体美術協会」セミナー・ワークショップ：アメリカにおける戦後日本美術展 Vol.2 が開催された。(講師：鳥取県立博物館副館長 尾崎信一郎氏、東京国立近代美術館主任研究員 鈴木勝雄氏、大阪大学総合学術博物館 加藤瑞穂 事業担当者：大阪大学総合学術博物館 加藤瑞穂)
3月1日	講演会「河内政権への道」を開催した。(主催：大阪大学大学院文学研究科、大阪大学総合学術博物館 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂 講師：大阪大学埋蔵文化財調査室助教 中久保辰夫氏、奈良大学文学部准教授 豊島直博氏、大阪大学大学院文学研究科教授 福永伸哉氏 会場：大阪大学基礎工学国際棟Σホール)
3月16日	畑田家住宅（登録有形文化財）の一般公開および科学フォーラム「太陽光発電の現状と未来」が開催された。(主催：畑田家住宅活用保存会 後援：羽曳野市・羽曳野市教育委員会 協賛：大阪大学総合学術博物館)
3月29日	サイエンスカフェ@待兼山 No.116「ギリシア・ローマ神話への招待」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂 講師：大阪大学大学院文学研究科 加藤浩氏 会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館)

入館者数及びアンケート集計結果一覧

・2013年度 大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 入館者数

(単位：人)

第16回企画展

会期：4月27日(土)～7月6日(土)

入館者数：4,882人

2013年夏期ミニ企画展

会期：7月20日(土)～8月31日(土)

入館者数：3,377人

第6回特別展

適塾創設175周年記念・緒方洪庵没後150年記念

会期：10月29日(土)～12月27日(土)

入館者数：3,763人

文化庁／文化遺産地域活性化事業

第17回企画展

会期：2014年2月1日(土)～3月22日(土)

入館者数：3,722人

	入館者数
2013年4月	1,306
5月	2,560
6月	1,631
7月	1,628
8月	2,578
9月	1,098
10月	1,269
11月	2,234
12月	1,373
2014年1月	552
2月	1,463
3月	2,737
合計	20,429

休館日：日曜・祝日、年末年始

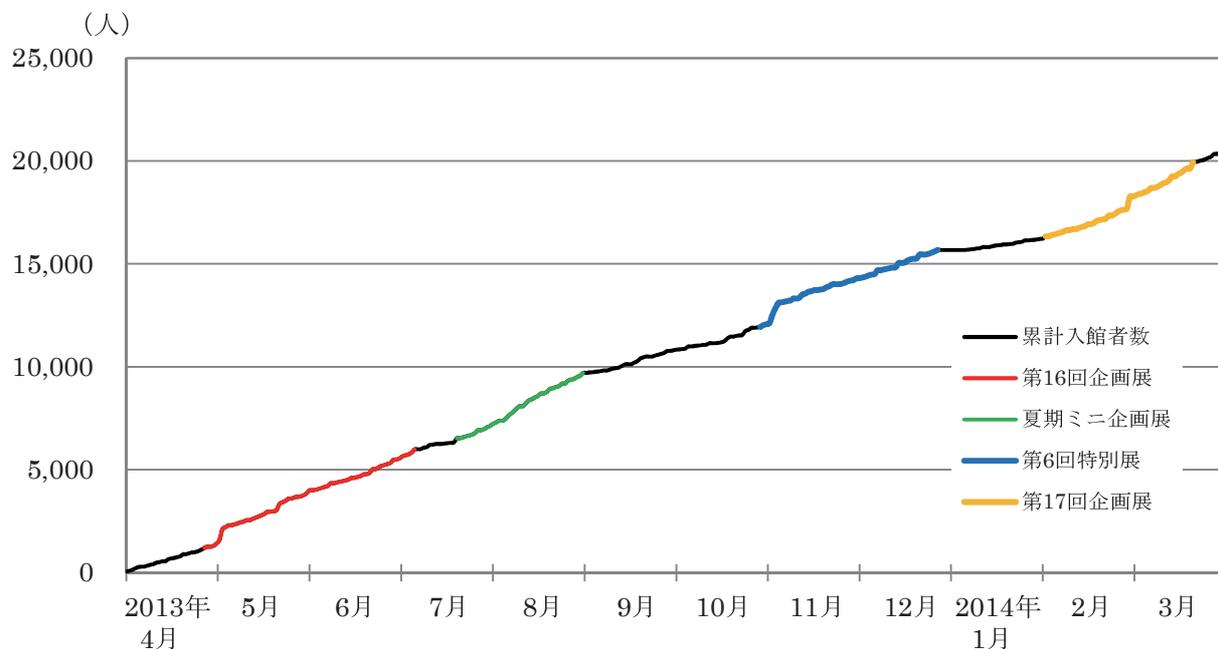
(12月28日(土)～2013年1月4日(土))

ただし、下記の日は開館

4月28日(日)、5月3日(金・祝)、

5月4日(土・祝)、5月5日(日・祝)、

11月3日(日)、11月4日(月・振休)



※以下の内容のアンケート（任意記入）を実施した。

大阪大学総合学術博物館—待兼山修学館 アンケート

本日はご来館いただき誠にありがとうございます。今後の参考のため、皆様のご意見・ご感想をお聞かせください。以下の項目の該当する欄にチェック をつけてください。

- 来館日 _____年 _____月 _____日（ ）
- 年齢 10代未満 10代 20代 30代 40代
50代 60代 70代以上
- 住所 大阪府 京都府 兵庫県 奈良県 和歌山県 滋賀県
その他（ _____ ）
- 学年 小学生未満 小学生 中学生 高校生 大学生・大学院生（阪大）
大学生・大学院生（阪大以外） 専門学校生 一般（ _____ ）
- 大阪大学総合学術博物館—待兼山修学館についてお尋ねします。

- Q1 どのようにして当館をお知りになりましたか？（複数可）
通りがかり パンフレット ホームページ ガイドブック等
友人・知人より その他（ _____ ）
- Q2 どの展示ゾーンが面白かったですか？（複数可）
1階 玄関ホールのマチカネワニ 世界にはばたく研究者
コンピュータの黎明期
2階 大阪大学の系譜 みる科学
3階 待兼山に学ぶ
R階 自然教室
その他（ _____ ）
- Q3 来館は何回目ですか？
はじめて 2回目 3回目 4回目以上
- Q4 その他ご意見・ご感想などをお書き下さい。

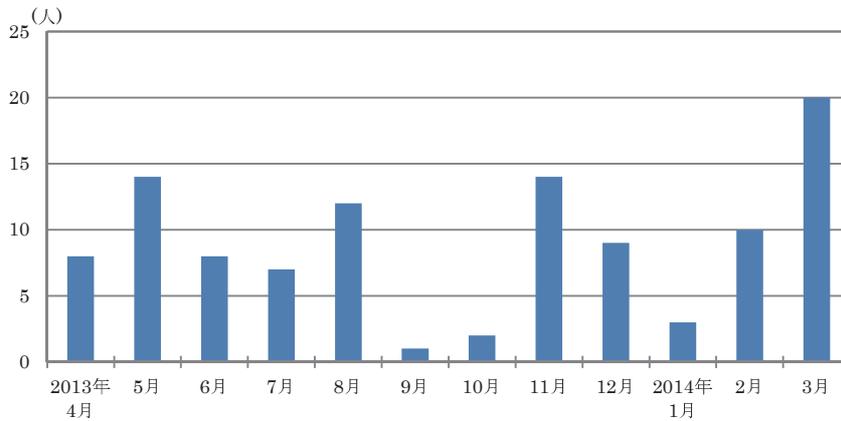
アンケートにお答え頂きありがとうございました。

貴重なご意見・ご感想などを今後の総合学術博物館発展のため、参考とさせていただきます。

大阪大学総合学術博物館

・アンケート集計結果

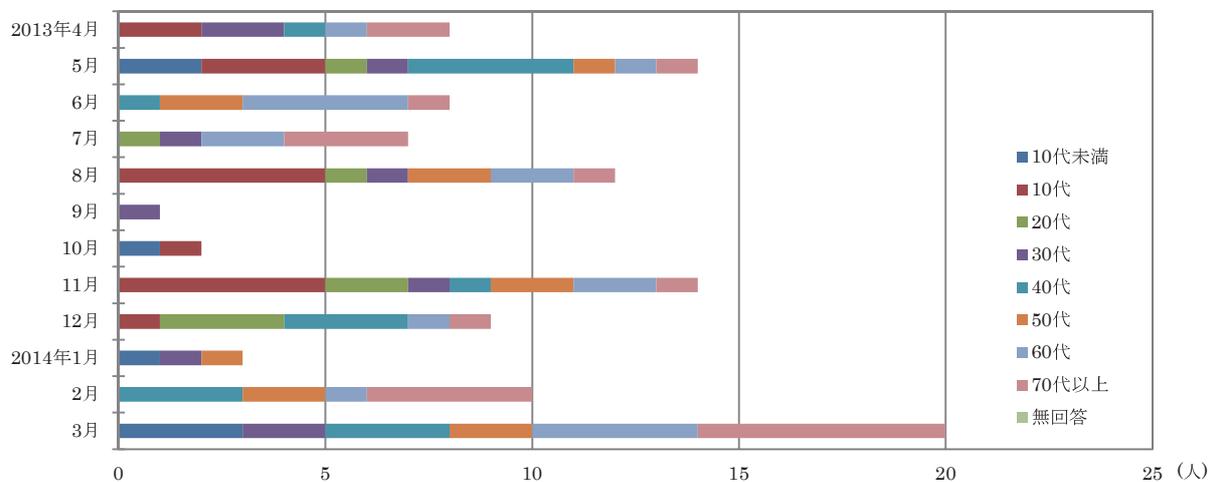
◆ アンケート回答総数



(単位: 人)	
2013年4月	8
5月	14
6月	8
7月	7
8月	12
9月	1
10月	2
11月	14
12月	9
2014年1月	3
2月	10
3月	20
合計	88

■ 年齢分布

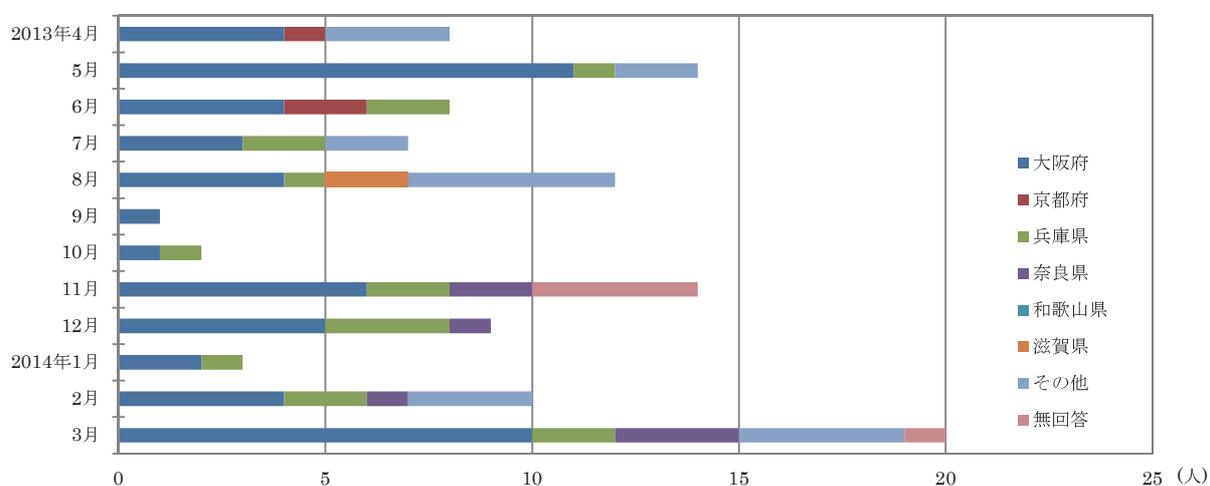
(単位: 人)									
	10代未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答
2013年4月	0	2	0	2	1	0	1	2	0
5月	2	3	1	1	4	1	1	1	0
6月	0	0	0	0	1	2	4	1	0
7月	0	0	1	1	0	0	2	3	0
8月	0	5	1	1	0	2	2	1	0
9月	0	0	0	1	0	0	0	0	0
10月	1	1	0	0	0	0	0	0	0
11月	0	5	2	1	1	2	2	1	0
12月	0	1	3	0	3	0	1	1	0
2014年1月	1	0	0	1	0	1	0	0	0
2月	0	0	0	0	3	2	1	4	0
3月	3	0	0	2	3	2	4	6	0
合計	4	17	8	8	13	10	14	14	0



■住所分布

(単位：人)

	大阪府	京都府	兵庫県	奈良県	和歌山県	滋賀県	その他	無回答
2013年4月	4	1	0	0	0	0	3	0
5月	11	0	1	0	0	0	2	0
6月	4	2	2	0	0	0	0	0
7月	3	0	2	0	0	0	2	0
8月	4	0	1	0	0	2	5	0
9月	1	0	0	0	0	0	0	0
10月	1	0	1	0	0	0	0	0
11月	6	0	2	2	0	0	0	4
12月	5	0	3	1	0	0	0	0
2014年1月	2	0	1	0	0	0	0	0
2月	4	0	2	1	0	0	3	0
3月	10	0	2	3	0	0	4	1
合計	45	3	15	4	0	2	15	4



● その他 内訳

◎アンケート記載の内容を可能な限りそのまま転記。

2013年5月
・石川県
・三重県

7月
・TOKYO
・広島県

8月
・東京
・鹿児島県
・静岡
・岡山県
・大分県

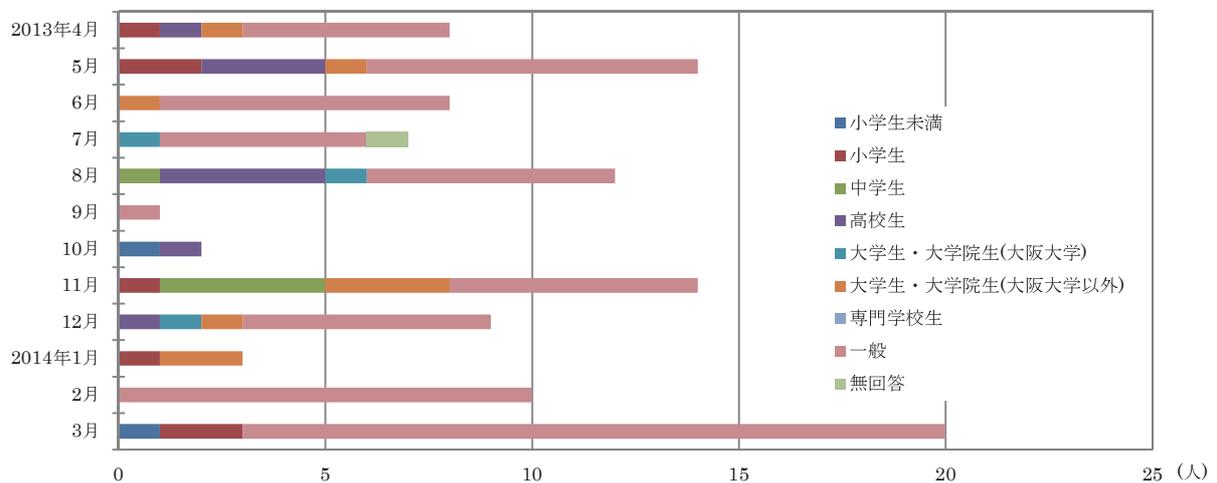
11月
・岡山県倉敷市
・愛媛県
・埼玉県
・東京

2014年2月
・福岡
・広島
・高知

■ 入館者学年分布

(単位：人)

	小学生未満	小学生	中学生	高校生	大学生 大学院生 (大阪大学)	大学生 大学院生 (大阪大学以外)	専門 学校生	一般	無回答
2013年4月	0	1	0	1	0	1	0	5	0
5月	0	2	0	3	0	1	0	8	0
6月	0	0	0	0	0	1	0	7	0
7月	0	0	0	0	1	0	0	5	1
8月	0	0	1	4	1	0	0	6	0
9月	0	0	0	0	0	0	0	1	0
10月	1	0	0	1	0	0	0	0	0
11月	0	1	4	0	0	3	0	6	0
12月	0	0	0	1	1	1	0	6	0
2014年1月	0	1	0	0	0	2	0	0	0
2月	0	0	0	0	0	0	0	10	0
3月	1	2	0	0	0	0	0	17	0
合計	2	7	5	10	3	9	0	71	1



● 一般 内訳

◎アンケート記載の内容を可能な限りそのまま転記。

2013年7月

・農業

12月

・近所

8月

・卒業生です

2014年2月

・無職

11月

・父兄

3月

・公務員

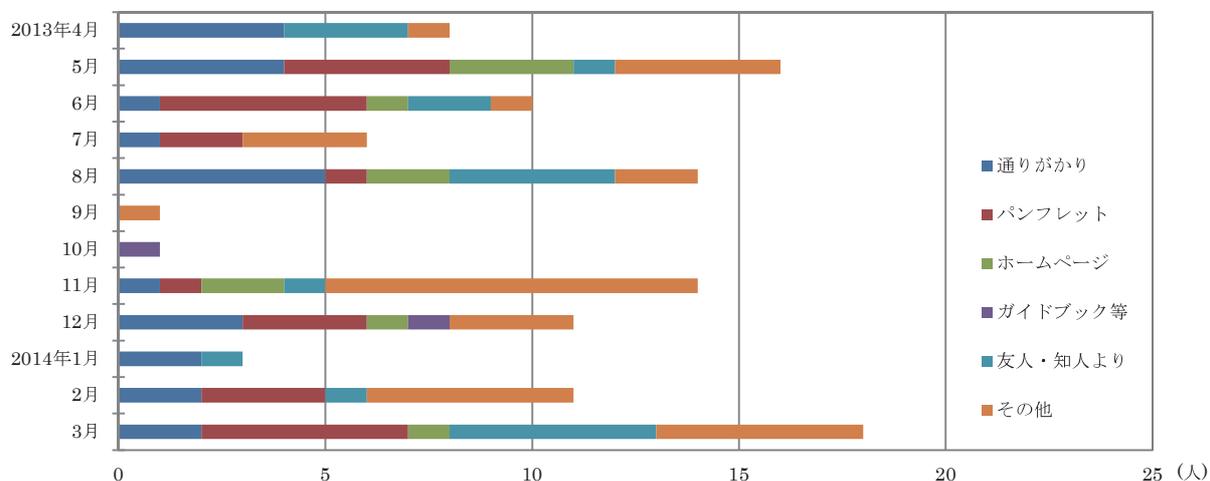
・医師

■ 大阪大学総合学術博物館 — 待兼山修学館についてお尋ねします。

Q1 どのようにして当館をお知りになりましたか？（複数可）

（単位：人）

	通りがかり	パンフレット	ホームページ	ガイドブック等	友人・知人より	その他
2013年4月	4	0	0	0	3	1
5月	4	4	3	0	1	4
6月	1	5	1	0	2	1
7月	1	2	0	0	0	3
8月	5	1	2	0	4	2
9月	0	0	0	0	0	1
10月	0	0	0	1	0	0
11月	1	1	2	0	1	9
12月	3	3	1	1	0	3
2014年1月	2	0	0	0	1	0
2月	2	3	0	0	1	5
3月	2	5	1	0	5	5
合計	25	24	10	2	18	34



● その他 内訳

◎アンケート記載の内容を可能な限りそのまま転記。

2013年4月

- ・以前、一度だけ訪れたことがある。

5月

- ・阪大にきてみて
- ・企画展示案内
- ・大学研修にて

6月

- ・博物館（吹田）

7月

- ・新聞
- ・中之島センター

8月

- ・H24.5に来ましたので

11月

- ・学校行事
- ・授業の一環で
- ・オープンキャンパスで子供の先輩より
- ・大学の文化祭のついでに

卒業生なので

- ・新聞

12月

- ・阪大に立ち寄るときに
- ・学校にて
- ・ちらし

2014年2月

- ・ポスター
- ・かつてから知っていた
- ・新聞記事（野中古墳と五王の時代）
- ・化石の本

3月

- ・読売新聞で古墳副葬品が展示されるという記事を読んだ

新聞サンケイ

- ・朝日
- ・見たい
- ・ポスター
- ・阪大訪問

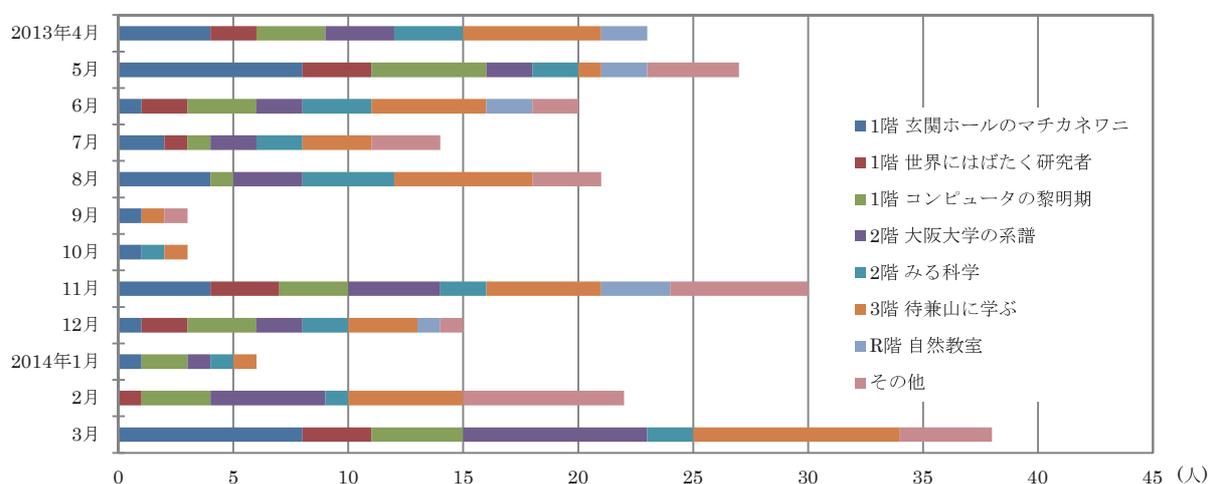
富山県立埋蔵文化センター

- のポスター
- ・ワニをみにきた
- ・マチカネワニのため

Q2 どの展示ゾーンが面白かったですか？（複数可）

（単位：人）

	1 階			2 階		3 階	R 階	その他
	玄関ホールのマチカネワニ	世界にはばたく研究者	コンピュータの黎明期	大阪大学の系譜	みる科学	待兼山に学ぶ	自然教室	
2013年4月	4	2	3	3	3	6	2	0
3月	8	3	5	2	2	1	2	4
6月	1	2	3	2	3	5	2	2
7月	2	1	1	2	2	3	0	3
8月	4	0	1	3	4	6	0	3
9月	1	0	0	0	0	1	0	1
10月	1	0	0	0	1	1	0	0
11月	4	3	3	4	2	5	3	6
12月	1	2	3	2	2	3	1	1
2014年1月	1	0	2	1	1	1	0	0
2月	0	1	3	5	1	5	0	7
3月	8	3	4	8	2	9	0	4
合計	35	17	28	32	23	46	10	31



● その他 内訳

◎アンケート記載の内容を可能な限りそのまま転記。

2013年5月

- ・企画展示
- ・大阪が尖っていた時代
- ・特別展
- ・企画展を見に来ました

8月

- ・all
- ・特別展・古生物
- ・川崎さんのイラスト
- ・企画展

2014年2月

- ・野中古墳
- ・企画展
- ・企画展示
- ・特別展

6月

- ・“具体”に関する展示
- ・美術展アヴァンギャルド

11月

- ・特別展
- ・緒方洪庵
- ・全体的に特殊があって面白かった。なかだるみしなかった。

- ・特別展示
- ・野中古墳

7月

- ・大阪がげんきだった
- ・企画展
- ・We came here for drinks

- ・コインロッカー
- ・企画展を見に来ました。

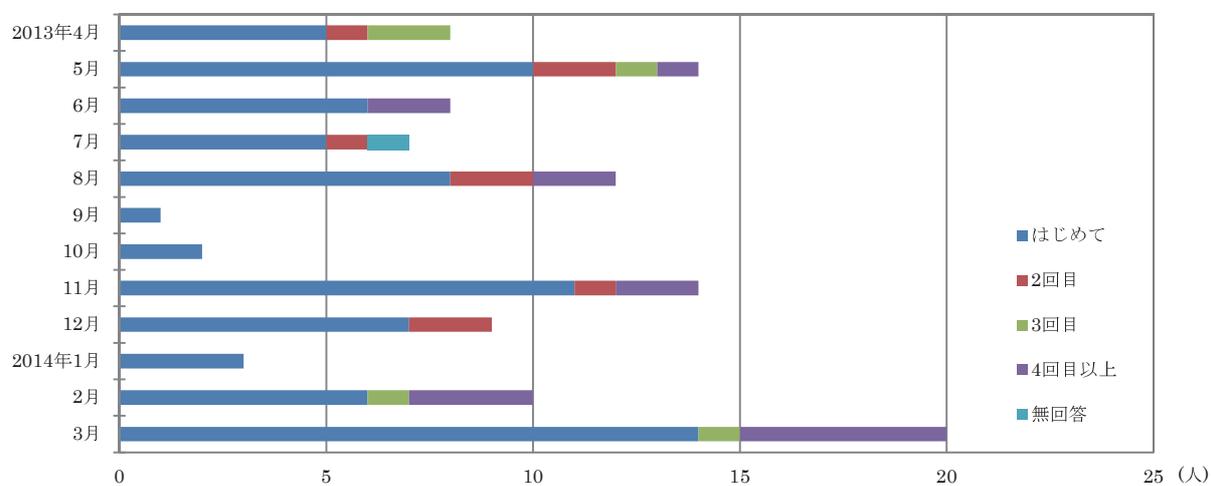
3月

- ・ゲラゲラ化石を見てわらった。
- ・野中古墳と倭の五王の時代（三名）

Q3 来館は何回目ですか？

(単位：人)

	はじめて	2回目	3回目	4回目以上	無回答
2013年4月	5	1	2	0	0
5月	10	2	1	1	0
6月	6	0	0	2	0
7月	5	1	0	0	1
8月	8	2	0	2	0
9月	1	0	0	0	0
10月	2	0	0	0	0
11月	11	1	0	2	0
12月	7	2	0	0	0
2014年1月	3	0	0	0	0
2月	6	0	1	3	0
3月	14	0	1	5	0
合計	78	9	5	15	0



Q4 その他ご意見・ご感想などをお書きください。

◎ アンケート記載の内容を可能な限りそのまま転記。

● 2013年4月

- ・楽しかったです。
- ・静かな環境が良い。これからもこのまま静けさを維持していただきたいと思います。
(字が汚くて申し訳ございません。)
- ・城憲三氏の紹介板中、「計算機は、・・・という感(→体?)のものではないと述べ・・・」

● 5月

- ・学園祭見学帰りに立ち寄りました。ほっとできるカフェもあり、日常を離れて学習できるいいところですね。
- ・またきてみたいです。
- ・また来たいです。
- ・池田市民です。橋爪さんの企画は興味深いものが多く、モダン心齋橋展なども見に行きました。今後も埋もれたオオサカの時代発掘の企画に期待しております。
- ・途中すわりたくなりましたが、いすは置けないものでしょうか。展示は非常によかったです。また来ます。
- ・阪大が考えている文明や科学といったものでなく、阪大が考えている仏教とはどんなものか、どのように仏教をとらえているのかイベントなどで発表してほしい。

● 6月

- ・先日、長崎へ行ってきた時、ボードウィンから阪大のつながりを知りました。
“具体”はいつ見ても楽しいです。
- ・大変興味深く、大阪の歴史も少し分かり、又来館したいと思いました。
- ・大変おもしろかった。
- ・すばらしかったです。
- ・遠い・・・
- ・大阪で根づいていた文化があったことを知ることができました。(3階)
- ・大変楽しく見させていただきました。業界研究活動の一環として改めてグループにて訪問させていただく予定です。

● 7月

- ・高齢となり、地域のボランティア等も卒業して、のんびりとJRの青春18キップを使って、旅をしています。夫々の所に新しい発見があり楽しいです。
夏休暇直前の阪大生が連れだつて入門する姿に感激しました。
- ・おもしろかった。
- ・巡路が分かりにくくて…年の故ですけど
- ・Thank You. You want to goov globally, I respect it and suggest that you put more English on the signs throught the museum good job!

● 8月

- ・展示の説明、配置もよく、わかりやすくおもしろかった。関西の小、中学生も全員が見るべきだ。子供向きのカタログも欲しい。
- ・イラストもあり、よくわかりました。
- ・ウォータークーラーがあるとうれしいのですが・・・
- ・興味深いテーマが多かったです。楽しめました。
- ・写真をとれたらいいです。
- ・楽しかったです。

● 10月

- ・よかったです

● 11月

- ・見やすいよう工夫がされており感心しました。考古学の分野をもっと充実して欲しい。
- ・広くてよかったです。適塾特別展がすばらしかったです。時間が足らなかつたです(ビデオが長くて)。
- ・以前訪問した時と比べ、展示物の入れ替えがあつたのか、雰囲気が変わつた様で良かったです。特別展、勉強になりました。
『3F 待兼山に学ぶ』の展示の表示が気になった。「2000th」「2001th」「2002th」は
→「2000th」「2001st」「2002nd」が正しいと思います。私が違つたらゴメンナサイ。
博物館、やはり土日祝は開けてほしいです・・・
- ・とてもわかりやすい説明でおもしろかった。また来たい!!
- ・緒方(適塾)だけでなく、華岡の塾の資料も展示することで、近世大坂の医療環境を実態に忠実に即して示したすばらしい展示。書状の翻刻もありがたい。一歴史研究者からみて、とても高水準で満足のいく展示。
- ・触ったりする展示がおもしろかったです!
- ・大変すばらしかったです。展示品もすばらしくて説明もわかりやすかったです。
コインロッカー使つてみたかったです。
- ・子供には少し早かつたかな?と思ひながら、私たちは楽しめました。

- 12月
 - ・面白かったです。また来ます。阪大の匠(?)大について知りたいと思いました。
 - ・意外と広いスペースがありました。
 - ・緒方洪庵の展示会もう少し他方面に宣伝するとよいと思う。偶然にフライヤーを gallery かどこか(大阪市内で)で見つけたので鑑賞?させて頂きました。
 - ・イベント自体あるのがわからない方も少なからずいらっしゃるかと思いました。
 - ・今日は裏の門を開放して頂けたので、子供と一緒にはじめてこれました。
 - ・出来れば毎日、開放してほしいです!
 - ・面白い
 - ・時間があつたら、また見たいし、来たい。
 - ・地元の老人が多そうですが、地域に溶け込んでいていいかもしれない。
 - ・洪庵展で原資料を写メしている人がいました。
 - ・全て撮影禁止と各壁に書かないとわからない人は多いようです。
 - ・色々な展示があつて良かった。
 - ・コンパクトにまとまっていて、集中力が切れやすい私でも楽しんで見る事が出来ました。
 - ・ただ、企画展で天井から「カンカン」と何やら物音がしているのが気になりました。少し怖かったです。
- 2014年1月
 - ・いろがかわるのが、おもしろかったです。
 - ・学部生時代に医療短大はいつも横目で見えて通っていたので中に入れて嬉しかったです。
 - ・待兼山やマチカネワニ、懐徳堂や適塾についても若いときに全く興味がなく、今知ることができて豊かな気持ちになれました。ありがとうございました。
- 2月
 - ・野中古墳の発掘は私の入学時だったのですね。同じ年にマチカネワニの発見や、学生会館のオープンがあり、東京オリンピックのロシア(当時ソ連)の金メダリスト2名が開業間もない新幹線で訪問される等、思い出の多い年でした。
 - ・昔石橋に住んでいました。その時に立ち寄りず、今懐かしく来ました。とても良かったです。
 - ・野中古墳の甲冑はエキサイティングです。
 - ・5世紀の古墳に鉄製品が収められていた事にビックリした。入場無料が大変良い。私は工業教員養成所の卒業生で、工業高校の機械科に勤めていたので、展示されている旋盤にも興味をもった。
 - ・展示物の説明をもっと充実させてほしい。ムダな内容が多いです。もっとその時代を知ることのできる内容にしてください。
 - ・前の樹木が展望を妨げる。
- 3月
 - ・野中古墳と「倭の五王」の時代の展示で菅田御廟山古墳の墳長が4 1 5 mになっていますが4 2 5 mが正解ではないでしょうか。
 - ・関東での阪大の存在感は非常に薄い(無いに等しい)。西日本の優秀な生徒を集めて満足しているようだが、全国区になる必要がある。静岡~長野~新潟以東で積極的に営業活動をして生徒確保+知名度 UP を図るべし。
 - ・あと、ノーベル賞を期待している。
 - ・野中古墳と「倭の五王」の時代 展示・解説ともに具体的で判り易く、又事前の映像で発掘状態が説明され、その御苦勞に心から感謝いたします。78歳女性
 - ・室内が暖かすぎに感じました。
 - ・醗酵関係の常設展が見たい。
 - ・墓山古墳出土埴輪(京大博蔵)のうち、鞍形埴輪とされているものは、忍ヶ岡系対称文の盾形埴輪のものがあるのではないのでしょうか。
 - ・近よって見られるので、仔細に観察できました。
 - ・無料でたすかりました。大変よかったです。
 - ・無料で良かったです。
 - ・野中古墳から発掘された甲、よろい、剣など鉄製品の量の多さにびっくり。
 - ・休憩所を増やしてほしい。
 - ・阪大下交差点の案内看板に工夫の要あり。交差点を左折してしまつて戻つた。
 - ・学問の深さを知り感動しました。
 - ・色々あつて楽しいです。
 - ・トイレの薬品臭がきつく、辛かったです。
 - ・大阪一の大学、50年若かつたら進学したかったです。そんな世の中ではありませんでした。
 - ・マチカネワニはすごく大きいですね。すごいです。
 - ・マチカネワニは、こわすぎ。エレベーターははやくておもしろい。
 - ・すばらしいのひとつにつきます。めいどにいい土産になりました。

団体見学一覧

※事前に申し込みのあった団体のみを掲載

No.	月日	曜日	団体名	人数	説明館員
2013年					
1	4月11日	木	マレーシア サワラク大学	10	宮久保
2	4月15日	月	[共通教育科目] 大阪大学の歴史	84	なし
3	4月20日	土	第9回植物探検隊@春の待兼山を訪ねて	30	なし
4	4月22日	月	[共通教育科目] 地球科学 A	28	なし
5	4月26日	金	春の待兼山 植物観察会	30	なし
6	5月1日	水	箕面自由学園高等学校	45	なし
7	5月7日	火	どこボラ歩こう会	19	豊田
8	5月11日	土	第9回植物探検隊@春の待兼山を訪ねて	22	なし
9	5月13日	月	私立大阪夕陽丘学園高等学校	30	伊藤
10	5月18日	土	阪大法学部同窓会「青雲会」11期生同期会	35	なし
11	5月21日	火	博物館見学会	17	なし
12	5月22日	水	[共通教育科目] 宇宙地球科学の考え方	220	なし
13	5月22日	水	和歌山県立橋本高等学校	37	なし
14	5月23日	木	大阪府立和泉高等学校	42	宮久保
15	5月31日	金	豊中市能勢街道コース	40	なし
16	6月8日	土	津山洋学資料館	49	なし
17	6月14日	金	[知のジムナスティックス科目] 文化資源学入門	7	松永
18	6月15日	土	遊歩楽会	38	なし
19	6月19日	水	出雲北陵高等学校	60	豊田
20	6月21日	金	兵庫県立明石西高校	42	なし
21	6月22日	土	みなさく地域子ども教室	31	宮久保
22	6月24日	月	岡山県立岡山一宮高等学校	43	なし
23	6月26日	水	兵庫県立川西北陵高等学校	43	なし
24	6月29日	土	『街の風景にアヴァンギャルドを探る』 屋外モニュメント探索ツアー	22	橋爪
25	6月29日	土	理学部高分子学科 昭和46年入学同窓会	17	なし
26	7月2日	火	京都府立洛西高等学校 (PTA)	28	伊藤
27	7月5日	金	JICA 博物館実習コース	7	なし
28	7月6日	土	近代大阪美術研究会	20	橋爪
29	7月9日	火	大阪信愛女学院高等学校	50	横田
30	7月10日	水	仁川学院中学	12	豊田
31	7月11日	木	大阪府立泉陽高等学校	80	松永
32	7月20日	土	近畿大学附属広島高等学校 福山校	49	松永
33	7月26日	金	豊中市立とねやま幼稚園	32	なし
34	7月29日	月	豊中市内をめぐるバスツアー	20	伊藤
35	7月30日	火	エール学園	25	なし
36	7月30日	火	和歌山大学自校史等資料保存活用作業部会	4	なし
37	8月1日	木	兵庫県立小野高等学校	50	宮久保
38	8月2日	金	清水谷高等学校	15	宮久保
39	8月7日	水	星稜高等学校	29	横田
40	8月7日	水	和歌山大学自校史等資料保存活用作業部会	8	上田
41	8月27日	火	大阪市咲くやこの花高等学校	19	なし
42	8月29日	木	私立昭和薬科大学附属高等学校	28	豊田
43	9月10日	火	歴友会	20	なし
44	9月19日	木	比叡山高等学校	78	豊田
45	9月21日	土	NPO テクノ未来塾 関西グループ	13	なし
46	9月24日	火	[理学部専門科目] 生物学野外実習	20	なし
47	10月5日	土	植物探検隊@待兼山	25	なし
48	10月12日	土	しいのみ会	20	伊藤

No.	月日	曜日	団体名	人数	説明館員
49	10月18日	金	大阪府立住吉高等学校	80	宮久保
50	10月18日	金	大阪私立中学校高等学校 理科教育研究会	20	豊田
51	10月19日	土	植物探検隊@待兼山	30	なし
52	10月19日	土	城南学園中学校	7	なし
53	10月21日	月	石川県立金沢泉丘高等学校 理数科 (SSH 指定校)	19	宮久保
54	10月24日	木	Primary Education of Pathumthani Service Area 20	30	なし
55	10月24日	木	阪急宝塚線沿線観光あるきツアー	28	なし
56	10月24日	木	兵庫県立西宮高等学校	114	なし
57	10月25日	金	大阪府立三島高校	42	豊田
58	10月26日	土	植物探検隊	15	なし
59	10月30日	水	池田市立石橋南小学校	34	なし
60	11月11日	月	こどもの園敬愛保育園	28	なし
61	11月12日	火	豊中市立第八中学校	99	宮久保
62	11月12日	火	仙台高等専門学校	29	なし
63	11月14日	木	石川県立金沢二水高等学校	43	なし
64	11月21日	木	ウラノデイハウス 1/2	18	なし
65	11月22日	金	兵庫県立宝塚北高等学校	41	豊田
66	11月22日	金	ウラノデイハウス 1/2	13	なし
67	11月26日	火	ウラノデイハウス 1/2	9	なし
68	11月27日	水	ウラノデイハウス 1/2	13	なし
69	11月27日	水	盛岡北高等学校	21	宮久保
70	11月29日	金	大阪さやま熟年大学 ろっばん会	8	なし
71	12月 2日	月	いきいき会	22	伊藤
72	12月 4日	水	[工学部専門科目] 応用地質学	25	なし
73	12月 6日	金	大阪大学基礎工学研究科 第1回基礎工学コンソーシアム会議	10	高橋
74	12月17日	火	大阪国際大和田高等学校	52	なし
75	12月18日	水	台湾高雄師範大学付属高級中学	15	なし
76	12月21日	土	[共通教育科目] 生物科学概論 B	80	伊藤
2014年					
77	1月 6日	月	大阪学院大学 (博物館情報・メディア論)	4	豊田
78	1月14日	火	ソウル大学	1	橋爪・上田
79	1月15日	水	豊中市教育研究会特別活動部	7	宮久保
80	1月15日	水	サンパウロ大学	5	宮久保
81	2月 3日	月	豊中市教育委員会	4	伊藤
82	2月14日	金	大阪大学監査室	14	橋爪
83	2月17日	月	NPO 法人 大阪府高齢者大学校	18	豊田
84	2月18日	火	ESR 応用計測研究会、ルミネッセンス年代測定研究会、 フィッシュン・トラック研究会	15	なし
85	2月22日	土	豊中歴史同好会	50	なし
86	2月24日	月	有縁倶楽部	18	宮久保
87	3月14日	金	藤井寺市観光ボランティアの会	24	松永
88	3月19日	水	大阪老犬 OB 博物館・美術館めぐりの会	21	豊田
89	3月20日	木	豊中第四中学校夜間学級	11	宮久保
90	3月22日	土	NPO 法人フィールドミュージアムトーク史遊会	50	なし
91	3月26日	水	帝塚山学院中学校高等学校	28	なし
92	3月27日	木	武生高校関西同窓会 女性の会	20	松永
93	3月27日	木	九州国際大学付属高等学校	8	なし
94	3月29日	土	崇教真光 宝塚小道場	17	伊藤
95	3月31日	月	愛媛県立松山南高等学校	37	なし
				計 2,990 人	

関連記事一覧

新聞

※教員関連の記事は「8. 専任教員活動報告」のそれぞれの教員の項に記載

No.	掲載日	曜日	掲載紙名	内 容
2013年				
1	4月19日	金	朝日新聞	オオサカがとんがっていた時代
2	5月2日	木	読売新聞	「具体」進む再評価 大坂大学総合学術博物館で「オオサカがとんがっていた時代」展開催中
3	5月13日	月	産経新聞	企画展「オオサカがとんがっていた時代」
4	5月24日	金	大阪日日新聞	戦後 中之島発の芸術再検証 阪大総合学術博物館が企画展 50－60年代先進的動向振り返る
5	6月11日	火	大阪日日新聞	関西美術探訪 阪大美学研究室<553> 泥臭く暑苦しい"戦後関西"パワー
6	6月15日	土	大阪日日新聞	「とんがった」大阪の魅力知って 豊中・阪大総合学術博で企画展
7	6月21日	金	朝日新聞	「オオサカがとんがっていた時代」展 50～60年代 前衛芸術も高度成長
8	6月27日	木	日本経済新聞	企画展「オオサカがとんがっていた時代」 前衛芸術育んだ戦後の大阪
9	7月24日	水	日本経済新聞	化石と絵 恐竜生き生き 阪大博物館で企画展
10	7月25日	木	神戸新聞	化石と復元図で恐竜紹介
11	7月26日	金	産経新聞	読むアート「戦後大阪のアヴァンギャルド芸術」
12	8月9日	金	毎日新聞	大学博物館でお茶いかが
13	8月19日	月	大阪日日新聞	展示品見てお茶いかが リラックスして気軽に一カフェ併設の阪大総合学術博物館
14	8月29日	木	大阪日日新聞	阪大が芸術祭計画 企画運営通じ人材育成
15	9月17日	火	神戸新聞	收藏品見ながら お茶いかが 大阪大学総合学術博物館
16	10月27日	日	読売新聞	大学発 洪庵と「適塾」阪大で特別展
17	10月30日	水	読売新聞	洪庵の業績、適塾の学び 阪大博物館で特別展 自筆の書状初公開
18	10月30日	水	朝日新聞	草木葉譜 江戸期の植物資料
19	11月4日	月	朝日新聞	語る 大阪ミュージアム 9日、役割考えるシンポ
20	11月6日	水	朝日新聞	A+1 美術館・博物館 大阪大学総合学術博物館 緒方洪庵・適塾と近世大坂の学知
21	11月7日	木	読売新聞	シンポジウム「大学博物館、街に出る これでもいいのか？大学のミュージアム」
22	11月8日	金	大阪日日新聞	適塾創設175周年記念・緒方洪庵没後150年記念「緒方洪庵・適塾と近世大坂の学知」
23	11月10日	日	鍼灸柔整新聞	大阪大学総合学術博物館 特別展「緒方洪庵・適塾と近世大坂の学知」(大阪市豊中市)
24	11月19日	火	読売新聞	間奏曲 ミュージアム これでもいい？
25	11月25日	月	朝日新聞	大阪大学総合学術博物館 ワニも埴輪も お待ちかね
26	11月30日	土	産経新聞	舞台の遺伝子 知的好奇心の源流 脈々と
27	12月3日	火	読売新聞	近世大坂の知の空間 適塾と交流「合水堂」に光 阪大博物館
28	12月5日	木	大阪日日新聞	きょうあした ちょいぶら 適塾創設175周年記念・緒方洪庵没後150年記念「緒方洪庵・適塾と近世大坂の学知」
29	12月10日	火	日本経済新聞	展覧会■特別展「緒方洪庵・適塾と近世大坂の学知」 西洋流医学の祖たたえる
30	12月25日	水	産経新聞	近世大坂 豊かな学問環境 緒方洪庵没後150年 豊中で特別展
31	12月26日	木	大阪日日新聞	【開催中】適塾創設175周年記念・緒方洪庵没後150年記念「緒方洪庵・適塾と近世大坂の学知」
2014年				
32	1月26日	日	朝日新聞	藤井寺・野中古墳 阪大で来月から展示 鉄製甲冑類一堂に
33	1月30日	金	毎日新聞	野中古墳と「倭の五王」の時代
34	2月12日	水	読売新聞	野中古墳 甲冑修復終える
35	2月20日	木	京都新聞	甲冑ずらり「倭の五王」展
36	2月21日	金	産経新聞	阪大が「倭の五王」展 修復完了 鉄製甲冑など一堂に
37	2月25日	火	朝日新聞	野中古墳と「倭の五王」の時代 河内の甲冑 軽装から重装備まで
38	3月3日	月	毎日新聞	5世紀の甲冑集め展示 野中古墳で出土 阪大の博物館
39	3月13日	木	毎日新聞	古墳時代 よみがえった武人2態 阪大総合学術博物館

その他 刊行物

※教員関連の記事は「8. 専任教員活動報告」のそれぞれの教員の項に記載

No.	掲載誌 / 発行	発行日 / 巻 / 号 他	内 容
1	ともも 有限会社 ともも	2013年5月 No.141	とももメッセージボード ギャラリー・催し 大阪大学総合学術博物館 「オオサカがとんがっていた時代」
2	大阪保険医雑誌 大阪府保険医協会	2013年5月号 No.560	美術ライター・小吹隆文のおすすめ美術展ニュース Vol.32 オオサカがとんがっていた時代
3	WHOLE EARTH MAGAZINE FM COCOLO MtS Publishing Factory	2013年7月1日 創刊2号	“アヴァンギャルド”の夢をみる。 「大阪の秋 国際現代音楽祭」
4	美術の窓 生活の友社	2013年9月20日 通巻380号	Books 新刊案内 『戦後大阪のアヴァンギャルド芸術 一焼け跡から万博前夜まで』
5	第11回 関西文化の日 関西広域連合 関西元 気文化圏推進協議会	2013年11月	大阪府北部 大阪大学総合学術博物館
6	大阪の歴史	2013年11月1日 第81号	大阪大学総合学術刊叢書8 『ものづくり上方“酒”ばなし 一先駆・確認の系譜と大阪高等工業学校醸造科』
7	Hello! Doctor アミューズ	2013年11月5日 No.63	大阪大学総合学術博物館 第6回特別展 適塾創設175周年 緒方洪庵没後150年記念「緒方洪庵・適塾と近世大坂の学知」
8	朝日新聞 関西スクエア 朝日新聞大阪本社	2013年12月 No.156	ミュージアム、街に出る
9	シティライフ 北摂 WEST	2014年2月1日 vol.132	北摂イベント Information ●野中古墳と「倭の五王」の時代
10	読売 Life 株式会社読売ライフ	2014年3月1日発行 通巻第491号	大阪のGOOD！ 豊中のマチカネワニ
11	はろーあさひ 阪田新聞舗 川西山下 店 ときわ台店	2013年4月 第348号	オオサカがとんがっていた時代 一戦後大阪の前衛美術 焼け跡から万博前夜まで
12	はろーあさひ 阪田新聞舗 川西山下 店 ときわ台店	2014年1月 第355号	大阪大学総合学術博物館 第17回企画展 野中古墳と「倭の五王」の時代
13	ニュースせんなん 泉南文化ジャーナル社	2013年5月25日 No.974	くらし案内 大阪大学総合学術博物館 第16回企画展「オオサカがとんがっていた時代 一戦後大阪の前衛美術 焼け跡から万博前夜まで」
14	ニュースせんなん 泉南文化ジャーナル社	2013年12月7日 No.999	くらし案内 ●大阪大学総合学術博物館第6回特別展、適塾創設175周年記念、緒方洪庵没後150年記念「緒方洪庵・適塾と近世大坂の学知」
15	ニュースせんなん 泉南文化ジャーナル社	2014年3月8日 No.1008	くらし案内 ●野中古墳と「倭の五王」の時代
16	朝日ファミリー	2013年6月7日 1238号	第16回 企画展「オオサカがとんがっていた時代 ～戦後大阪の前衛美術 焼け跡から万博前夜まで～」
17	朝日ファミリー	2013年12月6日 1249号	大阪大学総合学術博物館第6回特別展 「緒方洪庵(こうあん)・適塾と近世大坂の学知」
18	朝日ファミリー	2014年1月24日 1251号	私の街から ●野中古墳と「倭の五王」の時代
19	マチゴト豊中・池田 毎日新聞社	2013年6月13日 vol.52	阪大へ恐竜を見に行こう① 化石が結んだ縁
20	マチゴト豊中・池田 毎日新聞社	2013年7月11日 vol.53	阪大へ恐竜を見に行こう② サツマウツノミヤリュウ 8月13日に小学生の恐竜イラスト教室開催
21	マチゴト豊中・池田 毎日新聞社	2013年8月8日 vol.54	阪大へ恐竜を見に行こう③ 日本の肉食恐竜 恐竜の足跡アート製作 柴田純生さん
22	マチゴト豊中・池田 毎日新聞社	2013年12月12日 vol.58	「まちの相談室」本文内
23	マチゴト豊中・池田 毎日新聞社	2014年1月16日 vol.59	編集部 Pick up! 大阪大学総合学術博物館第17回企画展 野中古墳と「倭の五王」の時代(3月22日まで)
24	リビング北摂西 サンケイリビング新聞社	2013年4月27日	info ●オオサカがとんがって時代 一戦後大阪の前衛美術 焼け跡から万博前夜まで
25	リビング 北摂西 サンケイリビング新聞社	2013年7月13日	夏休みのキャンパスに集合! 地元大学の子供向け講座 & イベント 自由研究に役立てて サイエンスカフェ@待兼山
26	リビング 北摂西 サンケイリビング新聞社	2013年11月30日	info ●特別展 緒方洪庵・適塾と近世大坂の学知
27	これがウチのおはこ やねん! いしばし商店街	2013年4月18日	大阪大学総合学術博物館からのお知らせ 一第16回企画展一 オオサカがとんがっていた時代 一戦後大阪の前衛美術 焼け跡から万博前夜まで

その他 刊行物

※教員関連の記事は「8. 専任教員活動報告」のそれぞれの教員の項に記載

No.	掲載誌 / 発行	発行日 / 巻 / 号 他	内 容
28	これがウチのおはこやねん！ いしばし商店街	2013年5月16日	大阪大学総合学術博物館からのお知らせ —第16回 企画展— オオサカがとんがっていた時代 —戦後大阪の前衛美術 焼け跡から万博前夜まで—
29	これがウチのおはこやねん！ いしばし商店街	2013年7月18日	2013年夏期ミニ企画展 日本にいた！「絶滅」古生物 阪大博×化石ハンター×古生物イラストレーター
30	これがウチのおはこやねん！ いしばし商店街	2013年9月18日	大阪大学総合学術博物館
31	これがウチのおはこやねん！ いしばし商店街	2013年11月18日	第6回特別展 適塾創設175周年 緒方洪庵没後150年記念 緒方洪庵・適塾と近世大坂の学知
32	これがウチのおはこやねん！ いしばし商店街	2013年12月18日	第6回特別展 適塾創設175周年 緒方洪庵没後150年記念 緒方洪庵・適塾と近世大坂の学知
33	これがウチのおはこやねん！ いしばし商店街	2014年1月18日	第17回企画展 野中古墳と「倭の五王」の時代
34	広報いけだ 池田市	2013年4月1日 第1109号	みゅうじあむ・がいで 大阪大学総合学術博物館 ●「オオサカがとんがっていた時代 戦後大阪の前衛美術 焼け跡から万博前夜まで—」
35	広報いけだ 池田市	2013年5月1日 第1110号	みゅうじあむ・がいで 大阪大学総合学術博物館 ●「オオサカがとんがっていた時代 戦後大阪の前衛美術 焼け跡から万博前夜まで—」
36	広報いけだ 池田市	2013年6月1日 第1111号	みゅうじあむ・がいで 大阪大学総合学術博物館 ●「オオサカがとんがっていた時代 戦後大阪の前衛美術 焼け跡から万博前夜まで—」
37	広報いけだ 池田市	2013年7月1日 第1112号	●日本にいた！「絶滅」古生物 阪大博×化石ハンター×古生物イラストレーター
38	広報いけだ 池田市	2013年8月1日 第1113号	●日本にいた！「絶滅」古生物 阪大博×化石ハンター×古生物イラストレーター
39	広報いけだ 池田市	2013年9月1日 第1114号	大阪大学美術部 夏部展
40	広報いけだ 池田市	2013年10月1日 第1115号	大阪大学総合学術博物館
41	広報いけだ 池田市	2013年11月1日 第1116号	●適塾創設175周年 緒方洪庵没後150年記念 「緒方洪庵・適塾と近世大坂の学知」
42	広報いけだ 池田市	2013年12月1日 第1117号	●適塾創設175周年 緒方洪庵没後150年記念 「緒方洪庵・適塾と近世大坂の学知」
43	広報いけだ 池田市	2014年1月1日 第1118号	第17回企画展 野中古墳と「倭の五王」の時代
44	広報いけだ 池田市	2014年2月1日 第1119号	第17回企画展 野中古墳と「倭の五王」の時代
45	広報とよなか 豊中市	2013年4月1日 通巻756号	企画展 オオサカがとんがっていた時代
46	広報とよなか 豊中市	2013年5月1日 通巻757号	マチカネくんと歩く まちある記 第13回 農村の面影を残す大学のあるまち 柴原町から待兼山町へ
47	広報とよなか 豊中市	2013年5月1日 通巻757号	都市の中のホテル観察会
48	広報とよなか 豊中市	2013年6月1日 通巻758号	企画展 オオサカがとんがっていた時代 「具体」関連トーク 野外モニュメント探索ツアー
49	広報とよなか 豊中市	2013年7月1日 通巻759号	夏の小学生科学体験教室
50	広報とよなか 豊中市	2013年11月1日 通巻763号	大阪大学総合学術博物館 芸術の秋文化の秋を見つけた！
51	広報とよなか 豊中市	2013年12月1日 通巻764号	教育・保険 小中学生理科展 表彰式・作品発表会

インターネット

No.	掲載ホームページ	内 容
1	豊中市ホームページ 豊中市	豊中市共催事業 大阪大学総合学術博物館第 16 回企画展
2	YOMIURI ONLINE (読売新聞 ニュース/地域)	適塾の学び 洪庵の書状・・・大阪で特別展 / 洪庵の業績、適塾の学び 阪大博物館で特別展
3	ウーマンライフ Web 版	企画展 野中古墳と「倭の五王」の時代 大阪大学総合学術博物館
4	マチゴト・豊中池田 ホームページ	(文化歴史) 阪大へ恐竜を見に行こう② サツマウツノミヤリュウ 8月13日に小学生の恐竜イラスト教室開催
5	先端医療情報ポータルサイト Hello! Doctor	大阪大学総合学術博物館「オオサカがとんがっていた時代」
6	先端医療情報ポータルサイト Hello! Doctor	大阪大学総合学術博物館「緒方洪庵・適塾と近世大坂の学知」
7	先端医療情報ポータルサイト Hello! Doctor	大阪大学総合学術博物館 野中古墳と「倭の五王」の時代
8	関西文化.com 関西地域振興財団	2013年夏期ミニ企画展 日本にいた！"絶滅"古瀬物 阪大博×化石ハンター×古生物 イラストレーター
9	関西文化.com 関西地域振興財団	第 11 回 関西文化の日 大阪大学総合学術博物館 第 6 回特別展
10	関西文化.com 関西地域振興財団	文化庁／文化遺産地域活性化推進事業・大阪大学総合学術博物館 第 17 回企画展「野中古墳 と「倭の五王」の時代」

ラジオ・テレビ等

No.	番組名 / 放送局	放送日時	内 容
1	夕刊7チャンネル テレビ大阪	2013年4月29日	戦後アート とんがっていた時代の大阪
2	やっぱ地元っ Show 03 ス テーション J:COM	2013年5月23～29日	企画展 オオサカがとんがっていた時代
3	モーニングタッキー タッキー 816 みのおエフ エム	2013年5月9日	まちのラジオ「第 16 回企画展『オオサカがとんがていた時代』一戦後大阪 の前衛美術 焼け跡から万博前夜まで」
4	寺谷一紀の千里の道も一 歩一歩 FM 千里 83.7MHz	2013年6月7日	今日の IPPO さん
5	ごきげんライフスタイル よ～いドン！ 関西テレビ	2013年6月24日	関西ちなみにガイド 大阪大学の中で発見された世界で珍しいものとは？
6	豊中市広報番組 かたらい プラザ J:COM 豊中・池田	2013年8月21～31日	<あのまちこのまち> 夏の小学生科学体験教室
7	豊中市広報番組 かたらい プラザ J:COM 豊中・池田	2013年9月11～20日	<マチカネくん体操>

寄贈図書一覧

No.	寄贈者	書名
1	(財)長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター	長野県埋蔵文化財センター 年報 29 2012
2	秋田大学大学院工学資源学研究所附属鉱業博物館	秋田大学工業博物館解説書 鑛のきらめき
3	池田市立歴史民俗資料館	平成 25 年度特別展 お殿様の「御勝手」事情
4	和泉市久保惣記念美術館	特別展 単彩画 ひとつの色の多彩な世界
5	伊丹市立博物館	伊丹廃寺跡 - 金堂跡に築かれた瓦窯跡資料を中心として -
6	伊丹市立美術館	2011-2012 ITAMI CITY MUSEUM OF ART
7	茨木市教育委員会	平成 24 年度発掘調査概報 個人住宅建築に伴う発掘調査報告
8	茨木市教育委員会	平成 21 年度発掘調査概報
9	宇治市歴史資料館	収蔵資料調査報告書 15 片岡道二家文書
10	宇治市歴史資料館	宇治市歴史資料館 年報 平成 23 年度 2011
11	宇治市歴史資料館	宇治発電所竣工 100 年記念 特別展 宇治電 水力の時代へ
12	大阪狭山市教育委員会	狭山池シンポジウム 2012 記録集 ため池築造と偉人
13	大坂城天守閣	大坂城天守閣紀要 第 40 号 2013.3
14	大坂城天守閣	徳川時代大坂城関係史料集 第 16 号 大坂城代記録(六) 寛文七年一月～十二月、大坂城青山宗俊
15	大坂城天守閣	史跡・重要文化財指定 60 周年記念特別展 大坂城はこの姿 - 戦災からの復興、整備、そして未来へ -
16	大阪市立狭山池博物館	平成 25 年特別展 近世狭山池の水利変革
17	大阪市立大学 恒藤記念室	恒藤祈念室叢書 3 恒藤恭「欧州留学日記」(1924 年) 恒藤恭学長式辞集
18	大阪市立大学大学史資料室	大阪市立大学史紀要 第 6 号
19	大阪市立東洋陶磁美術館	韓国陶磁研究報告 7
20	大阪府教育委員会事務局	第 42 回 日本伝統工芸近畿展 図録
21	大阪府教育委員会文化財保護課	大阪府の人工工芸【衣裳人形】人間国宝 秋山信子と門下生作品集
22	大阪府教育委員会文化財保護課	大阪府の人工工芸【衣裳人形】そのわざと美 人間国宝 秋山信子と門下生作品集
23	大阪府教育委員会文化財保護課	大阪府の金属工芸「鍛金のわざ」- 熱間鍛造の研究」サハリに挑む
24	大阪歴史博物館	大阪歴史博物館 年報 平成 24 年度
25	大山崎町歴史資料館	大山崎町歴史資料館 館報 第 18 号 2011
26	大山崎町歴史資料館	開館 20 周年記念 第 21 回企画展 戦国 京都周辺の城をめぐる
27	小樽市総合博物館	小樽市総合博物館紀要 第 27 号
28	香川県立ミュージアム	香川県立ミュージアム年報 第 5 号 (平成 24 年度)
29	香川県立ミュージアム	収蔵資料目録 5
30	香川県立ミュージアム	丸亀京極家 - 名門大名の江戸時代 -
31	香川県立ミュージアム	いとるわし。日本の美 京都国立博物館名品展
32	香川県立ミュージアム	高松松平家博物図譜 写生画帖 雑木
33	鹿児島大学総合研究博物館	鹿児島大学総合研究博物館 文書資料目録 1 鹿児島高等農林学校学生調査報告書
34	鹿児島大学総合研究博物館	鹿児島大学総合研究博物館 年報 No.11
35	鹿児島大学総合研究博物館	鹿児島県三島村 硫黄島・竹島の魚類
36	鹿児島大学総合研究博物館	鹿児島大学総合研究博物館研究報告 No.6 奄美群島植物目録
37	柏原市立歴史資料館	柏原市立歴史資料館館報 第 25 号 2012 年度
38	柏原市立歴史資料館	高井田横穴群
39	柏原市立歴史資料館	平成 24 年度 春季企画展 河内大橋
40	柏原市立歴史資料館	平成 25 年度 夏季企画展 難波より京にいたる大道を置く
41	金沢大学資料館	金沢大学資料館紀要 第 8 号 2013.3
42	金沢大学資料館	金沢大学の淵源 加賀藩医学館から甲種医学校まで、および石川県啓明学校・石川県専門学校歴史
43	関西大学大阪都市遺産研究センター	大阪都市遺産研究叢書 別集 3 織田作之助と大阪
44	関西大学大阪都市遺産研究センター	大阪都市遺産研究 第 3 号
45	関西大学大阪都市遺産研究センター	大阪都市遺産研究叢書 別集 2 大阪の小説家と映画
46	関西大学大阪都市遺産研究センター	シンポジウム報告書「豊臣期大阪図屏風」の再検討
47	関西大学大阪都市遺産研究センター	大阪都市遺産研究叢書 3 大阪の近代 大都市の息づかい
48	関西大学博物館	関西大学博物館紀要 第 19 号
49	関西大学博物館	平成 25 年度 関西大学博物館企画展 名刀にかける 刀匠 河内國平作刀展
50	関西学院大学博物館開設準備室	特別展 関西学院の美術家 ～知られざる神戸モダニズム～
51	九州国立博物館	重要文化財新指定記念 日朝交流の軌跡 対馬宗家文書 8 万点の調査を終えて
52	九州国立博物館	美のワンダーランド 十五人の京絵師
53	九州国立博物館	ベルリン国立美術館展 学べるヨーロッパ美術の 400 年

No.	寄贈者	書名
54	九州国立博物館	ボストン美術館 日本美術の至宝
55	九州国立博物館	江戸の粋、印籠<トピック展示>フィンランド・クレスコレクション
56	九州国立博物館	東風西声 九州国立博物館 紀要 第8号 2012
57	九州国立博物館	大分県豊後高田市・円福寺所蔵 木造大応国師坐像 修理報告書
58	九州国立博物館	江戸のモダニズム 古武雄 まぼろしの九州のやきもの
59	九州大学総合研究博物館	九州大学ミュージアムバスプロジェクト
60	京都・大学ミュージアム連携実行委員会	京都・大学ミュージアム連携活動報告書 2011年度～2013年度
61	京都国立近代美術館	京都国立近代美術館 50年史 1963→2013
62	京都大学総合博物館	総合博物館年報 平成23年度、平成24年度
63	京都府立丹後郷土資料館	秋季特別展 丹後国府と中世都市「府中」～雪舟の描いた景観～
64	鯨祭りをはじめとする湊・出島観光地域活性化実行委員会	堺出島鯨祭り
65	公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構	ロシアが見たアイヌ文化
66	公益法人 阪急文化財団	阪急文化研究年報 第二号 2013年
67	神戸大学大学院海事科学研究科	海事博物館研究 年報 2012(平成24年度) No.40
68	神戸大学大学院海事科学研究科 海事博物館	海事博物館 企画展 図録 2012
69	神戸大学大学院人文学研究科海港都市研究センター	海港都市研究 第9号
70	郡山古文書クラブ	和州郡山藩 幕末代官記録
71	国土交通省北陸地方整備局 長野県埋蔵文化財センター	中野市 千田遺跡 千曲川替佐・柳沢築堤事業関連 埋蔵文化財発掘調査方向書 -中野市内その1-
72	国立民族学博物館	世界の織機と織物
73	国立民族学博物館	洪沢敬三記念事業 屋根裏部屋の博物館
74	(財)長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター	掘ってわかった信州の歴史
75	堺市博物館	堺市博物館研究報告 第32号 平成25年3月
76	真田宝物館	松代藩と黒船来航
77	滋賀大学経済学部附属資料館	研究紀要 第46号
78	滋賀大学経済学部附属資料館	平成25年度企画展 滋賀大学経済学部創立90周年記念 彦根高商の日々 聞け黙々として語る史書
79	静岡県博物館協会	研究紀要 平成24年度 第36号
80	鳥根大学ミュージアム	鳥根大学ミュージアム年報 平成23,24年度
81	鳥本教育委員会	鳥本町文化財調査報告書 第22集
82	鳥本教育委員会	鳥本町文化財調査報告書 第23集
83	鳥本教育委員会	大藪浄水送水施設整備(土木・建築)工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
84	鳥本町歴史文化資料館	鳥本町歴史文化資料館 館報 第5号
85	吹田市立博物館	平成25年度春季特別展 大僧正 行基展 なぜ菩薩とよばれたか
86	西南学院大学	西南学院大学博物館研究紀要
87	西南学院大学	西南学院大学博物館年報 第5号 2012
88	西南学院大学博物館	九州の初任教師ズ IV 平戸松浦家の名宝と禁教政策 -投影された大航海時代とその果てに-
89	仙台市博物館	仙台市博物館調査研究報告 第32,33合併号
90	仙台市博物館	館蔵名品図録
91	総合研究大学院大学	特別講義講義録(第)24号 中近世移行期の公家家職の展開
92	総合研究大学院大学	特別講義講義録(第)25号 絵本名義考
93	総合研究大学院大学日本文学研究専攻	特別講義<第26号> 漱石と英国史
94	総合研究大学院大学日本文学研究専攻	特別講義<第27号> 日記史料から見た伊勢式年遷宮用材の調達
95	総合研究大学院大学日本文学研究専攻	特別講義<第28号> 『栄花物語』における“事実”の問題
96	総合地球環境学研究所	総合地球環境学研究所 要覧 2013
97	たばこと塩の博物館	嗅ぎたばこ入れ
98	たばこと塩の博物館	2012年度版 たばこと塩の博物館 年報 第28号
99	筑紫野市歴史博物館	ふるさと館ちくしの 筑紫野市歴史博物館 年報12(平成22年度), 13(平成23年度)
100	筑波大学	シンポジウム「ミュージアムとしての大学キャンパス」
101	筑波大学芸術系 美術史研究室	石井コレクション研究2 国吉康雄
102	帝塚山大学考古学研究所	帝塚山大学考古学研究所研究報告 XV
103	東京芸術大学美術部	平成25年度東京芸術大学卒業・終了政策作品集
104	東京大学史料編纂所	東京大学史料編纂所研究成果報告 2013-2 史料デジタル収集の体系化に基づく歴史オン トロジー構築の研究 研究成果報告書
105	同志社大学歴史資料館	同志社大学歴史資料館 館報 第16号
106	同志社大学歴史資料館(公財)京都市埋蔵文化財研究所	同志社大学歴史資料館調査研究報告第12集 相国寺旧境内・上京遺跡発掘調査報告書 同志社大学丸キャンパス建設に伴う発掘調査

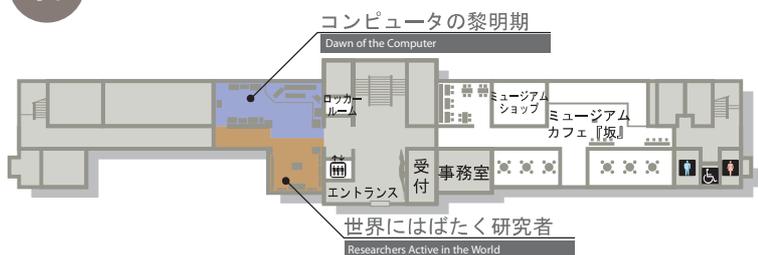
No.	寄贈者	書名
107	東北学院大学	博物館年報 平成 23 年度 Vol.3
108	東北福祉大学	芹沢銚介美術工芸館 年報 4 2012
109	独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所	保存科学 第 52 号
110	富山大学 和漢医薬学総合研究所 民族薬物資料館	民族薬物資料館 生薬目録 [I]
111	長崎大学環境科学部 環境教育研究マネジメントセンター	環境教育研究マネジメントセンター年報 地域環境研究 第 5 号
112	名古屋市科学館	名古屋市科学館紀要 第 39 号 2013
113	名古屋市博物館	研究紀要 第 36 巻 2013
114	名古屋市博物館	年報 平成 24 年度 No.36
115	奈良大学博物館	版木さまごま 芭蕉・蕪村・秋成・一茶も勢ぞろい
116	西宮市立郷土資料館	西宮歴史調査団年報 2011 年度版
117	西宮市立郷土資料館	第 29 回特別展示案内図録 西宮の前方後円墳 - 津門稲荷山古墳をさぐる -
118	西宮市立郷土資料館	西宮歴史踏査団・調査報告書第 2 集 西宮の地蔵
119	根津美術館	山口県立萩美術館・浦上記念館名品展 やきものが好き、浮世絵も好き
120	根津美術館	戦国武将が憧れたうつわ 井戸茶碗
121	根津美術館	密教絵画 鑑賞の手引き
122	根津美術館	琳派コレクション
123	根津美術館	根津美術館紀要 此君 第四号 二〇一二年 特集 春日信仰の絵画と史料
124	兵庫県立芸術文化センター	薄井憲二バレー・コレクション 目録 第 2 巻 書籍類・雑誌
125	福井県立歴史博物館	福井県立歴史博物館紀要 第 10 号
126	福井県立歴史博物館	ミュージアムスタイル Vol.7
127	福井県立歴史博物館	ふくいの面とまつり
128	福井県立歴史博物館	特別展 染付 戦国大名が愛した魅惑のうつわ
129	福井県立若狭歴史民俗資料館	官報 平成 24 年度
130	佛教大学宗教文化ミュージアム	佛教大学宗教文化ミュージアム研究紀要 第 9 号 2012
131	北海道大学総合博物館	北方四島調査報告
132	北海道大学総合博物館	環オホーツク海地域における前近代交易網の発達と諸民族形成史の研究 北海道大学総合博物館研究報告 第 6 号
133	北海道大学総合博物館	知られざるクリル・カムチャッカ ロシアから見た境界のイメージ
134	松代文化施設等管理事務所	松代<付・年報> 第 26 号 (2012 年)
135	松代文化施設等管理事務所	真田宝物館収蔵品目録 真田家旧蔵資料目録 - 能楽・楽器 -
136	道修町資料保存会	第 20 回道修町文化講演会
137	八尾市立歴史民俗資料館	研究紀要 第 24 号
138	八尾市立歴史民俗資料館	平成 25 年度特別展 河内木綿 綿から木綿ができるまで
139	八尾市立歴史民俗資料館	特別展 八尾の考古学
140	山口大学埋蔵文化財資料館	山口大学埋蔵文化財資料館年報 - 平成 21 年度 -
141	山口大学埋蔵文化財資料館	見鳥ジーコンボ古墳群 第 152・153・155・156 号墳出土資料調査報告
142	立命館大学国際平和ミュージアム	軍医殿！腹をやられました インパール作戦ビルマ敗走記
143	立命館大学国際平和ミュージアム	立命館平和研究 立命館大学国際平和ミュージアム紀要 第 15 号
144	龍谷大学文学部博物館実習室	2012 年度 博物館実習報告 第 31 号
145	和歌山県立博物館	和歌山県立博物館年報 Vol.15 平成 17 年度～平成 23 年度
146	和歌山県立博物館	黄河と泰山展 - 中華文明の源と世界遺産 -
147	和歌山県立博物館	特別展 紀伊国柿田荘と文覚井 - 水とともに生き、水を求めて闘う -
148	和歌山市立博物館	平成 24 年度和歌山市立博物館官報 No.28
149	和歌山市立博物館	平成 25 年度夏季特別展 海人の世界 - 発掘された海辺のくらし -
150	和歌山市立博物館	市電が走っていた街
151	和歌山市立博物館	和歌山市立博物館 研究紀要 第 28 号
152	和歌山大学紀州経済史文化史研究所	紀州経済史文化史研究所紀要 第 33 号
153	和歌山大学紀州経済史文化史研究所	和歌山大学とその周辺の生き物たち
154	和歌山大学紀州経済史文化史研究所	西岡虎之助 民衆史学の出発
155	和歌山大学紀州経済史文化史研究所	紀州経済史文化史研究所紀要 第 34 号
156	和歌山大学紀州経済史文化史研究所	2013 年度特別展 絵葉書 そのメディア性と記録性



「知」を軸に人・モノ・情報が出会い、交流し、新たな「知」の創造を目指す。

大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館のご案内

1F



コンピュータの黎明期 Dawn of the Computer

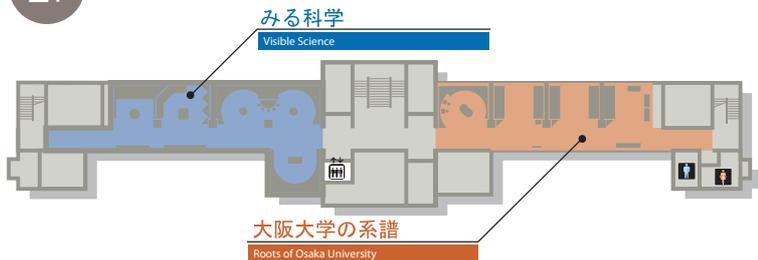
阪大では、第二次世界大戦後まもなく真空管式コンピュータの研究と試作を始めました。その当時誕生したばかりの真空管式コンピュータと、時代の先駆を担った研究者たちを紹介しています。

世界にはばたく研究者 Researchers Active in the World

ノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹が、中間子論を着想した大阪大学物理学教室。当時、日本の科学の中心といわれた理学部の自由な研究環境、そこに関わりのある様々な研究者を紹介しています。

ミュージアムカフェ「坂」 Museum Café「SAKA」

2F



みる科学 Visible Science

みる科学 Visible Science

光学顕微鏡、電子顕微鏡、超高压電子顕微鏡のしくみや、細胞より小さい分子の構造や、仕組みを明らかにするX線構造解析などの技術と、それらを利用した研究の一端を紹介しています。

大阪大学の系譜 Roots of Osaka University

大阪大学の系譜 Roots of Osaka University

かつての懐徳堂、適塾といった大坂市民の学問からの流れを継承し、今日まで受け継がれてきた大阪大学。その学問や研究活動と、社会との関わりの歴史を紹介しています。

3F

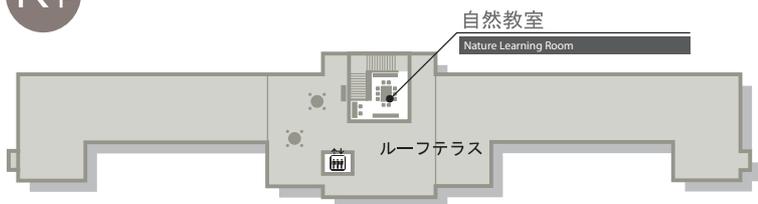


待兼山に学ぶ Learning from Machikaneyama

待兼山に学ぶ Learning from Machikaneyama

阪大豊中キャンパスが位置する待兼山。古代の生物や、地形の変遷から、現在の豊かな自然の中で棲息する生き物の営みまで、地域に根ざしその変化を解明する研究を紹介しています。

R F



自然教室 Nature Learning Room

自然教室&ルーフテラス Nature Learning Room

阪大キャンパスは豊中、吹田共に自然がいっぱいです。自然教室内に設置されたPCでは「阪大キャンパスに咲く花」を検索することができます。また、ルーフテラスに出れば背後の待兼山の息吹を感じることができます。

編集後記

2013年には夏休み期間中に二企画展を実施するなどの新しい試みもあり、これまでで最も多い4つの長期の展覧会を年度内に開催しました。これも学内外の方に多くの協力をいただくことができたおかげで、資料の拝借だけでなく企画そのものについてもご助力いただきました。特に冬の企画展は文学研究科の研究成果の公表であり、来館者の方も非常に熱心に資料を見ておられたのが記憶に残っています。4回の展覧会の期間が長かったため、従来からのサイエンスカフェの開催日数が少なくなってしまったことは悩ましいことでした。また他の博物館との連携事業としてシンポジウムを開催できたことも、これからの館の新しい方向性を示すものになったと思います。年報には現れていない2013年度の活動として博物館のホームページの更新を行いました。ホームページを含めて博物館の広報活動はまだまだ改善を続けていく必要があると考えていますので、ご意見をいただければ幸いです。

(文責 宮久保 圭祐)

大阪大学総合学術博物館 年報 2013

2014年12月発行

編集・発行 大阪大学総合学術博物館
〒560-0043 豊中市待兼山町1-13
印刷 株式会社 セイエイ印刷
〒536-0016 大阪市城東区蒲生2-10-33

表紙デザイン 辻村紀子 (アトリエツジムラ)

